

レニ有リヤニ付内心危惧ノ念ヲ抱ク者アル旨ヲ述ヘタル後
米國人トシテハ日本カ支那ニ新市場ヲ開拓スルコトニ對シ
排他的ナラサル限り之ニ異議ヲ唱フル者無シ唯手段トシテ
武力ニ訴へ(サル)コト肝要ニシテ今一ハ突然ノ聲明書ヲ發
表シテ世間ニ「センセーション」ヲ與ヘサルコト必要ナリ
過般ノ對支政策聲明ノ如キモ遺方ニ依リテハアレ程ノ反響
ヲ捲起サヌシテ列國ヲ納得セシメ得タルニアラスヤトモ考
ヘラル尙日本ノ一部ニハ米國カ日本ノ進運ヲ「チエツク」
シツツアリトカ或ハ支那ヲ手先ニ使ヒテ日本ニ當ラシメツ
ツアリトカノ誤解アルカ如キモ米國ニハ絶對ニ斯ル考無シ
ト信ス自分ノ聞ク所ニテハ蔣介石ハ隨分日本虜負ナリト云
フコトナルヲ以テ精々之ヲ利用シ日本側ニ於テモ「ハーブ、
ウエイ」ヲ歩ミ出シテ成ルヘク速ニ日支間ノ難問ヲ「コン
ポーツ」スルコトニ努メラレンコトヲ望ム旨ヲ附言シタリ

尙「アンダーソン」(往電第六八號參照)ハ頻リニ「ヤング、
チャイナ」ノ祖國建設ニ對スル意氣ヲ買ツテ遣ルヘキモノ
アル所以ヲ說キ支那經濟復興ニ付テハ地理的關係上其ノ利
益ノ最大部分ヲ收得スルモノハ日本ナルニ拘ラス聯盟カ其
ノ復興ヲ援助セントスルニ對シ日本カ反對スルハ腑ニ落チ
サル所ナル旨ヲ述ヘ近衛公ヨリ從來ノ經濟援助ハ支那ノ政
狀ヲ混亂セシムル結果トノミナリ居ルカ故ニ贊成シ得サル
ナリト答へ之ニ對シテモ「ア」ハ執拗ニ聯盟ノ事業ハ續行
セシメ差支無キノミニマラス結局日本ノ爲ニモ利益ナラスヤ
ト繰返シ述ヘ居リタリ

英、米ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

ポーツ

五 満州国をめぐる諸問題

1 一般問題

469

昭和9年1月9日 在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国銀行法の日本側銀行への適用に關し我
が方の自發的協力を満州国側要望について

付記一 昭和八年十二月二十一日發在吉林森岡(正平)

總領事より広田外務大臣宛電報第三三二号

右適用は不当であり満州国政府に抗議方菱刈

大使に要請について

二 昭和八年十二月二十七日發広田外務大臣より

在滿州国菱刈大使宛電報第一一五七号

右適用は不当につき満州国政府より事情調査

方訓令

三 昭和八年十二月五日付、通商局第三課永井(洵)
一)嘱託作成

「滿洲國銀行法令ニ關スル件(私見)」

新 京 1月9日後発
本 省 1月9日後着

第一六號

客年貴電第一一五七號ニ關シ

當館係官ヲシテ財政部理財司長ニ付取調ヘシメタル處本件
通牒ハ外國銀行ニ對シ一律送附セラレタルハ事實ナルモ財
政部ニ於テハ治外法權國銀行ニ對シ本件銀行法ニ件フ取締
殊ニ帳簿ノ検査、營業許可ノ許否取消其ノ他供托金ノ提出
要求等ヲ強制的ニ適用セントスルモノニ非ス只財政部トシ
テハ全滿ニ亘リ金融狀況ヲ知悉スル必要アルヲ以テ此ノ際
日本側銀行ニ於テモ差支無キ限り自發的ニ銀行法ニ規定ス
ル書類ヲ提出シ滿洲國側金融政策遂行ニ共助スルコトシ
度ク當方ノ盡力ヲ懇請ノ次第アリタルヲ以テ係官ニ於テ治
外法權ノ關係上本件滿洲國側取締ハ日本側銀行ニ對シ全然
強制力ヲ有セサル旨駄目ヲ押シタル上尙考究ノ上出來得ル

限り右滿洲國側希望ニ副フ様力ムル旨答へタル趣ナリ
然ルニ本件書類ハ各銀行ヨリ直接財政部ニ提出スルモノナルヲ以テ地方官憲ノ介在ニ依ル弊害等ノ憂無キモノト思考セラルニモ鑑ミ日滿關係ノ現状ヨリ觀テ此ノ際日本側銀行ニ於テ自發的ニ書類ヲ提出セシメ其ノ後ノ滿洲國側ノ實際上ノ措置振ヲ監視スルコトシ然ルヘキヤニ認メラル
處本件ニ關スル貴見何分ノ儀御回示ヲ仰ク
奉天、哈爾賓、齊々哈爾、問島、安東、營口、鄭家屯、錦州、赤峰ヘ轉電セリ

(付記一)

吉 林 昭和8年12月21日後発
本省 昭和8年12月21日後着

第三二二號

本官發滿宛電報

第二二六號

合普通第三九六號貴信ニ關シ

財政部總長ハ十二月十四日附訓令第四一八號ヲ以テ今回公布ノ銀行法及同施行細則ヲ外國銀行ニモ適用スル趣旨ニ基

處本件ニ關スル貴見何分ノ儀御回示ヲ仰ク
奉天、哈爾賓、齊々哈爾、問島、安東、營口、鄭家屯、錦州、赤峰ヘ轉電セリ

(付記二)

本省 昭和8年12月27日後7時発

第一一五七號

吉林發貴大使宛電報第二二六號ニ關シ

本問題ニ關シ更ニ廿六日奉天發電通ハ滿洲國政府ハ國內銀行ノ統制ヲ期シ從來慣行上認メ來レル外國銀行ノ支店出張所等ニモ一律ニ滿洲國銀行法同施行細則ヲ適用スルコトナリ明年六月三十日迄ニ營業許可願ヲ提出スヘキ旨通牒ヲ發シタル旨報シ居レル處申迄モナク本件銀行法令ノ如キハ治外法權國諸銀行ニハ適用ナキ次第ナルニ付テハ一應滿

洲國側ニ就キ此間ノ事情御取調ノ上萬一前記報道等ニシテ事實ナルニ於テハ滿洲國側ノ注意喚起方可然御措置アリタシ
奉天、哈爾賓、吉林、齊々哈爾、營口、安東、鄭家屯、錦州、赤峰ヘ轉電セリ

(付記三)

滿洲國銀行法令ニ關スル件(私見) 八、十一、五

本件滿洲國銀行法令ハ發布直前滿洲國側ヨリ我方ニ内示越アリタルモ別ニ帝國政府ニ對シ本法令ヲ邦人ニ適用スルコトニ關シ承認ヲ要請越サヌシテ公布セラレタルヲ以テ本件法令ハ我方ト何等關係ナキ次第ナリ從テ右法令ハ邦人ニ適用ナキハ勿論今後萬一滿洲國側ニ於テ本法令ヲ邦人銀行ニ適用セムトスルカ如キ事案發生セハ滿洲國側ノ措置ヲ撤回セシメサルヘカラサル次第ナリ

然ル處本件法令發布ニ關シ茲ニ考慮スヘキ問題アリ即チ邦人ハ現在滿洲國法ニ遵ヒ續々諸般ノ滿洲國法人ノ首腦者トナリ事業ヲ經營シ居レルカ銀行業ニ關シテモ今後邦人中滿洲國政府ノ支配下ニ於テ經營セムトスルモノヲ生スヘシ此

キ當地本邦各銀行ニ手續ヲ命シ來レル處治外法權撤廢以前ニ於テ滿洲國政府カ外國銀行ニ對シ斯ル命令ヲ發スル事ハ不當ナルヲ以テ貴方ヨリ財政部ニ抗議方相顧度差當リ本官示シテハ當地各日本銀行ニ對シ右命令ニ服ス可カラサル旨示達シ置キタリ
新京ヘ轉報ヲ請フ
大臣、奉天、哈爾賓、齊々哈爾、營口、安東、鄭家屯、錦州、赤峰ヘ轉電セリ

新規銀行ニ關シテハ嚴ニ濫設ヲ避ケ一地一行ヲ本則ト

一、各銀行間ニ營業地盤ヲ協定セシムルコト

等將來ノ金融整備將又金融混亂恐慌等ヲ防止スル根本施設ヲナスノ要アリト思考ス尤モ或ハ此種日滿銀行濫設ノ弊ヲ

防止セムトセハ館令ヲ改正シ居留民ノ銀行經營、銀行投資、

銀行經營參加ニ關シ一律許可制度ヲ採ラハ可ナリトノ意見

アラムモ右ハ餘リニ取締ニ走リ邦人ノ經濟發展ヲ慮ラサル

モノナルヲ以テ面白カラスト思考ス

次ニ日滿關係ニ顧ミ本件法令ニ對シ何時迄モ冒頭所述ノ如

キ水臭キ態度ヲ以テ臨ムハ好マシカラサル所ナルカ去逆本件法令ノ部分的又ハ全般的適用ヲ認ムルコトハ治外法權問題ニモ重大ナル影響ヲ及ホスヘキヲ以テ右ハ詮議困難ニ屬シ結局好意アル態度ヲ示ス限度ハ銀行法規トシテノ態容實質ニ關シ我方専門家ニ於テ研究ヲ遂ケ之カ完璧ヲ期セシムル一方治外法權撤廢ノ際我方銀行ニ適用スルニ當リ不都合ナキ様豫メ匡正セシムルコト之ナリ

要スルニ本件法令ハ差詰メ之カ運用ニ關シ我方銀行トノ關係ヲ整調スル爲ノ協調手段ヲ講スルト共ニ治外法權撤廢準備ノ法典ノ一トシテ之カ完璧ヲ期セシムルノ要アリト思考

470 昭和9年1月11日 在滿州國菱刈大使より

広田外務大臣宛(電報)

在奉天米國總領事より滿州國財政部への同国

石油輸入関税率区分方法改善要請について

新京 1月11日後発

本省 1月11日後着

第二四號

奉天發本使宛電報第五號ニ關シ

在奉天米國總領事十日來訪當館係官同伴財政部ニ稅務司長ヲ訪問シ石油關稅問題其ノ後ノ成行ニ付質問シタル上其ノ後日本產石油カ輕油トシテ引續キ多量ニ輸入セラレ通關後石油トシテノ貼紙ヲ貼付シ燈火用トシテ賣出サレ居ル爲英米關係石油業者ハ著シク打擊ヲ受ケ居ル次第ヲ述ヘ何等力は正策ヲ講セラレ度キ旨要望シタルニ對シ稅務司長ハ改メテ事情ヲ調查考究ノ上打開策ヲ講スヘキ旨約シタルヲ以テ同總領事ハ滿足ノ意ヲ表シ引取りタル趣ナリ

尙八日ニハ在大連英國領事代理モ來館係官ニ對シ本件解決

促進方御盡力アリ度キ旨申出ノ次第アリタル趣ナリ
奉天へ轉電セリ

471 昭和9年1月18日 在滿州國菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州國帝制實施に関する同國總務廳長の新聞

記者への談話について

付記一 昭和八年十二月二十二日、閣議決定

「滿洲國ニ於ケル君主制實施準備ニ關スル件」

二 外務省編『外務省公表集』第七輯より抜粋

「滿洲國ノ帝政實施ニ關スル外務當局談」

(付記一)

滿洲國ニ於ケル君主制實施準備ニ關スル件

往電第四〇號ニ關シ

十五日遠藤總務廳長カ君主制實施ニ關シ當地日滿記者幹部ニ内話セル要點左ノ通

一、(イ)即位ノ期日

(ロ)籌備委員會(開會)ノ度數及內容ノ一部

與ヘツツアルコトハ否定シ難キ所ナリ仍テ滿洲國側ニ於テ

ハ右政體問題ニ基ク不安ヲ除去スル爲成ルヘク速ニ現在ノ

執政制度ヲ改メ君主制ヲ實施セんコトヲ考慮シ居ル趣ナル

カ右ハ既ニ極メテ順調ニ建設ノ歩ヲ進メツツアル滿洲國ノ

地位ヲ内外ニ強固ナラシムル上ニ於テ頗ル時宜ニ適スト認

メラル處他方君主制實施ニ伴フ弊害ヲモ豫想セラルヲ

以テ此際帝國トシテハ滿洲國君主制實施ニ關シ同國ニ於テ

憲法及皇室令等ノ制定ト切離シ左記ニ依リ之カ準備ヲ爲シ

其ノ完了ヲ俟ツテ君主制ヲ實施スル様滿洲國ヲ指導スルコ

トト致度

一、君主制ノ實施ハ斷シテ君主側近ノ獨裁制タル清朝ノ復辟

ニアラスシテ新興ノ滿洲國トシテノ國體ヲ確立スルモノ

ナルコトヲ明ニシ苟モ滿洲國國務ノ進展ト帝國國策ノ遂

行トヲ阻礙スヘキ原因ノ絶無ヲ期シ就中近ク際會スルコ

トアルヘキ國際的危險ヲ克服スルタメ必要ナル日滿兩國

國防力ノ增强擴充ニ寄與セシムヘキコト

從テ君主制實施ニ當リテハ左記三大要綱ニ則ルコト

(1)君主制實施ニ當リテハ滿洲國國務ノ進展ト帝國國策ノ

遂行ヲ阻礙又ハ牽制スルコト無カラシムル爲現政府組

織法以下重要法令ニ再検討ヲ加ヘ國務院ノ強化及參議府ノ改善其ノ他必要ナル修正ヲ行フ

(2)現執政府内部就中其ノ人事等ニ根本的改正ヲ加ヘ將來

永遠ニ亘リ宮中府中ノ別ヲ素ルコト無カラシメ宫廷政

治ノ弊ヲ未然ニ芟除ス

(3)君主制ヲ實施スルモ帝國ノ滿洲國指導ノ方針及要領ハ

從來通リトシ何等ノ動搖ヲ來サシメサルニ留意シ帝國

ノ對滿國策遂行ニ支障ナカラシム之カ爲從來ノ日滿兩

國間ノ條約取極等ハ君主制實施ト共ニ滿洲國側ヲシテ

之ヲ確認セシムルト共ニ特ニ外交上ノ指導權ヲ明確ナ

ラシムルコトシ在滿菱刈大使ト鄭國務總理トノ間ニ

大要別紙(省略)ノ如キ書翰ノ往復ヲナス様手配ス

三、君主即位宣言ノ起草ハ特ニ慎重ヲ期シ滿洲國君主制ノ意

義ヲ明カニシ且日滿兩國ノ不可分關係ヲ明澈ナラシムル

ト共ニ右ニ對スル外國側萬一ノ誤解乃至惡宣傳ヲ未然ニ

防止スルニ意ヲ用フルコト

三、正式憲法ノ制定及發布ハ帝國其ノ他各國ノ實例乃至滿洲

國ノ實情ニ徵シ最モ慎重ヲ期スルノ要アルヲ以テ將來適

當ナル時期ニ於テ之ヲ實施スル様其ノ研究ヲ繼續スルコ

ト

(付記二)

滿洲國ノ帝政實施ニ關スル外務當局談

(一月二十日公表)

滿洲國執政閣下ノ明德、天意ニ感應シ、天命ニ遵由シ

テ登極セラルコトニ決定シ同國政府ハ帝制準備ニ着手シタトノ報道ニ接シ、外務當局ハ隣邦日本ノ立場カラノ觀測トシテ大要左ノ通語ツタ。

一、溥儀執政閣下カ、滿洲國建國以來約二ヶ年間執政トシテ賢徳ヲ積マレ、善政ヲ布カレタ結果滿洲國民三千萬ハ至情ヲ盡シテ執政ノ登極ヲ渴望シ、最近ニハ無數ノ請願トナツテ現ハレタノテアルカラ、登極ハ同國民ニ對シ非常ナル満足ヲ與ヘルモノテアル。

二、最近漸ラ逐ウテ鞏固ヲ加ヘツツアル滿洲國ノ國礎ハ、登

極ニ依ツテ益確立セラレ、政府ノ威望モ益加重セラレ、國家トシテモ人民統治上非常ナル利益ヲ見ルニ至ルテアラウ。

三、今回ノ登極ハ清朝ノ復辟ハナク、滿洲國カ一昨年三月

~~~~~

テアル。(以下省略)

472 昭和9年1月23日 広田外務大臣より  
在滿州國菱刈大使宛(電報)

滿州國銀行法に対してもよき旨回訓  
触しない限り協力に応じてもよき旨回訓

## 第七五號

貴電第一六號ニ關シ

一、滿洲國財政當局方全滿金融狀況調査ノ必要上本邦側諸銀行ニ就キ金融關係ノ書類ノ提出ヲ求ムルニ對シテハ我方トシテハ治外法權ニ關スル建前ヲ明ニシタル上出來得ル限り之ニ協力シタキ意嚮ナルモ右ノ範圍ヲ越へ我方諸銀行ニ對シ滿洲國銀行法令ヲ適用シ供託金ノ提供、免許ノ申請、其ノ他帳簿ノ検査等諸般ノ強制ヲ加フルコトハ我方トシテ容認ノ限ニ在ラサルコト申ス迄モナキ次第ナリ

(本件ニ關シテハ支那ニ於ケル我方治外法權ニ及ホスヘキ影響ヲモ考慮ノ要アリ)就テハ滿洲國側ニ於テ前記ノ如キ金融調査ノ必要アル場合ハ一律貴方へ調査ヲ要スル銀行名及調查事項等ヲ照會セシメ貴方ヨリ差支ナキ限り之ヲ關係銀行ニ通達シ右ニ對スル銀行側ノ書類ヲ蒐集ノ上之ヲ滿洲國側ニ交付スルコト致度ニ付右ノ次第御含ノ上適當御處理相成度シ

二、尙滿洲國側ニテハ我方銀行カ本件法令ニ服セルコトヲ樞ニ同法令ヲ英米銀行ニ及ホサムトスル底意アル由ニテ我

473 昭和9年1月23日 在ハルビン森島(守人)總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

内地移民收容を目的とする関東軍の土地買収

計画について

ハルビン 1月23日後発  
本省 1月24日後着

<sup>(1)</sup> 第四三號  
本官發滿宛電報

第四四號

關東軍ニ於テハ今回滿鐵ヨリノ資金二百萬圓ヲ以テ將來ノ内地移民收容ヲ目的トシ密山縣内八十萬町歩及佳木斯附近、樺川、依蘭、勃利ノ三縣ニ亘ル地域百二十萬町歩ヲ東亞勸業公司ノ手ニテ買收スルコトトナリ(決定地區内ノ官有地ハ廉價拂下ヲ受ケ民有地ハ買收ノ上商租スルモノトス)梅谷移民部長、小川拓務省書記官其他特務部員花井勸業專務等二十二日來哈二十三日師團參謀長司會ノ下ニ會議ノ結果同參謀長ヲ委員長トスル農地買收委員會成立シ(當館ヨリ長岡副領事委員トナル)二月一杯ニテ完了ノ豫定ヲ以テ最近開始ノ筈ナル師團ノ同方面匪賊討伐ノ期間内ニ右買收ヲ終了スル手筈ニテ現買收班第一班(密山方面)及第二班(佳木斯方面)共班長ヲ特ニ今回出動ノ聯隊長ヲ以テシ縣側トモ聯絡ノ上急速進捗ノコトトナレリ

本計畫ニ關シテハ一月十三日附ニテ小磯參謀長ニテ申入レ同意取付

務廳長宛滿洲國建設ニ功勞有リシ軍人及犠牲者遺族ヲ待遇スル趣旨ナル旨ノ通牒ヲ發セル一方吉林省長ニモ農地開拓ヲ目的トシ日滿兩國人共ニ收容スルモノニテ且現住者ハ民實行迄ハ其ノ儘トナシ置クモノナル事ヲ申入レ同意取付濟(但シ省長ヨリ各縣へ示達濟ナリヤ否ヤハ不明ニテ特務

方銀行カ形式的ニ免許ヲ申請セムコト等ヲ希望シ居レルヤノ聞込アル處右事實トセハ我方トシテ右ノ如キ滿洲國側ノ希望ヲ容ル餘地ナキコト前記「ノ通ナルノミナラス英米銀行ニ本件法令ヲ適用セムトスルハ治外法權問題ニ關シ不必要ニ紛議ヲ惹起スル虞モアリ時宜ニ適セサル措置ナリト認メラルニ付右可然滿洲國側へ傳達置アリ度シ

奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、間島、安東、營口、鄭家屯、錦州、赤峰へ轉電セリ

~~~~~  
方銀行カ形式的ニ免許ヲ申請セムコト等ヲ希望シ居レルヤノ聞込アル處右事實トセハ我方トシテ右ノ如キ滿洲國側ノ希望ヲ容ル餘地ナキコト前記「ノ通ナルノミナラス英米銀行ニ本件法令ヲ適用セムトスルハ治外法權問題ニ關シ不必要ニ紛議ヲ惹起スル虞モアリ時宜ニ適セサル措置ナリト認メラルニ付右可然滿洲國側へ傳達置アリ度シ

第一〇四號(至急)

認方上申

474 昭和9年1月29日 在滿州國菱刈大使より
廣田外務大臣宛(電報)

大使館内に設置される警務部の構成要綱案承

新 京 1月29日前着
本省 1月29日前着

關東憲兵隊司令官、關東廳警務局長及大使館參事官會同シ協議ヲ爲シ參謀長ヨリ關東廳側モ大使館警務部ノ構成ニ對

五 満州国をめぐる諸問題

シ協力スヘキ意嚮アル旨ヲ述ヘ同警務首脳機構ノ強化ヲ計
ル爲憲兵隊司令官ニ警務部長事務ヲ囑託シ關東廳警務局長
ヲ大使館警務顧問タラシメ尙囑託憲兵將校及關東廳ヨリ外
務省兼任トシテ職員ヲ配置シ警務ニ關シ全權大使ヲ補佐セ
シメ圓滑且合理的ニ警務統制ノ實ヲ擧ケ度旨ヲ語リ一同之
ニ異議無キヲ述ヘタルニ依リ右ニ對シ三長官ノ決裁ヲ得現
地案トシテ之ヲ決裁シ三長官ヨリ本件解決後ニ於テ一層相
協力セラレ特ニ軍ノ分散配置撤收後ニ於テ滿洲國ノ治安維
持ニ努力スヘキ訓示ヲ爲シ次テ三長官臨席ノ下ニ警務部構
成ノ要綱ヲ審議シ左ノ如ク協議ヲ經タリ

實質上本省原案ノ趣旨ヲ逸セス然モ在滿警務各機關ノ圓滿
協力上此ノ際最善ノ案ナルニ付特ニ承認ヲ請フ

一、警務部ニ第一課(從來ノ警務課)第二課(從來ノ保安課)及

第三課ヲ置ク

二、第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

(一)治安維持ニ關スル警務事項

(二)高等警察ニ關スル事項

(三)危險物取締ニ關スル事項

(四)外事警察ニ關スル事項

- (五)警衛警備ニ關スル事項
- (六)出版警察ニ關スル事項
- (七)第三課ノ所管ニ屬セサル保安警察事務ニ關スル事項
- 三、第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - (一)警察取締諸營業ニ關スル事項
 - (二)消防水防其ノ他ノ災害ニ關スル事項
 - (三)交通警察ニ關スル事項
 - (四)風俗警察ニ關スル事項
 - (五)寄附金募集ニ關スル事項
 - (六)普通刑事行政及犯罪即決ニ關スル事項
 - (七)衛生警察ニ關スル事項
 - (八)防疫ニ關スル事項
 - (九)阿片ノ取締ニ關スル事項
 - (十)各課ノ構成

(一)第一課長(大使館書記官)囑託將校一名(兼務)兼任警部
一名

右ノ外書記生又ハ外務省警部二名及同巡查三名ヲ配屬

ス

(二)第二課長(囑託憲兵將校一名)囑託憲兵將校一名大使館

ス

書記官一名及兼任警部一名
右ノ外書記生又ハ外務省警部三名及外務省巡查四名ヲ
配屬ス

(三)第三課長(兼任事務官)外務省警視又ハ警部一名及兼任

警視又ハ同警部一名竝ニ兼任警部補一名右ノ外務省

巡查二名ヲ配屬ス

(四)監察官囑託憲兵將校一名外務省警視一名又ハ理事官一名兼任警視一名監察官ハ必要ニ應シ適當ニ各課事務ヲ
兼務セシム

軍部憲兵隊司令部關東廳側ト協議濟ミニシテ軍ヨリ陸軍次
官及參謀次長ヘ關東長官ヨリ外務大臣ヘ夫々電報シ尙軍ヨ
リ陸軍次官ヘ囑託憲兵將校發令方電稟セラル
奉天、哈爾賓、吉林、間島、安東、錦州、赤峰、鄭家屯、
營口ヘ轉電シ在滿各領事ヘ暗送セリ

~~~~~

475 昭和9年1月29日 在滿州国菱刈大使より

広田外務大臣宛(電報)

関東廳警務局長の不満など大使館警務部構成  
要綱の立案に関する背後事情について

リ是位ノ讓歩ニテ現状ノ協力ヲ得ラルヘシトセハ本省ニ於テモ別ニ御異存無キコト思考シ本官一存ニテ今向ノ妥協案ニ賛成セシ次第ナリ

右御了承ヲ請フ

奉天へ轉電セリ

476 昭和9年1月30日 広田外務大臣より  
在満州国菱刈大使宛(電報)

(付記)  
桑島亞細亞局長殿  
谷參事官  
(別添)  
桑島亞細亞局長殿

### 大使館警務部の構成要綱案は不満足ながら事

#### 情やむを得ず承認方回訓

付記

二月五日付在満州国谷(正之)大使館参事官より桑島亞細亞局長宛半公信

警務部成立に伴う兼任警察官の移管問題につ

いて

本省 1月30日後6時50分発

第九五號

貴電第一〇四號ニ關シ

右ハ當方ノ主張トハ掛離レタル節アルモ事情已ムヲ得サルモノト認メ承認ス

(イ)翌年度ヨリ兼任警察官ト其ノ豫算トヲ外務省側ニ移管スルコト  
ノ三方針ヲ決定セラレタリ

今回警務部成立ノ結果右ノ中(イ)及(ロ)ノ點ハ既ニ之カ實現ヲ見殘ル處ハ最後ノイノ點ノミトナレルカ今日迄ノ關係各方面ノ空氣ニ照シ如何ニシテ之カ實現ヲ圖ルヘキヤニ付テハ慎重考慮ヲ要スルモノアルヘシ

### 三、移管ノ必要

前述ノ如ク移管ハ本省ノ既定方針ニシテ今更其ノ必要ヲ喋々スルノ要ヲ見ス帝國領事館警察中其ノ執行スル館務

ノ内容ニ何等差違ナキニ拘ラス其ノ内專任、兼任ノ別ヲ設ケ南滿、北滿ト地域のニ對立シテ人事及豫算ニ就キ其ノ指揮系統ヲ異ニスルカ如キハ實際上將又精神上幾多ノ摩擦ヲ生セシムル原因ニシテ殊ニ直接人民ニ權力ヲ行使スル警察機關ニ在リテ然リトシ之カ爲延テ主務官廳間ニ

感情ノ尖銳化スルニ至レルハ過去ノ實例ノ示ス所ナリ

今回從來ノ感情ト行懸トヲ一掃スルノ方針ノ下ニ警務部ノ成立ヲ見タリト雖モ前記根本原因ノ芟除セラレサル限り到底圓滿ナル國策ノ遂行ハ期シ難ク切角ノ警務部モ之

カ爲却ツテ破綻スルニ至ル虞ナシトセス右ハ警務部成立ノ結果移管カ不能トナルカ如キ場合ニ於テ殊ニ然リトス三、移管ニ對スル關東廳側ノ態度

惟フニ本件ハ將來問題トナルコトアルヘキ最高統制機關問題ニ對スル對策ヲ考慮ニ入レ早キニ臨ンテ解決スヘキモノニシテ殊ニ從來關東廳側ニ於テハ大使館ニ有力ナル警務首腦部無キノ故ヲ以テ移管ニ反対シ來レルニ顧レハ今ヤ關東廳側モ贊意ヲ表スルニ至レル警務首腦部ノ成立ヲ見タル今日本件ハ解決ヘノ一步ヲ踏ミ出セルモノト謂ハサル可カラス

然ルニ關東廳及拓務省側ノ方針ハ從來唱導セル理由トハ正反對ニシテ却ツテ警務部ノ成立ニ依リ萌セル三機關ノ階調的氣分ヲ利用シ移管ノ問題ヲ葬リ去ラントスルノ情勢ニアリ

### 四、移管問題ト撤退問題

此ノ間ニ在リテ關東廳側ノ勢力ヲ新事態ニ適應スル様調整シ移管ノ問題ヲ既定方針通り解決セシムル爲ニハ警務部ノ成立ハ關東廳側豫テノ主張ヲ考慮シ移管ノ前提トシテ行ヘルモノニシテ警務部ノ成立ニ依リ之ヲ拋棄スルモ

ノニアラサルコトヲ強調スル一方萬一最惡ノ場合ハ治安恢復ノ結果其ノ必要無キニ至レリトノ理由ノ下ニ兼任警

察官ノ南滿撤退ヲ要求スルノ準備ヲ整ヘ外務省來年度ノ豫算及人事ニ就キ豫メ考究シ置クコト肝要ナルヘシ(例

ヘハ支那本部ニ於ケル外務省警察官ヲ増員シ置キ必要ノ場合滿洲方面へ振向ケルコト、其他所要幹部候補者ノ養成等)但シ撤退ニ關スル問題提起ノ時期ハ御大典ヲ済マセ夫レニ引續キ行ハルヘキ軍ノ分散配置撤收後ニ於ケル成績ヲ見究メ更ニ七、八月ノ繁茂期ヲ経過シタル後九月ノ候治安相當確立セラルヘク豫想セラル時期ニ及ヒ豫算ノ編成事務酣トナルヘキ頃ヲ見計フコト可然

(以上)

477 昭和9年2月2日 在満州國菱刈大使  
廣田外務大臣宛

米英側よりの石油輸入関税率区分方法改善要請

公機密第一一一號 (接受日不明)

昭和九年二月一日

在満洲國

特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿洲國石油輸入關稅ニ關スル件

首題ノ件ニ關スル其後ノ成行ニ關シテハ一月上旬往電及一月二十日附機密公第六〇號ヲ以テ申進置キタル處最近當館係官ヨリ稅務司長ニ對シ滿洲國側調查研究ノ結果ヲ尋ネタルニ同司長ハ日本產石油ハ輕油トシテ通關後良種ノ石油等ヲ混合シタル上燈用トシテ耐工得ル様按配シ石油トシテ賣出サレ居ル次第ナルヲ以テ稅關トシテハ如何トモシ難キ旨述ヘタルヲ以テ係官ヨリ上海々關ニ於ケル取扱振、英米石油業者ニ満足ヲ與フルコトハ決シテ滿洲國ノ稅關收入ノ減少ヲ意味セス若シ日本產石油モ一律稅番四九五ニ依リ通關スルコトトナラハ滿洲國ノ收入ハ著シク增加スル所以等ヲ述ヘ機會均等ノ見地ヨリ本件取扱改正ノ望マシキコトヲ告ケタルモ同司長ハ滿洲國トシテハ英米業者ノ利益ノミヲ取入ルル譯ニハ行カス日本石油業者ノ利益モ亦擁護セサルヘカラストテ結局本件英米側申出ヲ拒絶セル趣ナリ惟フニ本件ハ滿洲國ニ於テ石油ノ專賣ヲ實施スル場合ニハ當然自然

壓迫シ居ルノ事實アリヤ否ヤヲ確ムル意向ナリ右御含迄本信寫送付先 奉天

478 昭和9年3月1日 広田外務大臣  
斎藤實内閣總理大臣宛  
「滿洲國皇帝即位に關し上奏について  
付記一 三月一日  
人普通第一一五號  
昭和九年參月壹日  
二 右來翰訳文  
「滿洲國帝政實施ノ際ニ於ケル日滿交換公文」

ハ滿洲國ノ門戶開放、機會均等主義實施ノ「テストケース」トシテ海外ニ於テ相當重要視セラレ居ル所以ハ御存シノ通ニシテ更ニ石油專賣制度實施ノ曉英米側ニ於テ囂々タル非難ノ起ルヘキハ今ヨリ明カナルヲ以テ專賣制度實施迄尠クトモ半年以上(特務部係官ノ語ル處ニ據レハ七月以後實施ノ由)ノ餘裕アル今日滿洲國トシテ襟度ヲ示シ英米側ニ或ル種ノ満足ヲ與フルコト時宜ニ適シタル所置ト思考セラル處滿洲國側ノ言ヒ分ト英米側ノ夫レトノ間ニ多少事實ニ相違アルヤニ認メラルヲ以テ此ノ際當方トシテハ然ル可キ方法ニ依リ現状ヲ調査シ日本產石油カ不當ニ英米石油ヲ

(別紙)  
上奏案  
滿洲國皇帝陛下即位ノ儀ニ關シ別紙ノ通上奏致候間右可然御取計相成度此段申進候也

627

滿洲國皇帝陛下即位ノ儀ニ關シ別紙寫ノ通同國駐劄特命全

權大使菱刈隆ヨリ電報有之候條此段謹ナ奏ス

昭和九年三月一日

廣田外務大臣

鄭孝胥(印)

昭和九年三月一日新京發同日外務省着電

廣田外務大臣

菱刈大使

滿洲國執政溥儀閣下本一日滿洲帝國ノ帝位ニ即カセラル尙

即位式ハ午後零時十三分終了セリ

(付記一)

(來翰)

滿洲帝國國務總理大臣鄭

照會事滿洲國於康德元年三月一日

執政登極爲

滿洲帝國皇帝以立君主制本總理大臣特將此事向

貴大使知照並請

貴大使轉達貴國政府爲荷本總理大臣於此機會希望兩國間所存特別且緊密之關係益加深厚相應照會

正當委任茲將以上各節向

貴大使知照相應照會

貴大使查照可也須至照會者

右 照 會

日本帝國特命全權大使菱刈

貴大使查照可也須至照會者

右 照 會

日本帝國特命全權大使菱刈

康德元年三月一日

鄭孝胥(印)

康德元年三月一日

鄭孝胥(印)

(往翰)

以書翰啓上致候。陳者本年三月一日附貴翰ヲ以テ、滿洲國二於テハ康德元年三月一日執政滿洲帝國皇帝ノ位ニ即カレ、茲ニ君主制樹立セラルニ至リタル趣御通報ノ上之ヲ帝國政府ニ傳達アリタキ旨御申越相成敬承致候。

本使ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ、帝國政府ニ於テハ右御通報ノ趣ヲ諒承スルヲ欣快トスル旨閣下ニ回答スルノ光榮ヲ有シ候。

本使ハ此ノ機會ニ於テ兩國間ニ存スル特別且緊密ナル關係カ益深厚ナランコトヲ希望致候

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。敬具。

昭和九年三月一日

日本帝國特命全權大使 菱刈 隆(印)

滿洲帝國國務總理大臣 鄭孝胥閣下

以書翰啓上致候陳者閣下ハ本年三月一日附貴翰ヲ以テ左ノ

編注 本交換公文は二通の来翰のうちの前者とこれに対す  
る往翰のみが三月一日に公表された。

(付記二)

以書翰啓上致候。陳者本總理大臣ハ滿洲國ニ於テハ康徳元年三月一日執政滿洲帝國皇帝ノ位ニ即カレ、茲ニ君主制樹立セラルルニ至リタルコトヲ閣下ニ通報シ、且閣下ヨリ之ヲ貴國政府ニ傳達セラレンコトヲ希望スルノ光榮ヲ有シ候。

本總理大臣ハ此ノ機會ニ於テ、兩國間ニ存スル特別且緊密ナル關係カ益深厚ナランコトヲ希望致候。

右申進旁本總理大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具。

康徳元年三月一日

滿洲帝國國務總理大臣 鄭孝胥(印)

日本帝國特命全權大使 菱刈 隆閣下

以書翰啓上致候陳者滿洲帝國皇帝御即位ニ關スル康徳元年三月一日附閣下宛本總理大臣書翰ニ關シ滿洲帝國ハ現ニ滿

康徳元年三月一日

479 滿洲帝國國務總理大臣 鄭孝胥(印)  
昭和9年3月13日 在チチハル内田(五郎)領事より  
日本帝國特命全權大使 菱刈 隆閣下  
黒河に外務省出先機関設置の必要につき意見眞申  
チチハル 3月13日後着

本省 3月13日後着

第四三號

洲國ガ日本帝國又ハ日本帝國臣民トノ間ニ有スル條約、取極又ハ契約ヲ尊重スペキコトヲ茲ニ聲明スルト共ニ大同元年九月十五日調印ノ滿洲國日本國間議定書ノ趣旨ニ據リ滿洲帝國ノ外交ニ關スル事項其ノ他國家共同防衛上必要ナル事項ニ付必ズ豫メ日本帝國ニ充分且隔意ナキ協議ヲ遂グルコト致度候本總理大臣ハ正當ノ委任ヲ受ケ右閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

右申進旁本總理大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具。

康徳元年三月一日

滿洲帝國國務總理大臣 鄭孝胥(印)

日本帝國特命全權大使 菱刈 隆閣下

在チチハル内田(五郎)領事より  
広田外務大臣宛(電報)

黒河に外務省出先機関設置の必要につき意見眞申

チチハル 3月13日後着

本省 3月13日後着

第四三號

本官發滿宛電報

第三七號

往電第三五號黑河ヲ中心トスル黑龍江沿岸國境方面ニ於ケル露國側ノ軍事施設ハ昨年一月馬占山殘黨ノ敗走ニ次テ我特務機關以下乘込み以來ノコトニ屬シ爾來同地方在留者及旅行者ノ主ナル者ハ軍人ノミニシテ是等ハ露國側ト何等ノ接觸無ク睨合ノ態度ニアリシ爲黑河鐵道ノ起工ト相俟テ痛

ク露國側ノ神經ヲ尖ラセ其ノ結果相當露國側軍事施設ヲ促進セシメタルヤニ認メラル節アリ特ニ我某機關ハ一般日滿人ノ露國側トノ接觸應酬ヲ嚴禁シ居タルヤニテ(此ノ點

第一案、黒河警察分署ヲ領事分館トシ副領事及書記生一名ヲ配置スルコト(武市領事館ハ書記生一名ニ減員シ可ナリヲ認ム)

第二案、分館設置困難ナラハ副領事ヲ黑河ニ出張セシムルコト

第三案、右二案共ニ不可能ノ場合ハ二ヶ月ニ一回位本官黒河ニ出張シ武市領事トモ聯絡事態ノ惡化防止ニ對シ善處スルコト

大臣へ轉電セリ

五 满州国をめぐる諸問題  
軍部ニハ祕密トセラレタシ露國領事ハ鮮カラス日滿側ニ不快ト不安ヲ抱キ其ノ鬱憤ヲ本官ニ訴ヘタル位ナリ從テ是等不平者ヨリ出ツル報告、情報ハ蓋シ日滿兩國ニ不利ナルモノ多カルヘキハ想像ニ難カラス兩國中央政府國策ノ趨ク處ハ別トシテ出先現地ニ於テハ成ルヘク誤解ヲ是正シ不必要ナル事態ノ惡化防止ニ努メサルヘカラサルモノト信ステ滿洲里「ポグラ」ニ劣ルコト無ク鐵道工事ノ進行及水路交通ノ開始ト共ニ益々其ノ重要性ヲ加フヘキカ故ニ露國側

480 昭和9年3月13日 在ハルビン森島總領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

土龍山付近において飯塚連隊長戦死との情報  
について

ハルビン 3月13日後発

本省 3月13日後着

第一九六號 本官發滿宛電報

第一六四號

一、歩兵第六十三聯隊長飯塚大佐ノ指導スル討伐隊ハ過般ノ討伐後引續キ佳木斯附近ニ於テ治安工作ニ任シ居タル處九日依蘭附近ニ匪賊集合暴動ヲ起セルノ情報有リシニ付十日朝飯塚聯隊長ハ手兵ヲ率ヒ満軍宗參謀長以下満軍兵士三十名ト共ニ現地ニ向ヘル處(匪賊説得ノ目的ヲ有セシモノカ)土龍山村落(依蘭東方約十里)附近ニ於テ五百ヲ下ラサル匪賊ト衝突苦戰奮闘ノ結果飯塚大佐ハ戦死セルモノノ如シ

二、尙鈴木少佐以下十名餘ノ手兵モ全滅セルモノノ如ク又前記五百餘ノ匪賊ノ爲往電第四四號土地買上ニ關シ煽動セニ通告シ越セリ尙隨員氏名ハ追電ス

ラレ不平ヲ有シ暴動化スルニ至レル地方農民約千名雷同參加セルニ非スヤト思考セラルル處詳細未タ判明セス(本項ハ發表セラレ居ラサルニ付秘扱トセラレ度シ)  
大臣へ轉電セリ

481 昭和9年3月14日 在満州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

鄭孝胥國務總理大臣および熙洽財政部大臣を特使として日本に派遣する旨満州国外交部より通告について

付記一 三月二十七日付

「満洲國特使鄭孝胥及熙洽ノ言上振ニ對セラルル御答辭」

二 三月二十八日付、作成局課不明

〔鄭總理ノ廣田外相訪問會談ニ關スル覺書〕

新京 3月14日後発  
本省 3月14日後着

第三五八號(大至急)

三月十三日附ヲ以テ外交部大臣ヨリ鄭總理大臣及熙洽財政部

大臣ヲ特派赴日本國修聘特使トシテ日本ニ赴カシメ國書ヲ陛下ニ捧呈セシムヘキ旨及右特使ハ本月二十一日新京發廿二日大連發ノうらる丸ニテ廿五日神戶ニ上陸スヘキ旨正式ニ通告シ越セリ尙隨員氏名ハ追電ス

(付記一)

満洲國特使鄭孝胥及熙洽ノ言上振ニ對セラルル御答辭

貴國皇帝陛下カ特ニ卿等ヲ派シ本年三月一日貴國皇帝陛下登極ノ典禮成レルコトヲ傳達セシメラルト共ニ貴國建國以來ノ我國ノ援助ヲ謝シ併セテ將來ニ於ケル我國ノ匡助ヲ求メシメラルルヲ聞キ欣喜ニ堪ヘス

貴國ニ於テハ皇帝陛下ヲ始メ官民一致ノ倦ムコトナキ努力ニ依リ建國以來僅カ二ヶ年ノ間ニ着々ト其ノ建設ノ歩ヲ進メ庶政大ニ更張セラルニ至リ殊ニ今次ノ貴國皇帝陛下ノ御卽位ニ依リ國礎愈々固キヲ加ヘ王道善政ノ前途益々洋洋モノアルハ慶祝ニ堪ヘサル所ナリ

惟フニ日滿議定書等ニ基ク貴我兩國ノ特別且緊密ナル關係ハ東洋ノ安寧福祉ヲ確保スルノ根蒂タルノミナラス延テ世界ノ平和ト人類文化ノ向上トニ貢獻スル所以ニシテ朕ノ臣

ヒ相當資産アルモノ迄モ渡來ヲ希望シ居ル實情ニシテ又  
渡來者モ從來ハ多數ハ冬期ニハ歸郷セサル傾向トナレ  
リ、トノ趣旨ヲ述ヘタルヲ以テ

廣田大臣ヨリ

(イ)ニ對シテハ「通貨不足ノ點ハ尤モナルモ貨幣ノ價值ヲ下  
落セシメテ増發ヲ計ルコトハ不健全ナリトイフヘク滿洲

國ニ漸次產業興リ外國ノ資本モ入り來ルコトトナレハ其  
結果トシテモ流通貨幣ハ増加スヘシ」トノ趣旨ニテ答ヘ  
(ロ)ニツキテハ鄭大臣ノ眞意那邊ニ在リヤ聊カ警戒ヲ要スト  
認メラレタルニ依リ寧ロ「デイスカレツヂング」ノ態度  
ニテ可然應酬シ置キタリ。

482

昭和9年3月16日

在満州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

士龍山付近における飯塚連隊長以下の殺害事

件は関東軍が進める土地買収に対する地域住

民の不満が原因との極秘情報について

付 記 作成日不明、亞細亞局第三課作成

「土龍山事件概要(事件發生昭和九年三月十

第三八一號(部外極祕)  
哈爾賓發本使宛電報第一六四號ニ關シ  
谷參事官ヨリ

新 京 3月16日後発  
本 省 3月16日後着

相判明セサルモ十三日民政部警務司長ヨリ當館警務部長

ニ送附シ越セル通報(別途飛行便ニ依リ郵送)ニ依レハ第十師團ニ於テ客月初以來實施シ來レル依蘭、勃利兩縣ニ亘ル土地買收及兵器回収ニ端ヲ發シ殊ニ地券ノ強制徵收後未タ代價支拂ノ運ニ至ラサリシ爲一般農民ハ之ヲ以テ

土地ノ占領ト誤解シ暴動化シ十日ノ事件ヲ惹起セルモノノ如ク右事件即日依蘭駐屯第六十三聯隊ノ主力ハ滿洲軍ト共ニ土龍山ニ出動、十一日之ヲ擊退シタルモ同日出動ノ湯原駐屯騎兵第十聯隊及哈爾賓ヨリ到着ノ飛行機數臺ト共ニ逃亡暴民ヲ空陸相呼應シ討伐中ナル趣ナリ

二、本件ニ付テハ吉林省長ハ素ヨリ滿洲國要人ノ大ニ憂慮シ居ル處ニシテ事件ノ解決振如何ニ依リテハ一般人心ニ影

(欄外記入)

響スル處重大ナルモノアルヘク既ニ一部要人ノ間ニハ本件ヲ以テ王道政治並帝制實施ノ精神ニ逆行スルモノト評シ居レリ本官等ニ於テモ充分事態ノ重大ナルヲ指摘シ居レル處當國官憲並軍ニ於テモ事態ノ容易ナラサルヲ看取シ極力善處ニ努メ居レリ

從ヘ自動車ニテ土龍山ニ向ヒタル處途中土龍山東方約五里王家油房ニ於テ暴民及匪賊約六千ニ包圍セラレ飯塚聯隊長、村上指導官、王參謀長等ハ戰死シタル外日滿軍ニ多數ノ死傷者ヲ出シタリ

三、事件ノ原因

第十師團ニ於テハ内地人移住地トシテ依蘭、勃利、密山、阿城諸縣ヲ選定シ本年二月以來東亞勸業會社ヲ名義人トシテ土地ノ買收ニ着手シタル處(イ)買收價格著シク低廉(一晌當平均國幣一圓)ニシテ恰モ土地ヲ沒收スルカ如キ感ヲ與ヘタルコト事件ノ根本原因ナルカ此ノ外(ロ)買收ニ伴ヒ地券ヲ回收シタル結果地券ヲ擔保トスル金融ノ途ヲ閉塞シ住民ヲシテ困窮ニ陥ラシメタルノミナラス(ハ)偶々治安維持會ノ方針ニ依ル民間武器ノ回收モ同時ニ行ハレタル爲匪賊ニ對スル自衛ヲ脅威スルニ至リ又(ニ)在住民間ニ於テハ將來日本移民來住シ土地家屋ヲ占據シ原住滿洲人ハ追放セラル可シ等ノ流言モ行ハレタル等諸種ノ事情交錯シ結局土龍山地方ニ於ケル農民ハ匪賊ト合シテ暴徒ト化シタルモノト認メラル

一、事件ノ概要  
昭和九年三月九日依蘭縣第三區土龍山地方ニ謝文東等ヲ首領トスル匪賊及暴民蜂起シタル爲依蘭駐屯步兵第六十三聯隊(第十師團所屬)長飯塚大佐ハ狀況視察ノ爲村上依蘭縣警務指導官、王吉林軍參謀長、關依蘭縣警務局長、農務會長等ト共ニ翌十日日本軍廿名、滿洲國軍三十名ヲ

三、事件ノ善後措置

(付 記)

土龍山事件概要(事件發生昭和九年三月十日)

亞細亞局第三課

## (甲)日本側ノ措置

(A) 差シ當リ日本軍ノ出動ニ依リ匪賊及暴民ヲ擊退スルト共ニ他方滿洲國地方官憲ヲシテ在住民ノ鎮撫ニ努メシメタルカ

(B) 事件ノ根本原因ト目セラル土地買收ノ方法ニ付テ

ハ關東軍及滿洲國側ニ於テ協議ノ結果三月廿九日ニ至リ協議纏り軍側ノ買收工作ハ第十師團ノ交代歸還

(本年五月上旬)二件ヒ滿洲國ヲ主体トスル機關ニ於

テ之ヲ繼承スルコトトナリ(イ)買收價格ハ荒地ハ一晌

當リ國幣二圓ヲ標準トシ熟地ハ現地ノ事情ヲ參酌シ

二十圓以内トシ(荒地ノ内事實上熟地タルコト明白

ナルモノハ一晌當リ八圓ヲ追加ス(ロ)買收ニ伴フ商

租名義人ハ引續キ東亞勸業會社トシハ買收實施ノ順

序ハ依蘭及密山兩縣ヲ先トシ(ニ)現在ノ日本側出資資

金(三百萬圓)ヲ以テ不足スル時ニハ三百萬圓ヲ限度

トシテ滿洲國中央銀行ヨリ一時融通セシムル等ノ方

針ヲ決定セリ

## (乙) 滿洲國側ノ措置

前記ノ通關東軍ト協議ノ結果本件土地買收事務ヲ引繼

クコトシ吉林省公署三浦總務廳長、李民政廳長、國都建設局結城總務處長以下若干名ヲ二班ニ分チ派遣シ關係縣ノ實情ヲ調査セシメタル外四月五日國務院佈告ヲ發シ一般人民ハ流言ニ惑フ可ラサル旨等ヲ説示セリ

483 昭和9年4月2日 在奉天蜂谷(輝雄)總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

付屬地行政權問題に関する外務省の方針発表

の必要につき意見具申

奉天 4月2日後発

本省 4月2日後着

第一一〇號

四月二日附大連新聞ハ對滿國策樹立問題ニ關シ三十日閣議ニ重要進言セル永井拓相談トシテ附屬地行政權ノ關東廳移管ハ當然行ハル可キ處ニシテ特ニ教育機關移管ハ急務ナリトノ東京電報ヲ麗々シク掲載シ一方陸軍當局談トシテ三十日閣議ニハ何等附屬地行政權ノ問題ニ觸レ居ラストノ記事及滿鐵側ノ附屬地行政權ハ關東廳ヨリモ寧口大使館ニ委讓ス可キモノナリトノ反對論ヲ掲載スル等當地方ノ注意ヲ惹

吉林 4月18日後発  
本省 4月18日後着

第六八號(極秘扱?)

本官發滿死電報

第六二號

谷參事官へ左ノ通

キ居レル處今更繰返シ申進スル迄モ之無キコト乍ラ舊東北政權當時ナラハ兎モ角滿洲國成立ノ今日附屬地ノミニ局限セラレタル關東廳ノ行政施設カ今日ノ大勢ニ逆行スルノミナラス帝國政府對滿政策ノ根本義ト相容レサルハ論無キ處ニシテ帝國ノ對滿方針ニ最モ進取的ナル抱負ヲ有セラル拓相ニシテ尙右ノ如キ言ヲ爲サレタリトセハ右ハ拓務省屬僚ノ誤レル進言ノ結果ニ外ナラサルモノト信スル次第ナリ就テハ此ノ點外務省側ヨリ拓務當局ノ注意ヲ喚起セラルル様希望致度キト共ニ世論ヲ善導スル意味ニ於テ此ノ機會ニ本件ニ關スル外務當局ノ方針ヲ然ル可キ形式ヲ以テ積極的ニ發表セラルル様致度貴電合第三五一號ノ次第ハアルモ右特ニ稟申ス

滿、吉林、哈爾賓ヘ轉電セリ

~~~~~

484 昭和9年4月18日 在吉林森岡總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

滿州国における日滿両国人官吏融和のため日系官吏をすべて顧問とする制度への移行方意見具申

クコトシ吉林省公署三浦總務廳長、李民政廳長、國都建設局結城總務處長以下若干名ヲ二班ニ分チ派遣シ關係縣ノ實情ヲ調査セシメタル外四月五日國務院佈告ヲ發シ一般人民ハ流言ニ惑フ可ラサル旨等ヲ説示セリ

外無カル可ク右ハ本官カ從來抱持セル意見ナルノミナラス等何等力適當ノ改革ヲ行ヒ日滿官吏ノ精神的融和ヲ計ルノ顧問官制ヲ制定シテ主要事務ハ全部顧問部ヲ通過セシムル

之ヲ實際ニ徵スルモ現ニ警備及警察ニ關シ關東軍派遣現役

軍人ノ顧問ハ滿人官吏トノ折合至ツテ宜シク指導上顧問制

度カ曰系官吏制度ニ比シ遙ニ有效性ヲ認メラル處偶々最

近關東軍司令部ニ於テモ此ノ點ニ關シ考量シ居ルヤニ察セ

ラル節有リ現ニ來ル二十日新京ニ於テ開カル可キ全滿民

會代表者定期懇談會ニ對スル軍ノ諮詢事項トシテ思想上、

法律上、道德上並ニ滿洲國人ノ立場ヨリ見タル日系官吏ノ

身分所屬一定方針研究案ナルモノヲ掲ケ各地民會長宛内示

シ來レル事實有ルト共ニ當地三浦廳長ニ於テモ全然一個ノ

思付トシテ過般各廳長ヲ召集シ本問題ニ付内協議ヲ遂ケ某

中央要人ニ對シ個人的ニ意見具申ヲ爲シタルヤノ聞込モ有

リ旁外務省側トシテモ此ノ際本件ニ關シ研究ヲ遂ケ改革具

体案ヲ用意シ置ク事肝要ト認メラルニ付テハ來月開催ノ

領事會議ニ於テ此ノ問題ヲ議題ニ追加セラル様特ニ御配

慮ニ預リ度シ

本電部外極秘扱ヲ請フ

大臣、奉天、哈爾賓、間島、齊々哈爾ヘ轉電セリ

~~~~~

價切下ヲ斷行シ一方圓對國幣ヲ平價關係ニ置ク事望マシ  
ト謂フニ在ルカ如シ

二、之ニ反シ中央銀行其ノ他金融業者側ノ意見ヲ綜合スルニ  
今日ノ農作物下落ハ世界的生産過剩ニ原因スルモノナル

ヲ以テ通貨膨脹ニ依リ之ヲ救濟スルコトハ不可能ナルノ

ミナラス無計畫ナル通貨膨脹ハ國幣ノ信用ヲ失墜シ所謂

資本逃避ヲ來スコト明カナリ農民救濟ノ根本策ハ寧口農

作物ノ種類ノ變更(今日滿洲國ハ米國小麥五千圓ヲ輸入

シ居レリト)ニアリト爲シ居ルカ如シ

三、一ト頃百十四、五圓ニ上レル國幣ハ昨今七圓見當ニ下  
向キツツアリ右下落ノ一因ハ銀相場ニ依ルモノト看做サ

レ居ルカ如キ處二十三日中銀山成副總裁ハ其ノ下落ハ中  
銀トハ何等關係無キ所ニシテ恐ラク市中ノ「インフレ」  
ニ關スル「デマ」ニ動カサレタルモノニテ元來「インフ

レ」ハ政府ノ方針ニ依ルモノニシテ中央銀行トシテハ目  
下何等「インフレ」ヲ考ヘ居ラス且ツ所謂「インフレ」

政策ハ之ニ依リ商工業者ヲ救濟スルコトニアルモ生產統

制ノ困難ナル農業ハ却テ其ノ反対ノ結果ヲ生スル惧アル  
コト過去ノ實例ノ示ス所ナリトテ「インフレ」反對論ニ

485 昭和9年4月24日 在奉天蜂谷總領事より

広田外務大臣宛(電報)

不況対策としてのインフレ助長論に対し満州

國中央銀行副総裁反対表明について

奉天 4月24日後発

本省 4月24日後

第一三九號

最近ニ於ケル農村ノ疲弊ト經濟界ノ不況救濟対策ニ付テハ  
昨今巷間國幣通貨膨脹問題論議セラレツツアル處本件ニ關

シ關係各方面ノ意見一、二左ノ通

一、去ル二十一日日滿實業懇談會篠崎幹事來奉ヲ機ニ當地商  
工會議所主催ニテ開催ノ座談會(省公署及日滿實業家代  
表十數名出席)ニ於テノ多數意見ハ

(イ)、農民疲弊ノ主因タル特產ノ對外輸出杜絶ハ畢竟爲替  
關係ニ原因ス

(ロ)、國內商工業ノ不振亦國幣高ノ爲日本品ニ對抗シ得ス  
ル、國幣ト金圓トニ開ヲ生スルコトハ日滿合資企業上不  
便大ナリ

等ノ理由ヨリ此ノ際適當ノ「インフレーション」或ハ平

付 詳細ナル説明ヲ發表シタリ

満支ヘ轉電セリ

486 昭和9年4月26日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

関東軍より滿州國側への日滿經濟統制方策要綱内示について

付記 三月三十日、閣議決定

「日滿經濟統制方策要綱」

新 京 4月26日後発  
本省 4月26日後

第六〇三號

二十五日關東軍ニ於テ滿洲國側遠藤總務廳長、宇佐美顧問、  
筑紫參議等參集ヲ求メ谷參事官立會ノ上參謀長ヨリ四月七  
日附亞三機密第一九八號御來示ノ日滿經濟統制方策要綱ヲ  
内示シタルカ滿洲國側ヨリ本要綱ヲ極秘トスルモ結局滿人  
側ニ秘スルコト困難ナルヘキヲ以テ寧口日滿合作ノ精神ヲ  
徹底セシムル見地ヨリ適當ナル文體ニ改メ滿人側ニモ承知  
セシムルコト必要ナルヘク又本要綱ニ掲ケラレ居ラサル農

業移民ノ根本策ニ關シテモ豫メ兩國間ニ了解ヲ取結フコト

肝要ナル旨ノ希望ノ開陳アリタルニ對シ軍側ヨリ然ルヘク

研究スヘキ旨應酬シタリ

### (付記)

#### 日滿經濟統制方策要綱

##### 第一 統制方針

日滿經濟ノ進展ニ付テハ滿洲國ヲシテ帝國ト不可分關係ヲ有スル獨立國家トシテ進歩發展セシムル根本方針ニ基キ兩國ノ共存共榮ヲ精神トシ兩國國民生活ヲ安定向上セシムルト共ニ帝國ノ對世界的經濟力發展ノ根基ヲ確立シ併セテ滿洲國ノ經濟力ヲ強化スルヲ目的トシ概不左ノ方針ニ依リ日滿經濟統制方策ヲ樹立スルモノトス

一日滿經濟ヲ特ニ一組織体トシテ合理的ニ融合スルヲ目標

トシ兩國ノ資源賦存ノ状況、既存產業ノ状態乃至國民經濟發達ノ情勢ヲ較量シ適地適應主義ニ則ルコト

二日滿兩國ノ國民全體ノ利益ヲ基調トシ現下經濟上ノ弊害ヲ是正スルコト

三 國際情勢ニ適應スル様平時及非常時ニ通スル日滿兩國ノ

組織的經濟ノ確立ヲ期スルコト

### 第二 一般統制要綱

一 满洲ニ於ケル交通、通信其ノ他ノ事業ニシテ帝國國防上ノ要求ニ制約セラルモノハ之ヲ帝國ノ實權下ニ置キ適當ナル統制ヲ加ヘテ速ニ其ノ發達ヲ期ス

二 前號ノ範圍ニ屬セサル滿洲ノ事業ニ付テハ概ネ滿洲國ノ行政ノ下ニ於テ内外人ノ公正自由ナル基礎的事項ニ付テハ

ムルモ日滿經濟運營上特ニ重要ナル統制ノ下ニ日滿兩國ノ金融組織ノ間ニ圓滑ナル調和ヲ保タシメ且我國資本ト滿洲資源トノ間ニ有效適切ナル連絡ヲ具現スルモノトス、尙日滿經濟統制ノ方針ヲ害セサル範圍ニ於テ適當ナル第三國ノ投資ヲ誘致ス

四 滿洲ニ於ケル產業ノ發達上必要ナル技術又ハ勞力ヲ供給スル爲一定ノ統制ノ下ニ成ルヘク多數ノ邦人ヲ滿洲ニ移植ス

五 日滿兩國ハ特ニ其ノ外國ノ供給ニ依存スル資源ノ保育ニ力ヲ致スト共ニ相互ニ他方ノ確實且良好ナル市場タラシム

#### セシムルモノトス

- 1 交通及通信ニ關スル主要事項
- 2 鐵鋼業
- 3 輕金屬工業
- 4 石油業
- 5 代用液体燃料工業
- 6 自動車工業
- 7 兵器工業
- 8 鉛、亞鉛、ニッケル、石綿等ノ原礦採掘業
- 9 石炭礦業
- 10 硫安工業
- 11 ソーダ工業
- 12 採金事業
- 13 電氣事業
- 14 伐木事業

### 第三 統制方法

滿洲ニ於ケル經濟ノ我國經濟トノ不可分關係ヲ深厚ナラシ

ムルヲ主旨トスルト共ニ門戶開放機會均等ノ原則ニ顧ミ各種事業ノ性質、態様乃至其ノ統制ヲ必要トスル事由等ニ應シ適當ナル行政的乃至資本的統制ノ措置ヲ講スルモノトス、其ノ概要左ノ如シ

一 左ニ掲クル種類ノ事業ニ付テハ原則トシテ滿洲ニ於テ當該事業ニ付支配的地位ヲ有スル特殊ノ會社ヲシテ經營セシム直接又ハ間接ニ帝國政府ノ特別ナル保護監督ヲ受ケシム、此ノ主旨ニ於テ適當ナル統制ヲ加フルモ右會社ニ

シテ未タ設立セラレサルモノノ國籍ハ概シテ滿洲國ニ屬

- 三 左ニ掲クル種類ノ事業ニ付テハ特ニ我國產業ノ實狀ニ顧ミ制限的主旨ニ於テ行政的統制ノ措置ヲ講ス
- 1 繊維工業
  - 2 米栽培
  - 3 養蠶
  - 4 汽船トロール漁業
  - 5 機船底曳網漁業
- 四 前三號ノ範圍ニ屬セサル滿洲ノ事業ニ付テハ郵便事業ノ國營、鹽、阿片其ノ他ノ專賣等ヲ除クノ外主トシテ自然ノ發達ニ委スルモ我國重要輸出品產業ニ付從前ノ關稅踏襲等ノ爲反面的ニ生セル生產條件ノ不公正ノ如キハ出來得ル限り速ニ之カ改正ヲ期シ其ノ改正實現ニ至ル迄ハ努力適當ナル中間的措置ヲ講ス
- 五 滿洲國ノ輸入稅ニシテ特ニ我國ニ於テ維持又ハ發達セシ
- 二 工礦業關係
- イ 鐵鋼業
  - ハ 石油業
  - 二 代用液体燃料工業
  - ホ 自動車工業
  - ト 鉛、亞鉛、ニッケル、石綿等ノ原礦採掘業
  - チ 石炭礦業
- 口 輕金屬工業
- 我國內既定計畫ト連繫ノ上其ノ急速ナル發達ヲ期ス
- ハ 石油業  
其ノ急速ナル發達ヲ期ス
- 二 代用液体燃料工業
- 右ニ同シ
- ホ 自動車工業  
我國內斯業ト密接ニ連繫協調シツツ其ノ急速ナル發達ヲ期ス
- ト 鉛、亞鉛、ニッケル、石綿等ノ原礦採掘業  
其ノ急速ナル發達ヲ期ス
- ヘ 兵器工業  
右ニ同シ
- ホ 自動車工業  
我國內斯業ト密接ニ連繫協調シツツ其ノ急速ナル發達ヲ期ス
- カ パルプ工業  
其ノ發達ヲ促進ス
- ワ 製鹽業  
其ノ發達ヲ促進ス
- ヨ 繊維工業  
現狀ヲ維持ス
- 日滿兩國ノ石炭礦業ノ緊密ナル統制ヲ圖リ兩國需給ノ

- 3 棉花栽培
- 4 緬羊飼育
- 5 製粉工業
- 6 油脂工業
- 7 製麻工業
- ムルヲ適當トル産業ニ關スルモノハ同國ノ財政ニ及ぶスヘキ影響ヲ考慮ノ上成ルヘク速ニ適正ナル調整ヲ行フ、之カ爲必要アルトキハ日滿貿易ニ障害ナキ品目ニ付キ之カ調整ヲ行フ尤モ農產物ノ輸入ニ付テハ我國農家經濟ノ輸入稅ヲ引上クルモ妨ナキモノトス
- 滿洲國ノ輸出稅ハ同國財政ノ許ス限り速ニ之ヲ廢止ス
- 六 我國ノ輸入稅ニ付テモ滿洲國ノ輸入稅ト同様ノ主旨ニ基キ之カ調整ヲ行フ尤モ農產物ノ輸入ニ付テハ我國農家經濟ノ實情ヲ考慮ス
- 七 日滿共同國防ノ爲必要ナル物品ニ付テハ其ノ日滿兩國間ノ移動ヲ容易ナラシムル爲適當ナル措置ヲ講ス
- 第四 事業別統制要綱
- 事業別統制ノ具体的方策ハ更ニ審議ヲ進メ急速ニ之ヲ樹立スベキモ其ノ統制要綱概ネ左ノ如シ
- 一 交通及通信業關係
- 滿洲ノ交通及通信業特ニ國內及日滿兩國間ノ交通及通信施設ヲ整備擴充シ且其ノ運營ヲ合理的ナラシムルコトハ國防乃至治安維持上最モ重要ナルハ勿論滿洲ノ經濟開發乃至日滿經濟統制上最喫緊事ナリ、特ニ鐵道及船舶ノ運賃ヲ一層適正ナラシムルニ付格別ノ努力ヲ致スモノトス

タ 製粉工業

其ノ發達ヲ促進ス

レ 油脂工業

右ニ同シ

ソ 製麻工業

右ニ同シ

ツ 製紙工業

我國內斯業ノ發達狀態ヲ考慮シ其ノ發達ヲ促進ス

ネ セメント工業

右ニ同シ

三 農業關係

イ 棉花栽培

其ノ急速ナル發達ヲ期シ計畫的ニ改良増殖ヲ圖ル

ロ 小麥栽培

我國內ノ需給狀態ヲ考慮シ其ノ計畫的改良增殖ニ付特ニ力ヲ用フ

ハ 米栽培

我國內ノ需給狀態ヲ考慮シ其ノ生產ヲ統制ス

二 養 蟻

我國内ノ需給狀態ヲ考慮シ其ノ計畫的改良增殖ニ付特ニ力ヲ用フ

- 9 人 參
- 10 果樹蔬菜
- 11 柞 蟻
- 12 粟

四 畜產關係

イ 緬羊飼育

其ノ急速ナル發達ヲ期シ計畫的ニ改良増殖ヲ圖ル

ロ 馬飼育

特ニ國防上ノ要望ヲ考慮シ其ノ計畫的改良増殖ニ付力ヲ用フ

ハ 牛飼育

其ノ改良増殖ヲ促進ス

五 林業關係

滿洲ノ森林開發ハ濫伐ヲ抑制シ保護撫育ニ努メ、更新方

法ヲ講スル等合理的經營ニ依リ林利ノ保續ヲ全ウシ治水及國土保安ニ資スルト共ニ日滿兩國ニ於ケル木材及パルプ原料トシテノ需要ニ應セシム

我國內ノ斯業ニ對スル影響ヲ考慮シ其ノ生産ヲ統制ス

(備考)

一 滿洲國ニ於テ積極的ニ改良増殖ヲ圖ルヘキ農產物概

ネ左ノ如シ

1 煙 草

2 麻 類

3 落花生及蓖麻等ノ油料種實類

4 ホップ

5 ルーサン

二 滿洲國ニ於テ品種改良ニ主力ヲ注ギ増殖ハ自然的ノ

發達ニ委スヘキ農產物概不左ノ如シ

1 大 豆

2 高 梁

3 玉蜀黍

4 陸 稻

5 大 麥

6 蕎 麥

7 粟

8 稗

487 昭和9年4月28日 在滿州國菱刈大使より

廣田外務大臣宛(電報)

滿州國銀行法に対する我が方協力の具体的措

置案につき請訓

別電 四月二十八日発在滿州國菱刈大使より廣田外

務大臣宛第六一三号

右措置案

新 京 4月28日後発  
本 省 4月28日後着

第六一二號

貴電第七五號二關シ

貴電ノ次第ハ當時係官ヲシテ口頭ヲ以テ然ルヘク滿洲國側ニ傳達セシメ置キタル處其ノ後外交部總長ヨリ公文ヲ以テ滿洲國銀行法發布ヲ通告スルト共ニ日本側ニ於テモ同法實

施ニ付協力セラレタキ旨申越シノ次第アリ更ニ外交部及財政部係官ヨリ當館係官ニ對シ頻リニ前記協力ノ實際的措置ニ付決定方督促シ居タルカ最近係官ノ間ニ於テ協議ノ結果別電第六一三號ノ如キ成案ヲ得タル趣ナル處此ノ程度ノ措置トシテ實行スルコトスルモ左シテ支障無キヤニ思考セラルルニ付此ノ趣旨ニ基キ各地領事ニ訓令シ度キ處其ノ後銀行法ニ基ク書類提出期日ノ近ツクト共ニ銀行方面ヨリ種々問合セノ次第アルニモ鑑ミ何分ノ儀御回電ヲ請フ

(別電)

新 京 4月28日後発  
本 省 4月28日後着

第六一三號

「滿洲國銀行法」ノ規定ニ依リ提出ヲ要ス可キ書類竝ニ諸届出ニ付テハ日本側銀行カ自發的ニ日本大使館ヲ經由シ提出スル様日本領事ニ於テ斡旋スルモノトス  
尙臨時報告ヲ必要トスル時ハ滿洲國財政部ハ其ノ都度日本大使館ニ依頼スルモノトス

外務大臣 廣田 弘毅殿

機密第三四六號 昭和九年四月二十八日附 菱刈大使宛往信寫送付

件名 三井物產ノ「ス」社製品販賣權取得ニ關スル件

機密第三四六號 昭和九年四月廿八日 機密第三四六號 在奉天

在滿洲國 特命全權大使 菱刈 隆殿

三井物產ノ「ス」社製品販賣權取得ニ關スル件

今般當地三井物產支店ニ於テハ米國「スタンダード、オイル、ヴァキユーム」會社ヨリ別添契約書(貨運)ノ通關東州内、奉天、新京、營口、安東、吉林、哈爾賓及其他滿鐵附屬地ニ於テ「ス」社製品ノ在滿日本人關係事業ニ對スル販賣權ヲ讓受ケタルカ右ニ關スル三井側ノ觀測ニ依レハ今般ノ「ス」

社ノ態度ハ從來滿洲國ニ於テハ明治初年ニ於ケル日本ノ如

ク外國商人力各自其商權ヲ維持シ來レル處今や滿洲ニ於ケ  
ル帝國ノ經濟的勢力ニ壓倒セラレ其事業ヨリ次第ニ後退ス  
ルニ至レルヲ證スルモノニシテ斯ノ如キ傾向ハ次第ニ各方面  
面ニ擴大スルニ至ルヘシトノコトナルカ他面「ス」社ニ於  
テハ滿洲國ノ石油政策等ヲモ薄々承知シ此ノ際右販賣權ヲ  
日本人ニ譲渡シ萬一ノ場合共同利益者ナル物產ヲ通シ少ク  
販賣額ヲ維持セントスル魂膽ニ非セヤトモ觀察セラル  
尙物產側ノ見込ニ依レハ燈油ノ販路ハ減少スルトモ增加ス  
ルコトナカルヘク此ノ際「ガソリン」及機械油等ニ全力ヲ  
盡ス意向ナル趣ナリ

新 京 4月28日後發  
本 省 4月28日後着

第六一三號

一、滿洲國銀行法ノ規定ニ依リ提出ヲ要ス可キ書類竝ニ諸届  
出ニ付テハ日本側銀行カ自發的ニ日本大使館ヲ經由シ提  
出スル様日本領事ニ於テ斡旋スルモノトス  
尙臨時報告ヲ必要トスル時ハ滿洲國財政部ハ其ノ都度日  
本大使館ニ依頼スルモノトス

488  
昭和9年4月28日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛  
米国石油会社より日本側商社への関東州およ  
び満州国各地における販売権譲渡について  
機密第四二三號  
(5月2日接受)  
昭和九年四月二十八日

488  
昭和9年4月28日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛  
米国石油会社より日本側商社への関東州およ  
び満州国各地における販売権譲渡について  
(5月2日接受)  
機密第四二三號  
昭和九年四月二十八日

施ニ付協力セラレタキ旨申越シノ次第アリ更ニ外交部及財政部係官ヨリ當館係官ニ對シ頻リニ前記協力ノ實際的措置ニ付決定方督促シ居タルカ最近係官ノ間ニ於テ協議ノ結果別電第六一三號ノ如キ成案ヲ得タル趣ナル處此ノ程度ノ協力ハ現在ノ日滿關係ニモ鑑ミ強制力無キ實際上ノ措置トシ

三、銀行ノ支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ノ新設許可並ニ其ノ變更又ハ讓渡若ハ廢止ニ關スル認可事項ニ付テハ日本領事ハ總テ日本大使館ニ請訓スルモノトシ其ノ際滿洲國銀行法ニ基キ添付スルヲ要スル書類ニ該當スル書類ヲ銀行ヨリ徵シ日本大使館ニ送付スルモノトス

新 京 5月6日後発  
本 省 5月6日後着

第六四五號(部外極秘)

樹谷カ特務部ヨリ得タル情報ニ依レハ佳木斯特別移住地ハ

現在全ク行詰リノ状態ニアリ今ヤ移住者全部ヲ歸國セシム

ルカ更ニ多額ノ經費(現入佳者ヲ引續キ現地ニ留マラシム  
ル爲ニハ現在ノ豫算以外ニ向フニヶ年間毎年最低二十五萬

圓ヲ要スル由)ヲ投シテ現状ヲ維持完成セシムルカノ二途  
ノ内一ヲ選フノ外無キ破目ニ陥リ居レルカ前者ハ本移住地

ヲ建設セル拓務省及之二干與セル關東軍ノ面目威信ニ關ス  
ルノミナラス滿洲移民ハ望ミ無シトスル一部ノ議論ヲ裏書

スルコトトナリ其ノ將來ニ及ホス可キ影響ニ想到スル時ハ  
如何ナル苦境ヲ忍フモ實行シ得サル處ナルヲ以テ後者ニ依

ルノ外無キ次第ナルモ最初ノ立案者タル拓務省ノ出先トシ  
テハ今更斯ノ如キ豫算案ヲ大藏省ニ提出スルモ到底成立ノ

見込無シト稱シ居レルヲ以テ特務部トシテハ已ムヲ得ス最

後ノ相談トシテ何トカシテ維持ニ必要ナル資金ヲ別途ノ方

法ニ依リ調達セント苦心シ居リ滿洲國ヨリ拓務省支出額ノ  
六割強ニ當ル金額ヲ移民團ニ既ニ補助セシメタル外匯害ニ

出資ニ依リ其ノ後土地買收ニ取掛レル實情ナリ又第二次  
移民ニ付テハ全然土地買收ノ當モナク今日迄ノ處半ハ強  
制的ニ滿人ノ土地及家屋ニ割込ミ居ル狀況ナリ

三、本件移民ニ付テハ昭和七年十月移民團ノ入植援助ノ爲移  
民團ト共ニ哈爾賓總領事館警察署員ヲ佳木斯ニ出張セシ  
メタルコトアリ又同月下旬哈爾賓總領事ニ於テ佳木斯ニ  
警官ノ臨時出張所ノ開設方ヲ考慮シタルコトアルモ同地  
方警備ノ任ニアリタル第十師團首腦部ニ於テ其ノ必要ナ  
カルヘシトノ意見ナリシニ依リ取止ムルコトトナリ現在  
同地方ニハ領事館警察官ノ駐在スル者ナシ

四、本件移民ニ對スル裁判權乃至取締權ハ理論上所轄領事官  
ニ屬スル次第ナルモ元來本件移民ハ前記ノ通武裝自衛移  
民トシテ拓務省及關東軍協議ノ結果計畫實施セラレ又入  
植後移住地ノ經營移民ノ指導等ハ拓務省之ニ當リ移住地  
ノ警備自衛ニ付テハ關東軍ノ指揮命令ニ從ヒ吉林軍顧問  
東宮大尉ノ區處ヲ受クルコトトナリ居ル次第ニシテ裁判  
權ハ別トシ領事官ニ於テ取締權ヲ充分ニ行使スルニ付テ  
ハ事實問題トシテ種々困難アル次第ナリ

五、尤モ從來在滿外務省警察官ハ軍ト協力シ匪賊討伐其ノ他  
リ支出ヲ仰ク方法等ヲ考慮中ノ趣ナリ

(付 記)

佳木斯移民ニ關スル件

依ル補助費等ノ名目ニ依リ豫備金其ノ他ヨリ別途大藏省ヨ  
リ支出ヲ仰ク方法等ヲ考慮中ノ趣ナリ

一、所謂佳木斯移民實施ノ經緯ニ付テハ第一次(昭和七年十  
月實施、入植人五百名、入植地吉林省樺川縣永豐鎮附近)  
及第二次(昭和八年七月實施、入植人五百名、入植地吉林省  
依蘭縣湖南營及七虎力附近)共ニ武裝自衛移民トシテ  
拓務省ト關東軍ト協議ノ結果計畫實施セラレタルモノニ  
シテ外務省側ハ右協議ニ全然與リ居ラス

二、本件移民ニ關スル土地入手ノ問題ニ付テハ本件移民ハ當  
初逆產ノ沒收又ハ無主地ノ入手ニ依リ所要ノ土地ヲ獲得  
スル建前ニテ實施セラレタルカ事實ハ之ニ反シ第一次移  
民ニ付テハ昨年漸ク四百四十町歩即一人當リ一町歩未滿  
ヲ入手シ得タルニ止マリ當初ノ豫定タル一人當リ十五町  
歩ヲ獲得スルコトヲ得ス去リトテ本件移民實施ニ關スル  
豫算ニハ前記ノ建前ノ關係上土地買收資金ハ全然計上セ  
ラレ居ラサル爲已ムヲ得ス關東軍特務部幹旋ノ下ニ滿鐵

治安維持ノ爲ニ全力ヲ注キ居リタル次第ナルカ今日ニ於  
テハ全滿ノ治安モ相當恢復セラレタルヲ以テ外務省警察  
トシテハ佳木斯ニ數名ノ警察官ヲ派遣シ得ル狀況ニアリ  
490 昭和9年5月13日 在滿州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

在滿州國領事會議における治外法權撤廃および  
付屬地行政權返還問題などの審議狀況について

新 京 5月13日前發  
本 省 5月13日前着

第六六五號

全滿領事會議ハ八日乃至十一日ノ四日間ハ日滿關係機關ヲ  
モ加ヘ十二日ハ部内者ノミニテ審議シ豫定通り同日全部ノ  
議案ヲ審了シタル處重要議案ニ關スル審議概要左ノ通  
一、治外法權撤廢問題ニ關シテハ滿洲國側ハ司法、稅制並ニ  
警察制度改善ノ爲銳意努力シ居ル實情ヲ説明シ領事側ノ  
意見ハ滿洲國側ニ對シ速ニ制度ノ完備充實ヲ期スル爲一  
大決意ヲ以テ具體的方策ヲ樹立實行センコトヲ要望スル  
ト共ニ出來得ル限り速ニ法權ヲ撤廢スルコト(ハ)滿洲國

ノ健全ナル發達並ニ帝國ノ對支其ノ他對外政策ヨリ見ル

モ極メテ緊要ナルヲ以テ各方面ニ於テ右方針ノ下ニ善處  
スト云フニ大體一致シタリ

ミナラス在留民指導上困難ナルニ付正式協定ヲ締結スル  
方針ノ下ニ滿洲國側トシテハ稅制並ニ警制ヲ整備スルト  
共ニ在留民ノ教育費負擔等ニ關シテモ充分考慮スルノ用  
意有ル旨ヲ述ヘ領事側ニ於テハ右ノ含ヲ以テ今後研究ヲ  
進ムルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ

三、附屬地行政權返還問題ニ關シテハ滿洲國側ハ附屬地行政  
權ノ存在ハ滿洲國建設上各種ノ障礙ヲ伴フヲ以テ速ニ返  
還セラレタシ其ノ爲ノ財政上ノ負擔其ノ他考慮スル旨說

明シ領事側ニ於テモ全滿ニ駐兵權ヲ有シ憲兵、警察官配  
置セラレ居ル今日舊政權時代帝國ノ對滿政策遂行ノ基地。  
トシテノ附屬地ノ使命ハ終了シタルモノナルノミナラス  
隣接滿洲國側都市ノ發達ト共ニ存在ノ理由漸次薄弱トナ  
レルヲ以テ租稅負擔等ニ付急激ノ變化ヲ起ササル方法ニ  
依リ速ニ（治外法權撤廢ニ先チ之ヲ考慮スヘシトノ意見  
モ出テタリ）返還スルコト適當ナリトノ意見ニ大體一致

セリ

四、兼任警察官問題ニ關シテハ各領事ヨリ各種ノ弊害ヲ述ヘ  
速ニ專任ニ引直シ方熱望シ一方外交部ヨリハ左記ノ如キ  
希望ヲ表シ來レリ

開埠地以外ニ駐在スル在滿日本警察官ハ領事館警察トシ  
テ承認シ居ル次第ニ付實質的ニモ形式的ニモ外務省警察  
官タルコトヲ認メ得ル様御考慮願度南滿各地ノ兼任警察  
官カ關東廳警察官其ノ儘ノ服裝ニテ各地ニ駐在シ居ルコ  
トハ主義上容認シ難キ所ナルニ依リ再考ヲ煩度シ

支、北平ヘ轉電セリ

491 昭和9年5月15日 在滿州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛（電報）

新 京 5月15日後発

本 省 5月15日後着

第六七三號

通商局長及亞細亞局長ヘ谷ヨリ

滿洲國石油專賣制度實施延期の必要性について

滿洲國石油關稅問題ニ關シテハ大臣ニ於テ早急解決方御希

望ノ趣本省出張員ヨリ承知シタルヲ以テ係官ヲシテ改メテ  
財政部當局ニ對シテ其ノ旨ヲ傳ヘ英米側要求ヲ容ルル様談  
合セシメタル處財政部總務司長ハ外務大臣ニ於テ特ニ御希望ナルニ於テハ英米側要求ヲ或程度迄容ルコトニ大体異議無キモ何分石油專賣制度ノ實施カ數箇月後ニ迫リ居ル今日斯ノ如キ處置ニ出ツルハ將來英米側ニ對シテ却テ反感ヲ與フルコト無キカラ惧ル處夫ニテモ差支無シトノ御意嚮ナルヤ今一應確メラレ度シト述ヘタル趣ナル處今日ノ國際狀勢ハ不必要ニ英米ノ對日感情ヲ害スルヲ避ク可キ事態ニ有ルコト勿論ト思考セラレ此ノ際英米側ノ滿洲國ニ對スル苦情タル本件ヲ穩便ニ解決スルコトハ素ヨリ肝要ナルモ短時日ノ後更ニ英米ノ滿洲ニ於ケル最大商權ニ根本的打擊ヲ與フ可キ石油專賣制度ヲ實施スルニ於テハ今日彼等ノ苦情ヲ緩和スルモ殆ト無意味ト存セラル

從テ此ノ際更ニ一步進ンテ曰下滿洲國側ニ於テ準備ヲ進メ居レル石油專賣制度モ成ルヘク其ノ實施ヲ遲延セシムルコト對英米關係上剝切ナルヤニ思考ス素々本件專賣制度ハ海軍ノ主張ニ基キタルモノニシテ滿洲國內ニハ石油資源ハ殆ト存立セサルニ拘ラス種々無理ヲシ滿洲國ヲシテ強ヒテ實

492 昭和9年5月22日 在滿州國菱刈大使宛（電報）

滿州國銀行法に對する我が方協力の具体的措置案修正方回訓

本 省 5月22日後5時0分発

第六〇八號

貴電第六一二號ニ關シ

御來示ノ程度ニ於テ協力ヲ與フルコト趣旨ニ於テ異存無キモ係官協議ノ結果ヲ表向ノモノトスルハ面白カラザルコト申ス迄モ無ク我方トシテハ先方銀行法ノ趣旨ヲ酌テ自發的ニ協力ヲ與フル立前ニ出テ度ニ付右御含ノ上貴電第六一三號中一ノ第一項ヲ「滿洲國銀行法ノ規定ニ於テ提出ヲ必要

トスル書類並ニ諸届ニ該當スル書類其ノ他諸届出ハ特ニ差支無キ限り日本側銀行ガ之ヲ自發的ニ日本領事宛提出スル様斡旋シ大使館ハ之ヲ財政部ニ通報スルモノトス、二ノ中段領事ノ許可認可事項ニ付テハ「滿洲國財政部ノ意見ヲ參酌シ決定スルモノトス」ニ改メ訓令相成ルコトト致度シ

~~~~~

493 昭和9年5月24日 在滿州國菱刈大使より

広田外務大臣宛(電報)

関東軍特務部より同部起案の日滿關稅協定方針要綱につき説明について

新 京 5月24日後発
本 省 5月25日前着

第七一七號

一、關東軍特務部ニ於テハ滿洲國ノ關稅改正カ同國財政部側ノ意圖ニ徵シ之カ實施ヲ見ル迄ニ今後尙數年ヲ要スヘキヲ見越シ差當リ日本ノ對滿主要輸出品ニ關スル關稅ヲ引下ケシムル目的ヲ以テ日滿間ニ關稅協定ヲ締結スルコトニ方針ヲ定メ右ニ關シ内協議致度キ趣當方ニ申入レ來レルヲ以テ係官ヲ出席セシメ二十四日特務部ニ於テ大使館

特務部及滿鐵經濟調查會等ノ各係官ノ間ニ特務部ノ起案ニ係ル「日滿關稅協定方針要綱」ニ付審議セリ(右方針要綱ハ航空便ニテ郵送ス)
二、右特務部案ハ協定ノ有效期間ヲ十年トシ協定品目ノ範圍ハ滿洲輸入日本品ニ付テハ大体日支關稅協定中ニ採用セルモノト略同様ノ範圍ノ品目ヲ撰ヒ又日本輸入滿洲品ニ付テハ農產物及鑛物ヲ主トシ約二十四品目ヲ選擇セル處右協定ノ有效期間協定品目ノ範圍及其ノ税率等ニ付テハ相當論議ノ餘地アル様認メラレタルモ本問題ニ關スル本省ノ御方針モ不明ナルニ付係官ニ於テハ特務部側ノ説明ヲ聽取スルニ止メ重要ナル點ニ付テハ後日ニ留保シ深入スルコトナク當日ノ會議ヲ終レリ
次回ハ三十日ノ豫定ナルニ付前述特務部作製ノ「方針要綱」其ノ他本問題ニ關スル何分ノ貴見至急御回示相煩ハシ度シ

494 昭和9年6月4日 在吉林森岡總領事より
広田外務大臣宛

滿洲國銀紙幣流通高の現状に鑑み景氣回復には多少のインフレ政策が必要の旨意見具申

公普通第三六四號 (6月14日接受)

昭和九年六月四日

在吉林

總領事 森岡 正平〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿洲國銀紙幣流通高ニ關スル件

本件ニ關スル菱刈大使宛六月四日附普通第二六九號公信寫御参考迄ニ送付ス

普通第二六九號

昭和九年六月四日

在吉林

總領事 森岡 正平

特命全權大使 菱刈 隆殿

滿洲國銀紙幣流通高ニ關スル件

専問家^(内)ノ談ヲ綜合スルニ現在滿洲國ニ於ケル銀紙幣流通高

ハ中央銀行紙幣一億三千五百萬圓(公表發行高)交通銀行紙幣九百五十萬圓(千九百三十三年ヨリ一ヶ年五十萬圓宛回

~~~~~

本信寫送附先

外務大臣 哈爾賓 奉天 齊齊哈爾 間島

秩父宮より満州國皇帝に対し天皇親書ならびに勅章捧呈について

付記 作成日、作成局課不明

〔満洲國帝政實施祝賀ノ爲本邦ヨリ特使御差遣二關スル件〕

新京 6月7日前発

本省 6月7日後着

第七六六號(至急)

秩父宮殿下ニハ七日午前九時四十分御旅館御發同十時御參内西便殿ニ小憩後式場ニ入ラセラル式場ニハ皇帝皇后兩陛下出御鄭總理、宇佐美國務顧問、沈宮相、謝外相、本使並ニ殿下隨員等侍立。殿下ニハ皇帝陛下ニ對シ御親書、勅記及勅章ヲ捧呈セラレ之ニ對シ皇帝陛下ヨリ別電第七六七號(音達)ノ勅語アリ斯テ御儀滯り無ク終了。殿下ニハ午前十時三十分宫廷御退下同三十五分御機嫌麗シク御旅館ニ入ラセラル奉天へ暗送セリ

(付記)

満洲國帝政實施祝賀ノ爲本邦ヨリ特使御差遣二關スル件

本件ニ關シ外陸兩省協議ノ結果満洲國帝政實施祝賀ノ爲本年四、五月頃本邦ヨリノ特使御差遣後之ニ對スル御禮ノ意味ニテ満洲國皇帝ノ御來朝アルコト確實ナルコトノ意見ニ大体一致シタルカ右特使御差遣方ニ關シ宮内省側ニ手續ヲ執ル爲ニハ本邦ヨリノ特使御差遣後之ニ對スル御禮ノ意味ニテ満洲國皇帝ノ御來朝アルコト確實ナルコトヲ必要トシタルヲ以テ右ノ趣旨ニテ満洲國側ヲ指導シ來リタル處今般在満菱刈大使ヨリ外務大臣宛電報ヲ以テ満洲國皇帝ハ來年春又ハ秋(大体春)御來朝アルコト確實ナル旨並本邦ヨリノ特使ハ皇族ニ御願致シタキ旨申越シ又關東軍ヨリ陸軍省宛電報ヲ以テ右在満菱刈大使電報ト同様ノ趣旨ト共ニ本邦ヨリノ特使ハ豫定通り本年四、五月頃御差遣アル様致度旨申越シタリ就テハ本邦ヨリノ特使御差遣方ニ關シ

大体左記要領ニ依リ陸軍側内閣等ト協議ノ上宮内省側ニ對シ必要ノ手續ヲ進ムルコトト致度

記

一、時期。 本年五、六月中  
二、期間。 二週間見當(往復ノ時間ヲ含ム)  
三、特使。 第一候補、秩父宮殿下  
第二候補、高松宮殿下  
四、隨員。 林式部長官ヲ首席隨員トシ其ノ他ノ隨員ハ宮内、外務、陸軍、海軍各省ヨリ適當ニ詮衡ス

496 昭和9年6月11日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

秩父宮と満州國皇帝の懇談振りについて

新京 6月11日後発

本省 6月11日後着

第七八六號(極秘)

往電第七七四號二關シ

御懇談ノ御模様左ノ通内報ス  
陛下ト殿下ニハ午後庭園ニ於テ陪賓ト共ニ紀念撮影アラ

ヲ去リ誠心誠意ニテ書クヲ要シ又前方ニテ紙ヲ引ク人ト書  
ク人ト同シ氣持ニテ少シモ曲ラス紙ヲ引クヲ要シ二人カ一  
心ニナラサレハ好ク出來スト述ヘラレタルニ殿下ハ之ニ答  
ヘラレ何事モ眞理ニハ變リナク例へハ滿洲國ノ建設ノ大業  
ノ如キモ筆ヲ持ツ滿洲國人ト前ニ立チ紙ヲ引ク日本人トノ  
氣持カ一致スルニ非サレハ大業ヲ成就スルコト難カ爾ヘク  
其ノ紙ヲ引ク日系官吏ノ内ニハ此ノ意ニ徹セサル者モアリ  
皇帝ニハ此ノ點ニ付テ御心ヲ痛メラレシコトモ鮮カラサル  
ヘシト述ヘラレシニ皇帝ハ殿下ノ御言葉ニ對シ深ク感謝ノ  
意ヲ表セラレ滿洲國建國ノ最初ニ於テハ人格及素養ノ點ニ  
於テ缺クル人物モ相當アリシモ近來日本政府ヨリ拔擢推薦  
セラルル人物ハ何レモ優秀ナル人物ニテ誠ニ感謝ニ堪ヘス  
今後ハナルヘク善キ人物ヲ多ク採用スルコトニ努メサルヘ  
カラス滿洲國人ノ官吏ニ付テ見ルモ建國功勞者ハ鮮ナカラサ  
ルモノ人格才幹ノ點ニ於テ優秀ナル者ヲ求ムレハ甚夕多カラス  
今後ハ人材ノ養成ト拔擢ニ力ヲ致ササルヘカラスト述ヘラレ  
尙進テ東洋平和世界人類ノ幸福ノ爲日滿親善合作ヲ徹底セ  
シメサルヘカラサル旨述ヘラレ之ニ對シ殿下ニハ全然御同  
感ノ旨ヲ答ヘラレ且東洋平和ヲ招來スル力爲ニハ滿洲國ノ

健全ナル發達カ第一ノ要件ナリト述ヘラレタル處陛下ニハ全ク其ノ通リナリト首肯シ給ベリ斯テ殿下ニハ陛下明年度ニ赴カセラル際何等カ特ニ御覽ニナリタキコト等ノ御希望ノ點ヲ此ノ際承リ置カハ歸國ノ上早速準備致スヘシト仰セラレタルニ對シ陛下ニハ殿下御出發迄ニ充分考慮シタル上申上クルコトトスヘシト御答ヘアリ更ニ殿下ヨリ日本天皇陛下ニ何カ御傳言モアラハ御遠慮ナク御申出アリタシト述ヘラレタルニ對シ陛下ニハ非常ニ感謝ノ意ヲ表セラレ之モ何レ後ヨリ申上クヘシト御答アリ尙皇帝ヨリ殿下ニ對シ誠ニ小サケレト宮中ノ庭園ニ少シク草花ヲ植付ケタレハ御滯在中御隙ノ時御臺臨ヲ願ヒ園内ヲ散歩シ支那風ノ茶菓ヲ差上ケ更ニ御懇談申上ケタキ旨ヲ述ヘラレタルニ對シ殿下ニハ何レ取調ノ上時間ノ都合サヘ付カハ御意ニ副ヒタキ旨ヲ御答遊ハサレ斯テ殿下ニハ殿下御持參ノ茶ヲ入レヨトノ御下命アリ之ヲ皇帝ニ進メラレ乍ラ之ハ東京宮城内ノ茶園ニ出來シ茶ニテ出發ノ際皇太后陛下ヨリ賜ハリ持參セルモノナルコトヲ御説明相成タルニ皇帝ハ茶ヲ喫シ乍ラ殿下ノ御言葉ヲ繰返シツツ深ク感謝ノ意ヲ表セラレタリ

編注 六月八日，在滿州國菱刈大使主催午餐會。

497  
昭和9年6月15日 在満州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

関東軍特務部より協力要請された満州国内邦

新  
京  
6月15日後発

第八〇七號

## 五 満州国をめぐる諸問題

位ニ鑑ミ本件方針カ邦人企業ニ對シ事實上強制ニ等シキ影響ヲ及ホスコトトナリ之カ爲邦人企業ヲ不當ニ不安ナル狀態ニ置キ延ヒテハ内地資本ノ満洲國流入ヲ阻止スル結果トナラサルヤノ懸念モアリ

(2)一方當方トシテハ日本法人トシテ企業ヲ爲ス權利及希望ヲ有スル邦人ニ對シ本件ヲ強制スルコト能ハサルハ勿論ノ儀ナルヲ以テ當時係官ヲシテ充分是等ノ事情ヲ特務部ニ對シ説明セシメ置キタル次第アル處最近満洲國側ニ於テハ前顯特別法ノ審議進捗スルト共ニ之カ代償トシテ本件ニ關シ日本側ヨリ何等カノ形式ニ依リ約束ヲ取付クルコトヲ希望シ居レル趣ヲ以テ特務部ニ於テハ更ニ進ンテ如何ナル種類ノ會社ヲ滿鐵附屬地内營業ヲ主タル目的トルモノト看做スヘキヤノ詳細ナル規範ヲモ審議シツツアル處當方トシテハ係官ヲシテ前顯趣旨ヲ繰返シ説明セシムルト共ニ更ニ大使館ニ於テハ滿洲國側トモ連絡ノ上治外法權撤廢問題ニ關聯シ一般課稅問題、行政法規服從問題等ニ付解決策折角攻究中ナルヲ以テ本件ノ如キハ是等根本問題解決セハ自然解消スヘキモノナルヲ以テ此ノ際本件ノミヲ引放シ一時的便法シ講シ爲ニ事態ノ紛糾ヲ來スカ如キコトハ避ケ度シトノ趣

旨ニ依リ應酬セシメツツアリ

在滿各領事へ暗送セリ

(欄外記入)

(注意)法權撤廢促進ヲ要スベシ

斯ノ如ク法權ヲナシクヅシニ撤去スルモ一方法カ?

498 昭和9年6月16日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 満州國側より同國石油輸入関稅率区分方法改

正案提議について

別電 六月十六日發在満州國菱刈大使より広田外務

大臣宛第八一二号

右改正案

|     |         |
|-----|---------|
| 新 京 | 6月16日後発 |
| 本 省 | 6月16日後着 |

第八一二號

往電第六七三號ニ關シ(石油專賣制度ニ關スル件)

通商局長及東亞局長へ谷ヨリ

(別電)

|     |         |
|-----|---------|
| 新 京 | 6月16日後発 |
| 本 省 | 6月16日後着 |

第八一二號

輸入稅表第四九五號ノ燈油及輕油ト稱スル鑛物性製油ノ區別法

一、鑛物性製油ニシテ比重「ボーメ」示度。三十三度ヲ超ヘ次項ノ點燈光度試驗法ニ依ル平均光度七燭光以上ノモノハ

燈油トシテ稅表第四九五號ニ分類ス

二、點火光度試驗

(イ)試驗用器具及裝置

499 昭和9年6月23日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 英米側より横浜正金銀行に対する満州國銀行法への対応振り照会および同行回答振りについて

本省 6月23日後6時0分発

第六九九號

試験燈、五分平火規定用燈、標準燈、「ヘフナー」、ナル  
テネック」錯酸「アミール」燈  
光度計「ブンゼン」光度計  
(ロ)豫備操作  
(ハ)試験  
○試料二百五十姫ヲ新ニ心ヲ裝備シタル試験燈油壺二入  
レ十五分以上放置シタル後點燈シ光度ヲ七、五燭光ト  
ナシタル儘三十分間靜置ス光度七、五燭光ニ達セサル  
モノハ其ノ最大光度ニ於テス  
(イ)試験  
光度ヲ調整シテ七、五燭光トナシ爾後其ノ儘一時間毎  
ニ五回光度ヲ測定ス  
(ロ)試験ニ所要ノ光度測定ヲ豫備裝置ヲ通シ七回點燈  
時間ハ通計五時間三十分ナリ  
(ハ)平均光度試験開始後毎時間始終ノ平均燭光ノ和ヲ五ニ  
テ除シタル商ヲ以テ平均光度トス  
備考  
試験用器具ノ中五分平火規定用燈トハ現在大連稅關カ  
燈油點火試験ニ使用シツツアル試験燈ヲ謂フ

500 哈爾賓へ轉電セリ

當方ヨリノ申出ニ對シ財政部ニ於テハ其ノ後技術官ヲ大連ニ派シ調査中ナリシ處今般別電第八一二號ノ如キ改正案ヲ得公表後約一箇月ノ猶豫期間ヲ置キテ實施シ差支無シトノ意見纏リタル趣ヲ以テ當方ノ意嚮ヲ確ムルト共ニ本件改正実施ノ結果生スヘキ日本業者ノ反対等ニ對シテハ當方ニ於テ適當ノ處置アリタキ旨申越ノ次第アリタルニ付テハ右ニ付御考究相成ト共ニ冒頭往電ニ對シ何分ノ儀御回電アリタシ

實施ノ結果生スヘキ日本業者ノ反対等ニ對シテハ當方ニ於テ適當ノ處置アリタキ旨申越ノ次第アリタルニ付テハ右ニ付御考究相成ト共ニ冒頭往電ニ對シ何分ノ儀御回電アリタシ

満州国内における邦人企業の満州国法人化は  
内地資本の誘導上などより反対の旨意見真申

奉天 6月23日後発

本省 6月23日後着

(1) 第二一三號 本官發滿宛電報(日滿經濟統制ノ件)

第二三四號

貴電合第三七〇號ニ關シ

一、本件ニ關スル與見ハ往電第一八八號ノ通ナル處右貴電中  
滿鐵附屬地内營業ヲ主タル目的トスルモノトハ如何ナル  
義ナルヤ明カナラサルモ單ニ附屬地内消費ヲ目的トスル  
モノトセハ右ハ極メテ限ラレタル範圍ノモノニ過キス從  
テ斯ノ如キ除外例ハ有名無實ナルヘク若シ又附屬地内ニ  
本據ヲ有スルモノトノ意義ナルニ於テハ所謂經濟統制上  
意義ナキノミナラス附屬地行政權返還ノ氣運ニ逆行スル  
モノナリ而シテ之ヲ日本側ヨリ見ル時ハ附屬地内ニ設立

三、貴電第八〇七號ノ趣旨ハ本官ニ於テモ全然同意見ニシテ  
所謂金資本會社ノ設立ヲ許容スルコトヲ條件トシテ滿洲  
國法人タラシメントスルコトハ交換條件トスヘキ性質ニ  
非サルヘク又滿洲國側ハ當事者側ニ於テ必シモ滿洲國法  
人タルコトニ反對セサルコトモアリト看做シ居ル如キモ  
右ハ事業家側ノ眞意ニ非スシテ唯日本内地ヨリ金資本ヲ  
持來リテ日本法人トシテ設立セントスルモ滿洲國當局カ  
金資本ヲ認メストカ或ハ滿洲國法人ニ非サレハ便宜供與  
ヲセサルヘシト云フカ故ニ已ムヲ得ス滿洲國法人トシテ  
設立スルノ外ナシトノ半不滿的意見ヲ漏シ居ル次第ナリ  
三、最近當地ニ於テ貴衆兩院議員一行來奉ノ際等ノ座談會ニ  
於ケル在留邦人側或ハ内地事業家ノ意見等ヲ綜合スルニ  
彼等カ最知ラント欲スル所ノモノハ日滿經濟統制ニ關ス  
ル明確ナル具体的方針ナルカ未タ所謂經濟統制具体案ノ  
公表スラナキ今日新規設立スル會社ヲ滿洲國法人トシテ

ニ非サレハ許容セストノ空氣ヲ宣傳センカ彼等ハ益々經

濟統制ノ何物ナルヤニ不安ヲ抱クト同時ニ昨今漸ク持直  
シ氣味ニ非スヤト考ヘラル内地資本ノ對滿誘導ヲ再ヒ

阻止スルニ至ル事想像ニ難カラサル處ニシテ斯ル事カ滿  
洲國ニトリテモ不得策ナルハ言フ迄モナカルヘシ

四、抑モ本件ハ滿洲國側ノ眞意カ那邊ニアリヤ明カナラサル  
モ課稅權等財政收入ヲ主タル理由トセハスル不自然ナル  
方針ヲ採ラストモ他ニ幾多ノ解決策有之ヘキニ鑑ミ本件  
ハ飽迄當事者ノ自由意思ニ依ラシメ日本法人トシテノ設  
立ヲ容易ナラシムルト共ニ之等ノ諸會社ヲ滿洲國法人タ  
ラシムル問題ハ既設ノ諸會社ト共ニ之ヲ將來ニ於ケル別  
個ノ問題トシテ研究スルコト可然シト思考ス

大臣、哈爾賓、吉林、齊々哈爾ヘ轉電シ營口、安東ヘ暗送  
セリ

~~~~~

501 昭和9年6月26日

広田外務大臣より

在満州國菱刈大使宛(電報)

満州國石油輸入関稅率区分方法の改善問題は
同國石油專売制度實施問題とは別個のものと

(一) 「ボーメ」示度三十三度以上ノ鑛物性油ハ全テ一應燈

油ト推定シ税番四九五ニ分類ス

(二) 但輸入者ヨリ申請アルトキハ點燈試験ヲ行フコト、シ

右試験ニ依リ前記示度以上ノモノト雖モ燈火用トシテ

通セスト認メラル、モノハ輕油トシテ分類ス

(三) 右點燈試験ハ貴電第八一二號ニト大体同様ノ方法ニ依

ルコト、ス唯標準光度ハ出來得レハ稍引下ケ四燭又ハ

五燭光トスルコト(標準光度ヲ七燭光トスル點ハ滿鐵

ノ納入規格ニ基クモノト思考セラル、處右ハ現在ノ煤

煙ニ依ル試験ノ標準光度ト同様ニテ稍高キニスグルノ

ノ觀アリ)

貴電第六七三號全第八一二號及全第八一二號ト共ニ奉天ニ

轉電アリ度

502 昭和9年6月27日

広田外務大臣より
在英國松平大使、在米國藤井臨時代
理大使、在中國有吉公使他宛(電報)

自由企業に関する滿州国政府の声明について

本省 6月27日後8時0分発

503 昭和9年6月28日

在ハルビン森島總領事より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国銀行法への米國側銀行の対応振りについて

ハルビン 6月28日後発

第三九〇號

本省 6月29日前着

本官發滿宛電報
第四五三號
大臣發貴使宛電報第六九九號ニ關シ(外國銀行ニ對シ滿洲
國銀行法適用ノ件)

在哈花旗銀行員ノ館員ニ語ル所ニ依レハ同行ハ日本側銀行
ノ例ニ倣ヒ任意書類ヲ滿洲國當局ニ提出スルコトトナリ
K. J. Bonner ヲ二十八日午後當地發貴地ニ派遣シ書類ヲ
財政部ニ携行セシムル豫定ナル趣ニ付右財政部ヘ御内報ア
リタシ(「ボ」ニ對シテハ財政部宛當館紹介狀ヲ與ヘ置ケリ)
尙香港銀行ノ態度ニ付テハ英國總領事ハ館員ニ對シ決定的
ノコトハ未夕承知シ居ラサルモ恐ラク日本側銀行ノ例ニ倣
フコトトナルヘシト語リ居タル趣ナリ

大臣へ轉電セリ

~~~~~

504 昭和9年6月29日  
在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方より關稅協定締結の希望があれば好意的に  
考慮する旨滿州国財政部關稅科長内話について

合第七一五號

客年往電合第五二八號ニ關シ

滿洲國政府ハ六月二十七日國防上重要ナル產業公共公益的  
事業及一般產業ノ根本基礎タル產業即チ交通、通信、鐵鋼、  
輕屬、金、石炭、石油、自動車、硫安、曹達、採木等ノ

事業ニ就テハ特別ノ措置ヲ講スルモ其他ノ一般ノ企業ニ就

テハ事業ノ性質ニ應シ時ニ或種ノ行政的統制ヲ加フルコト

アルヘキモ大体廣ク民間ノ進出經營ヲ歡迎スル旨聲明セリ

御参考迄

英ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ

米ヨリ市俄古紐育桑港へ轉電アリタシ

支ヨリ冒頭往電ト共ニ南京へ轉報アリ度

支ヨリ冒頭往電ト共ニ南京へ轉報アリ度

503 昭和9年6月28日

在ハルビン森島總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州国銀行法への米國側銀行の対応振りについて

ハルビン 6月28日後発

第三九〇號

本省 6月29日前着

貴電第七〇二號ニ關シ(滿洲國關稅改正ニ關スル件)

廿八日當館係官財政部關稅科長ニ面會ノ節關稅改正問題其  
ノ後ノ成行ニ付尋ネタルニ同科長ハ財政部稅務司ニ於テハ  
關稅總收入ニ變化ヲ來ササル範圍内ニ於テ現行關稅率中從  
量稅ト從價稅トノ著シキ不均衡ナルモノニ付速ニ是正ノ方  
針ヲ立テ目下銳意準備中ナリト答ヘタルヲ以テ係官ヨリ其  
ノ範圍及實行ノ時期如何ト問ヒタルニ同科長ハ未夕御話  
(シ)得ル時期ニアラサルモ綿製品ヲ含ムコトハ御答シ得ヘ  
シ又其ノ時期ニ付テハ成ルヘク速ニ實行スル積リナリト答  
ヘ次テ同科長ハ日本側ニ於テ關稅協定ニ付研究中ノ趣仄聞  
シタルカ滿洲國側トシテハ唯一方のニ自國關稅率ヲ引下ク  
ルコトハ政府要人ニ對シ説明スルコト困難ナルニ反シ互惠  
的關稅協定ナラハ假令其ノ利益不均衡ナルモ説明シ易カル  
ヘク旁日本側ヨリ關稅協定締結ニ關スル交渉アラハ好意的  
ニ考慮スヘシト洩ラシ居タリ

尙本件ハ財政部上司ニモ未夕協議シ居ラス單ニ貴官限リノ

御含迄ニ御話スル次第ナルヲ以テ絶對極秘トセラレ度旨同科長ハ念ヲ押シ居タル趣ナルニ付テハ外部ニハ一切洩レサル様特ニ御注意ヲ請フ

テ往電第六七三號申進ノ趣旨ニ御贊成ナルニ於テハ此ノ際一日モ速ニ態度ヲ御決定ノ上御回示ヲ得ハ本件處理上甚タ好都合ナリ

505 昭和9年7月3日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 滿州国側への石油専売制度実施延期方説得継続につき請訓

新京 7月3日後発  
本省 7月3日後着

第八五八號

通商局長及東亞局長へ谷ヨリ

貴電第七〇一號一前段ニ關シ(滿洲國稅關ノ石油分類法改正ノ件)

石油專賣ニ關シテハ當方ニ於テハ財政部當局ニ對シ夫ト無ク實施ヲ遲延セシムル様機會アル毎ニ說得ニ努メツツアル處從來ノ經緯モアリ先方ハ着々準備ヲ進メ關係法案ノ審議モ既ニ一應之ヲ了シ目下法制局ニ廻付セラレ居リ大體七月末頃公布(施行期日ハ未定)ノ豫定ナル趣ニ付若シ政府ニ於

506 昭和9年7月6日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 滿州国側の石油専売制度実施延期問題への対応振りについて

新京 7月6日後発  
本省 7月6日後着

第八八〇號

通商局長及東亞局長へ谷ヨリ

往電第八五八號ニ關シ(滿洲國ノ石油分類法改正ノ件)

奉天來電第二五五號ノ次第モアリ五日係官ヲシテ財政部總務司長ヲ往訪セシメ前記情報ヲ内示スルト共ニ本件實施ニ關シ深甚ノ考慮ヲ拂ハルル様重ネテ注意ヲ喚起セシメタル處先方ハ五月來同部顧問津下ヲシテ内地及東滿各地ニ於ケル英米各社關係者ニ就キ其ノ内意ヲ探ラシメタルニ彼等ハ大体本件實施ヲ諦メ居リ唯成ルヘク自社ノ立場ヲ有利ニ導

カントノ意向ヲ有シ居ル旨並ニ最近専門家ノ研究ニ依レハ札賚諾爾ニ於ケル石油地帶ハ特ニ有望ナルコト明カトナリタル旨ヲ語リ且從來ノ經緯ニモ鑑ミ東京ニ於ケル關係各省ノ方針一致セサル限り此ノ際本件制度ノ實施ヲ無期延期トル趣カ如キハ殆ト考慮ノ餘地ナキカ如キ口吻ヲ漏シ居リタル趣ナリ右様ノ次第二付冒頭往電ニ對シ此ノ際至急何分ノ御回電相煩度シ

尙英米側内意ニ付テハ果シテ財政部側言明ノ通ナルヤ當方ニ於テモ内探中ニ付東京ニ於テモ關係方面ニ就キ内探セラルコト然ルヘキヤニ思考ス

507 昭和9年7月12日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 関東庁の権限縮小および大使館の機構改革に

関し谷參事官より重光次官に意見具申

新京 7月12日前発  
本省 7月12日前着

第八九六號(至急、極秘、館長符號扱)  
重光次官へ谷參事官ヨリ

(1) 關東廳官制中ヨリ滿鐵線路ノ警務上ノ取締並ニ滿鐵及附屬地行政權回収ノ如キ政策遂行ノ爲ニハ中央及現地ノ機構ノ根本的建直ヲ爲スコト現下ノ急務ト存セラルルヲ以テ左ニ卑見申進ス

(2) 關東長官ヲ關東州知事(已ムヲ得サレハ長官ノ名稱ヲ維持ス)トシ現在州外ニ於テ行使スル關東長官ノ權限(遞信事務ヲ除ク)ヲ在満大使ニ移管スルコト右ノ爲ニハ

(口)關東州知事ハ之ヲ總理大臣ノ監督下ニ置キ(拓務省廢止不可能ノ場合ハ他ノ植民地同様拓相ノ監督下ニ立タシムルモ已ムヲ得サルヘシ)涉外事項ニ付テハ現行通リ外務大臣ノ監督ノ下ニ置クコト

(ハ)遞信事務ニ付テハ現行官制中電々會社ノ監督ニ關スル事項ヲ除キ臺灣ニ於ケル制度ノ如ク州ノ内外ヲ通シ遞信大臣ノ監督ニ屬セシムルコト

(二)前記以外ノ各種單行勅令ニ基ク關東長官ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ在滿大使ニ屬セシムル様適當措置スルコト

(イ)現在關東廳ノ滿鐵ニ課スル所得稅ハ相當巨額ニ上ル處(本年ハ三百萬圓ニ達スル見込ノ趣)右稅額ノ一部ハ依然州外ノ施設(附屬警察等)ニ使用セラルヘキ性質ヲ有スルヲ以テ其ノ一部ハ一般會計ニ繰入レシムル等過剩財源ノ整理ノ爲適宜措置スルコト

(三)關東廳ノ縮少ニ伴ヒ大使館ノ機構ヲ左ノ通り改ムルコト

(イ)現在ノ組織ノ外ニ地方部ヲ置キ警察事務(本事務ハ當然警務部ノ所管ニ歸ス)ヲ除ク現在關東廳ノ行ヒ居ル附屬地行政ニ關スル事務ヲ處理シ同時ニ後述、滿鐵ノ委任ヲ受ケ居ル行政事務ヲ監督シ且附屬地外ノ居留民

四、右現地機構ニ對應スル中央ノ監督機關ニ關シテハ

(イ)關東州知事ノ監督ハ前記一ノ(口)ノ通り措置スルコト

(ロ)滿鐵及電々會社ノ業務ノ監督ハ拓務省廢止ノ場合ハ總理大臣ノ下ニ置クヘキモ拓務省廢止不可能ナルニ於テハ之ヲ外務大臣ノ監督ノ下ニ置クコト

508 昭和9年7月12日 在滿州國菱刈大使より

廣田外務大臣宛(電報)

滿州國石油輸入閥稅率区分方法の改正は滿州國側原案通りとしたとの同國財政部意向について

新 京 7月12日後発  
本 省 7月12日後着

第九〇一號

通商局長及東亞局長へ谷ヨリ

貴電第七〇一號ノ二ニ關シ(滿洲國稅關ノ石油分類法改正ノ件)

財政部側ヨリ貴電(一)及(二)ニ付テハ稅關事務ノ簡易化ヨリスレハ至便ナルヘキモ輸入者側ニ對シテハ甚夕不親切ナル方ノシテ却テ不公平ヲ來スヘキコト又貴電(三)ニ付テハ日本法ニ

會、商工會議所、學校、衛生施設並ニ內鮮人移民事務ヲ處理セシムルコト

(口)監理部ヲ置キ滿鐵(但右地方部ノ所管ヲ除ク)及電々會社ノ業務ノ監督ヲ爲サシムルコト但シ鐵道及通信ハ國防ト密接ナル關係アルニモ鑑ミ軍ノ交通監督部長ヲシテ右部長ヲ兼任セシメ滿鐵總裁及電々會社社長ヲ顧問トスルコト

(ハ)右各部ノ統制モ現制ニ於ケル大使館參事官ニ於テ行ヒ得ル様仕組ムト共ニ軍トノ關係ハ參事官ト參謀長トノ間ノ事務協定ニ依リテ之ヲ鹽梅スルコト

尙軍ノ特務部ハ最近其ノ組織及機能著シク改善セラレタルヲ以テ之ヲ大使館ニ合併セシムルヤ否ヤハ軍ノ意圖ニ委スルコト

(二)尙大使カ附屬地行政ノ如キ事務ヲ行フハ不適當ナリト爲ス見解モアルヘケレト現ニ在支專管居留地等ノ例モアリ在滿大使館ノ特殊性ニモ鑑ミ大ナル支障ナカルヘシト思考セラル

(三)滿鐵ノ附屬地ニ於テ行フ教育、土木及衛生ニ關スル行政ハ經費ノ關係等モアリ當分滿鐵ヲシテ之ニ當ラシムルコトシ日本當業者側ニ於テハ相當反對ノ聲アル趣ナリ

人輸入業者ニ對シ著シキ不利ヲ來スヘクスノ如キ急激ナル不利ハ成ルヘク之ヲ緩和シ度シトノ理由ニ依リ何レモ先方原案通ニ決定シ度旨申越アリタルヲ以テ内諾ヲ與ヘ置キタルニ付御含置ヲ請フ尙財政部ノ聞込ニ依レハ本件改正ニ對シ日本當業者側ニ於テハ相當反對ノ聲アル趣ナリ

編 注 十一月十九日發在滿州國菱刈大使より廣田外務大臣宛電報第一三三九号において滿州國財政部は十二月一日より本件改正を実施することを決定した旨報告

されてゐる。

509 昭和9年7月19日 在滿州國菱刈大使より

廣田外務大臣宛(電報)

我が方の満州國關係機關調整問題に關し關東軍も谷參事官案と同趣旨の案を中央に上申について

付記一 七月二十三日付

「滿洲國關係帝國機關調整ニ關スル件」

新京 7月19日後発

本省 7月19日後着

## 第九二五號(極秘、館長符號扱)

重光次官へ谷參事官ヨリ

往電第八九六號ニ關シ

軍ヨリモ十八日別電<sup>(急略)</sup>ノ通り中央部ニ對シ電報セル處右軍案ハ當方案ト大同小異ナルヲ以テ贊意ヲ表シ置キタルニ付軍(案)ヲモ御参照ノ上本件目的達成方此ノ上トモ御盡力相煩度シ

尙軍案要綱ニ及關東州知事ヲ軍司令官兼大使ノ兼任トスル點ハ本官ニ於テ電信案閱了後旅順ニ於テ菱刈大將ノ決(裁)ヲ得タル際同大將ニ於テ特ニ加筆セルモノナル趣ナリ

## (付記一)

九、七、二三〔外陸兩省係官ノ豫備的詰合ノ結果ヲ試ニ纏メタルモノ〕

滿洲國關係帝國機關調整ニ關スル件

滿洲國ヲ獨立國トシテ其ノ健全ナル發達ヲ促スト共ニ日滿兩國間ノ特別且緊密ナル不可分關係ヲ永遠ニ鞏固ナラシム

リ成ル委員會ヲ設立シ内閣總理大臣ノ監督ニ屬セシム

## 第三、在滿帝國機關ノ調整

滿洲國ヲ獨立國トシテ其ノ發達ニ協力スルノ既定方針ニ鑑ミ先年ノ駐滿全權府案ノ如キ形式及內容ハ之ヲ避ケ滿洲國ニ於ケル帝國ノ機關ハ何處迄モ軍令機關ト外交機關ノ二ツノミットスルノ建前ヲ採リ左記要領ニ依リ調整スルモノトス

## 一、關東廳ノ縮少

(イ)關東廳官制中ヨリ滿鐵及電々會社ノ業務監督及附屬地ノ警務上ノ取締ノ權ヲ削除シ之ヲ在滿大使ニ移ス

(ロ)關東州ノミヲ管轄スル關東州知事(假稱)ヲ置キ在滿大使ノ指揮監督ニ屬セシム

## 二、在滿帝國大使館ノ構成

大使館ノ行政事務ハ監督行政ノ範圍ニ止メ現業行政ニ

墮セサルノ建前ノ下ニ簡素ナル構成トシ局長制度ヲ採用セサルモノトス

(イ)在滿大使館ニ現在ノ警務部ノ外ニ會社監督部ヲ増設シ警務部ヲシテ領事館及關東廳ノ警務監督ノ事務ヲ掌ラシメ會社監督部ヲシテ滿鐵及電々會社ノ業務監

ルノ既定方針ヲ遂行スル爲左記方針及要領ニ依リ速ニ滿洲國關係帝國機關ノ整備ヲ爲スモノトス

## 第一、中央機關ノ調整

現在ノ拓務省官制ノ如ク滿鐵其ノ他在滿特殊會社ノ監督權カ一省ノミニ偏在セルノ弊ヲ改メ總理大臣ノ總括的監督ノ下ニ外務大臣、陸軍大臣、大藏大臣等ニ於テ之カ監督ノ大綱ヲ把握シ得ル様新制度ヲ樹立スルヲ根本方針トシ左記要領ニ依リ調整ヲ行フ

(イ)拓務省官制ヲ改正シ、關東廳ニ關スル事務ノ統理竝

2、滿鐵及電々會社ノ業務監督ニ關スル權限ヲ削除ス

(ロ)內閣總理大臣ハ滿鐵及電々會社ノ業務監督ニ關シ在滿大使ヲ指揮監督スルコトトシ右ニ關スル事務ヲ掌理スル機關トシテ內閣ニ在滿業務監督局ヲ設ケ其ノ局員ハ資源局ノ例ニ倣ヒ外務、陸軍、大藏等ノ關係省ヨリモ任命ス

但シ其ノ組織ハ出來得ル限り小規模ノモノトス  
(イ)內閣總理大臣ハ必ス外務、陸軍、大藏等ノ關係大臣ニ協議シタル後ニ滿特命全權大使ニ指示スルモノトス

(ロ)右協議ニ關スル關係省ノ連絡ヲ密ニスル爲關係省員ヨリ會社監督部長ハ關東憲兵司令官ニ於テ之ヲ兼任スルコトセシメ同部部員ハ關東軍關係者ヨリモ任命スルコト現在ノ警務部ト同様トス

(ハ)會社監督部長ハ關東軍交通監督部長ヲシテ之ヲ兼任スレハ小規模ノ係リヲ置ク

三、日滿經濟會議  
日滿經濟ノ連繫ニ關スル重要事項並日滿合辦特殊會社中重要ナルモノノ業務ノ監督ニ關スル事項ヲ審議シ且必要ニ應シ兩國政府ニ建議セシムル爲左記要領ニ依リ日滿經濟會議ヲ設クルモノトス

(イ)日滿經濟會議ハ日滿兩國ノ條約ニ依リ之ヲ設ケ兩國政府ノ監督ヲ受ク  
(ロ)日滿經濟會議ハ日本側委員ハ關東軍參謀長、大使館參事官、大使館會社監督部長、日本政府

ヨリ任命派遣セラルモノヲ以テ之ニ充テ滿洲側委員ハ實業部大臣、財政部大臣、國務院總務廳長(日本ノ滿洲國指導ノ中心機關)及滿洲國政府ノ任命スルモノヲ以テ充ツ

(イ)日本側委員團ニハ隨員ヲ附シ大体現在ノ特務部ヲ以テ之ニ充ツ

### (付記二)

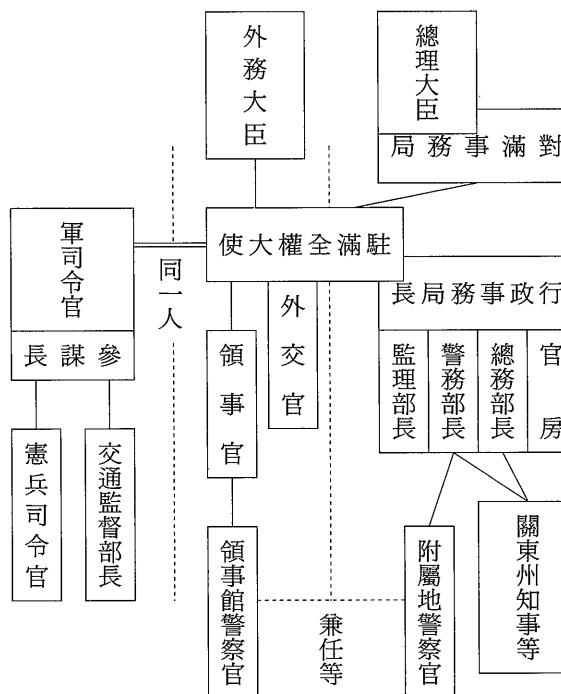
(昭九、九、四、閣議決定)

#### 對滿關係機關ノ調整ニ關スル件

- 一、内閣ニ特別ナル組織ヲ有スル對滿事務局ヲ新設シ之ニ拓務省所管ノ對滿關係事項ノ大部ヲ移管スルコト  
對滿事務局ニハ特ニ總裁ヲ置クコト  
二、現在ノ在滿機關ノ三位一体制ヲ關東軍司令官ト駐滿特命全權大使トノ二位一体制ニ革ムルコト  
三、關東州ニハ知事ヲ置クコト  
四、駐滿特命全權大使ニ對シ南滿洲鐵道株式會社及滿洲電信電話株式會社ノ業務ノ監督、關東州知事其ノ他ノ監督竝ト

二鐵道附屬地行政ヲ行フノ權限ヲ附屬セシメ之カ爲大使館ニ一事務局ヲ設置シ此ノ權限ニ付テハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬セシムルコト  
五、條約ニ依リ日滿經濟會議ヲ新京ニ常置スルコト

整備案參考圖



### 要項

- 第一 内閣ニ對滿事務局(假稱)新設シ之ニ拓務省所管ノ對滿關係事項ノ大部ヲ移管シ以テ對滿國策ノ統一ヲ計ルト  
共ニ中央機關ト現地機關トノ密接ナル連繫ヲ期スルコト

- 第二 對滿事務局ニ總裁ノ外次長(假稱勅任)以下ノ職員ヲ置クコト  
總裁ノ組織ハ其ノ地位ノ重要ナルコトニ顧ミ權威アルモノタラシムル様特ニ考慮スルコト  
總裁又ハ次長ノ中一名ハ現役武官ヲ以テ之ニ充ツルコト  
尙對滿事務局ニハ專任文官ノ外關係各廳高等官ヨリ參與ヲ命シ事務官ヲ補スル等事務連絡上必要ナル措置ヲ執ルコト  
第四 駐滿全權大使ニ對シ南滿洲鐵道株式會社及滿洲電信電話株式會社ノ監督、關東州知事其ノ他ノ監督竝ニ滿鐵附屬地ノ行政ノ權限ヲ附屬セシムルコト(單行ノ勅令

- 第六 駐滿全權大使ハ關東軍司令官ヲシテ之ヲ兼不シムルコト  
第七 第四ニ掲タル事項ノ掌理ニ當ラシムル爲駐滿大使館ニ行政事務局(假稱)ヲ設置シ事務局長(假稱勅任)及之ニ屬右事務局長及附屬職員ノ身分ハ内閣總理大臣ノ系統ニ屬シ其ノ行フ事務(涉外事項ヲ除ク)ニ付テハ内閣總理大臣ノ監督ヲ受クル資格ニ於ケル大使ノ指揮監督ヲ受クルコト  
第八 事務局長ノ下ニ必要ノ部課(例へハ官房、總務部、警務部監理部)ヲ置クコト尙行政事務局ノ組織ハ出來得ル

限り簡素ナラシムルコト

第九 關東州ニ關東州知事(假稱)ヲ置キ駐滿大使ノ監督ニ屬セシムルコト

法院、遞信局、旅順工科大學等モ大使ノ監督ニ屬セシムルコト

部長ニハ關東軍交通監督部長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルコト

行政事務局ノ警務部長ニハ關東憲兵隊司令官ヲ、監理部長ニハ關東軍交通監督部長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルコト

行政事務局ニハ軍部ヨリ補職スル事務官及外交官領事官ヨリ兼任スル事務官ヲ置クコト

第一 滿洲ニ於ケル日本側警察諸機關ハ關東憲兵隊司令官ニ於テ之ヲ統一指揮スル途ヲ拓クコト

第二 曰滿兩國經濟ノ連繫ニ關スル重要事項及曰滿合辦特殊會社ノ業務ノ監督ニ關スル重要事項ヲ審議スル爲日滿經濟會議(假稱)ヲ新京ニ常置スルコト

右會議ハ條約ニ依リ之ヲ設ケ兩國政府ノ監督ヲ受ケシムルコト

### 諒解事項

對滿關係機關ノ調整ニ關スル諒解事項

一、滿鐵等ニ對スル大藏省ノ監督ハ從前通トスルコト。

昭和九年九月十四日於閣議

總理、外務、大藏

陸軍、海軍、五大臣協定

編注 「對滿事務局官制」等の本件關係勅令は、同年十二月二十六日公布。

新 京 7月21日後発  
本 省 7月22日前着

510 昭和9年7月21日 在滿州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

拓務省農業移民計画の変更に関する関東重意  
向ならびに滿州国政府より吉林省北部土地買  
収問題の経過概要発表の予定について

(1) 第九三六號  
谷參事官ヨリ  
二六月七日附亞三機密合第八二六號費信ニ關シ  
昭和九年度拓務省滿洲特別農業移民ヲ如何ニ取扱フヘキ  
カニ關シテハ累次電報ノ通り第一及第二次移民カ現在ノ  
如キ難境ニアル關係上慎重攻究スヘキ要アリト爲シ軍ニ  
於テハ種々協議中ナリシカ最近

(1) 京圖沿線地區ニ關シテハ同地區カ政治的匪賊ノ巢窟地  
帶ナルノミナラス露國ト聯絡アル共產匪ノ策動甚シク  
軍ニ於テ近ク政治工作ヲ開始スルノ運ニアリト雖モ未  
タ完成ノ見込立タサルヲ以テ當分ノ間新タル土地商  
租ハ之ヲ避クル方適當ナリト認メラルコト

(2) 佳木斯南方小八虎力方面ニ關シテハ第一及第二次移民ノ實狀、地方先住民トノ感情、滿洲國官民ノ動向及過去ニ於ケル土地買收等ノ影響ヲ考慮シ將來ノ移民全般ニ支障ヲ來ス惧鮮カラサルヲ以テ先般研究決定セル移民安定策要領本使發哈爾賓宛電報第三二五號(往電第八八九號)ノ通り詳細別途空送スカ現實ニ實現セラルニ至ル迄ハ此ノ地區ニ入植スルコトハ絕對ニ避クル必要アルコト  
ノ理由ニ依リ本年度第二次移民ノ入植實施ヲ延期シ得サル實狀ナルニ於テハ哈爾賓郊外阿什河沿岸地區カ邦人移民主用地トシテ既ニ商租シアルノミナラス

(2) 專門家ノ調査ニ依ルモ大体移民勞農收支相償フモノト認メラルニモ鑑ミ同地區ヲ選定シ之ニ適用スル新タル移民計畫(第一、第二次兩移民團ノ實狀ト經驗トヲ考慮シ補助豫算ヲ増額スルノ要アリ)ヲ立案スルコトニ大体方針ヲ決定シタル趣ニシテ軍ニ於テハ本件方針ニ依ルニアラサレハ拓務省ノ移民計畫ニ對シ軍トシテ援助スルコト能ハサルノ相當強硬ナル態度ヲ持シ拓務省モ面子關係等ヨリ一時之ニ反對シタルモ結局本方針ニ從フコトトナリ

(1) 行政事務局長ヲ兼任大使館參事官ト爲ス場合ニハ涉外事項及領事職務監督ニ關スル事項ハ專任大使館參事官ニ於テ之ヲ主掌シ對外的儀式ニ付テモ專任大使館參事官ヲ主トナスモノトス

(2) 行政事務局長ノ任命ニ付テハ豫メ内閣總理大臣ヨリ外務大臣ニモ協議スルモノトス

昭和九年九月十四日於閣議

總理、外務、陸軍三大臣協定

三、佳木斯移民ニ關聯シ所謂吉林省在北部土地買收問題ニ關

シテハ其ノ眞相ノ公式ニ發表セラレタルモノナク當方、

内地ノミナラス海外ニ於テモ種々誤報等傳ヘラレ帝國ノ

滿洲國經營ニ關シ誤解ヲ生シタルヤノ感アル次第ハ既ニ

御承知ノ通ニシテ適當ノ機會ニ於テ正式ニ其ノ眞相ヲ發

表スル必要アルコトハ當館係官ニ於テモ軍方面ニ注意シ

置キタル趣ナル處今般軍ニ於テハ九月上旬滿洲國政府當

局談ノ形式ニ依リ(東京滿洲國公使館ニ於テハ何等處置

ヲ採ラス)當地ニ於テ本件經過概要ヲ發表スルコトニ決

定シタル趣ヲ以テ發表案文ヲ當方ニ内示シ越シタルニ付

目下内容研究中委細郵報

哈爾賓、吉林、敦化、間島ニ轉電セリ

511 昭和9年8月18日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 在満機関改革の斷固実行のため関東庁の反対

#### 策動防止など対処方意見具申

第三三四號(極秘級)

一、最近在満行政機構改革問題ニ關シ關東廳側ニ於テ蹶起セ

ントシ表面上幹部連ノ自重論唱道セラレツツアル折柄一

方當地及大連ニ於テ法權撤廢時期尙早附屬地行政權返還

絶對反對ノ聲擡頭シツツアリ今後情勢ノ如何ニ依リテハ

市民大會開催ノ如キ大衆運動化スルコトアリ得ヘシト存

セラルル處右兩問題カ同時的ニ反對的氣勢舉ケラレツツ

アルハ兩者カ相關聯スル問題ト解釋セラルル餘地アル爲

ト考ヘラルル次第ニテ附屬地行政權返還反對運動ノ裏面

ニ關東廳側ノ策動アリヤ否ヤハ別問題トスルモ二位一體

ニ對スル反對論ヲ有力化スル爲ニ附屬地返還ニ依リ影響

ヲ受クヘキ附屬地内居住者ノ返還反對論ヲ巧ミニ利用シ

乃至ハ少ク共兩者ヲ合流セシムル結果トナルコトハ想像

ニ難カラス

二、今ヤ二位一體制カ殆ト帝國對滿政策ノ既定方針化セラレ  
要ハ全權大使監督權ノ歸屬如何ニ過キサルヤニ報道セラ  
レツツアル折柄若シ現地機關或ハ一部居住民ノ反對氣勢

ト

ノ爲ニ之カ實現頓挫スルカ如キコト萬ガ一二モアルニ於

テハ帝國中央政府乃至我軍部ノ内外ニ對スル威信失墜シ

延テ其ノ在滿鮮滿人ニ對スル惡影響甚大ナルモノアルヲ

憂慮セラル加之關東廳側ニ於テハ愈同廳本位ノ政策ニ沒

頭シ纏テハ政府ト雖モ同廳ニ對シ一指ヲ染メ得サルカ如

キ地盤ヲ築クニ至ルヘク斯クシテ將來滿洲問題ハ軍部滿洲國日系及關東廳相(對)時シ帝國對極東問題遂行上ノ癌

トナラサルヲ保シ難カラサルヘシ

三、絞上ノ見地ヨリ今回ノ機構問題ハ此ノ機會ニ於テ斷乎ト

シテ解決セラルルコト絶對必要ナルト共ニ現在ノ情勢ニ

顧ミ其ノ解決永引クト共ニ其ノ間一部ノ策動者ヲシテ現

地方面ノ輿論ヲ反對的方面ニ引摺ル餘地ヲ與ヘ解決ヲ愈

困難ナラシムル虞アリト存セラルルニ付テハ此ノ際中央

政府ニ於テ

(一)機構問題根本方針中關東廳ノ州内ヘノ縮少、殊ニ州外

警察權ノ全權大使移管ノミナリトモ閣議決定方針トシ

テ一日モ速ニ中外ニ宣明セラルルコト

(二)機構問題ト法權乃至附屬地行政權撤廢問題トカ別問題  
タルコトヲ言明シ前者カ必シモ後者ノ問題解決ノ前提

ス

512 昭和9年8月22日 在奉天蜂谷總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

関東州在留邦人による治外法權撤廢および付

属地行政權返還への反対運動について

奉天 8月22日後発  
本省 8月22日後着

## 第三二六號

局一部論者ノ言ニ迷ハサレテ之ヲ放棄スヘキモノニアラスト云フニアリ

<sup>(1)</sup>二十日大連ニ於ケル在滿機構問題市民大會ノ宣言決議等ハ既ニ直接同大會ヨリ閣下宛電報セル趣ニ付委細御承知ト思考セラル、要スルニ右大會ハ未夕現實ニ何等具體的ニ提供セラレ居ラサル法權問題附屬地行政權問題ヲ捕ヘ之ト行政機構ノ問題トヲ關聯セシメ且右宣言及各辯士ノ演說内容等カ動モスレハ外務省排撃ニ陷レルコトニ付テハ其ノ動機ニ付考慮スヘキモノアリト思考ス尙同日當地ニ於テモ附屬地町内聯合會主催ノ町内會長會議ヲ滿鐵俱樂部ニ開催シ法權撤廢時期尙早附屬地行政權返還絕對反對附屬地課稅權承認反對ヲ決議スル所アリ但シ當地ニ於テハ單ニ町内會側ノ意嚮ト云フ程度ヲ出テ斯商業會議所及民會等ハ之ニ參加シ居ラス此ノ點大連ニ於ケル大會トハ趣ヲ異ニシ居タリ尙町内會側ノ附屬地行政權返還反對ノ理由トスル所ハ同行政權力日露戰役其ノ他國民犠牲ノ結晶ニシテ此ノ既得權ハ治外法權トハ別個ノ既得權ナルヲ以テ法權撤廢ノ如何ニ拘ラス存置セシムヘキモノニテ偶々二、三ノ日系官吏其ノ他中央當

局一部論者ノ言ニ迷ハサレテ之ヲ放棄スヘキモノニアラスト云フニアリ

尤モ同日聯合町内會長ト懇談ノ際本官ヨリ外務省其ノ他我當局ト雖今直ニ之ヲ返還セシメントスルモノニ非ス況ヤ日下中央ノ問題トナリ居ル機構改組問題トハ全然別個ノ問題ナルカ唯將來ノ問題トシテハ在留民發展ノ重點カ却テ附屬地外ニ置カルヘキ必然ノ趨勢タル今日日露戰爭以來ニ於ケル我對滿政策ノ到達點トモ考フヘキ滿洲國建設ヲ見タル此ノ際却テ之ト對立のニ考ヘントスレハ自殺的行爲ニ非サルヤ現ニ今ヤ奉天市政ニ對シテモ例ヘハ市參事會等ノ制度ヲ設ケ之ニ多數ノ在留邦人ヲ參與セシメント計畫シ居ル事實スラアル位ナルカスカル制度ノ實現ヲ見タル場合ニモ尙附屬地行政權ヲ殘存セシムルコトヲ得策ト考ヘラレ居ルモノナリヤト尋ねタル處事態其處迄進展セハ必シモ同行政權ヲ固執セントスルモノニ非サル旨述ヘ居リタリ御参考迄満ヘ轉電セリ

513 昭和9年8月24日 在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛

滿州国による關稅の一方的引下げは早急実施  
が困難と見られるため互惠的關稅協定締結に  
より實質的引下げを図るべき旨意見具申

(接受日不明)

公機密第一五〇七號

昭和九年八月二十四日 在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

日滿關稅協定ニ關スル件

關東軍特務部ニ於テ日滿關稅協定締結ノ計劃ヲ樹テ去ル五月以來現地案作成ノ爲當館及滿鐵經濟調查會ノ協助ヲ求メ打合會ヲ開催シ來リタル次第並ニ右特務部カ本件計劃ヲ爲スニ至リタル裏面ノ消息等ニ付テハ其ノ都度電報及公信ヲ以テ御報告ニ及ヒ置キタルニ付既ニ御閱悉ノ儀ト存セラル處元來滿洲國ノ關稅引下ニ關シテハ貴電御來示ノ通客年四月日滿產業統制委員會ニ於テ滿洲國側ヲシテ一方的ニ實質的引下ヲ爲サシムルコトニ方針ヲ決定シタル次第モアリ

且現行滿洲國ノ關稅カ從來ノ排日的支那關稅ヲ其儘採用シタル事實及之レカ爲現ニ滿洲國內ニ於テ内地産業ト競爭的地位ニ立ツヘキ同種ノ企業カ不自然ニ勃發シツツアル事態ニ顧ミ關稅協定問題トハ別個ニ前記一方的引下ケヲ爲サシムルコト極メテ必要ナリト思考セラレタルニ付特務部ニ於ケル打合セ會及其他ノ機會ニ當リ係官ニ於テ軍側ノ意向ヲ内査スルト共ニ他方滿洲國財政部側ノ意向ヲモ内債シタル處財政部側ニ於テハ關稅改正ノ意嚮ハ有スルモ之カ爲ニハ根本的調査ノ必要且其ノ改正ハ他ノ内國稅ノ整理ト相俟ツテ行ハルヘキモノナリトノ見解ヲ有シ居リ從テ我方ノ希望スルカ如ク近キ將來ニ於テ實質的且全般ニ亘ル稅率ノ引下ヲ行フ意向無キモノノ如ク(日滿產業統制ノ見地ヨリ内地重要産業ト競爭的立場ニ立ツヘキ同種ノ企業ノ滿洲國內ニ勃興スルコトヲ防止スヘシ)トスル根本方針ニ對シ滿洲國政府内日系官吏ニ於テハ表面ハ兎モ角内心必シモ贊成シ居ラサルモノ尠カラサルハ特ニ留意スルヲ要スヘシ又關東軍側ニ於テハ關稅引下其ノモノニハ異議無キモ夫レカ爲滿洲國ノ財政ニ著シキ影響アルニ於テハ寧口爲ササルニ如クストノ見解ヲ有シ從ツテ右財收ニ相當ノ減少ヲ來タスコト



償等モ充分考慮ヲ加ヘサルヘカラサルモ其ノ方法ハ急激ナ

ル影響ヲ與ヘサル様漸進的ナラサルヘカラサルコト言フ迄

モナク此ノ點充分信賴セラレ度旨說明シ引續キ滿洲國側（星野、長尾、古田）ヨリ満人ノ人心ヲ把握スルコトハ對滿

根本政策ノ一ト謂フヘク日本人カ滿洲國內ニ於ケル異分子

トナルカ如キコトハ極力之ヲ避クヘク日本人カ満人ノ内ニ

入り其ノ有力者トナル様努ムヘク満人側ヨリ附屬地返還要

求出テサル前ニ日本側ニ於テ處理セラルコトヲ希望スト

テ具體的ニ滿洲國側ヨリ見テ附屬地ノ存在カ不利不便ナル

實狀ヲ説明シ滿洲國ハ目下各般ノ施設改善中ニシテ附屬地

返還ノ場合モ現在ノ文化的施設ハ充分維持發展セシムル積

リナル旨ヲ述ヘタリ

閉會間際ニ至リ關東廳安永地方課長發言ヲ求メ稍昂奮ノ面

持ニテ附屬地ハ歴史的權益ニシテ治外法權ト全ク其ノ性質

ヲ異ニシ日本人ノ滿洲發展上絶對ニ必要ナルモノナリ滿洲國成立ノ今日附屬地ト滿洲國內地トノ連絡ニ付處理スルコ

トハ必要ナルヘキモ行政權ヲ返還スル如キハ時期ノ如何ヲ

問ハス主義トシテ絶對反對ナル旨ヲ述ヘタルヲ以テ岡崎副村立長ヨリスノ如キ官廳ノ對立ヲ暴露スルカ如キ意見ノ發表ハ

515 昭和9年9月5日 在滿州國菱刈大使より

広田外務大臣宛

治外法權撤廃ニ至るまで滿州國產業法規の邦人への適用を承認する暫定協定締結方意見具申

公機密第一五五二號

（接受日不明）

昭和九年九月五日

在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿洲國產業法規ノ邦人適用ニ關スル件

滿洲國ハ其ノ建國當初ヨリ銳意產業法規ノ制定乃至改訂ヲ急キ居リ現ニ客年九月ニハ商標法ヲ同十一月ニハ銀行法ヲ制定公布シ又近ク公布ヲ豫想セラルモノニモ石油專賣

シ或種強制力ヲ加フルノ不得已場合モアリ曰滿兩國當局ノ職務執行上ノ不便少ナカラサリシノミナラス折角法規實施

ノ實ヲ舉クル能ハサルハ勿論我カ在留民ノ迷惑モ相當大ナ

リシコトハ看過スル能ハサル所ニシテ將來幾多ノ法規公布

ノ曉ニハ此種ノ不便不利ハ一層大ナルモノアルヘシト豫想セラル

法、礦業法及會社法等ノ重要法案アリ此等ハ何レモ滿洲國自体ノ經濟發展上ハ勿論日滿產業統制上乃至我對滿通商進展上極メテ重要且密接ノ關係ヲ有シ居リ從テ之カ制定ニ付

テハ當方ニ於テモ常々內部的指導及援助ノ爲出來得ル限り

ノ力ヲ致シ居ル次第ナリ然ルニ右實施ニ關シテハ從來我方

ハ正式ノ手續ヲ避ケ罰則ノ適用ヲ留保シテ默認又ハ黙過ス

ル等極メテ曖昧ノ方法ニ依リ其ノ邦人ニ對スル適用ヲ許容

シ來リシ爲何等條約上ノ根據ヲ有セス事實上日本國民ニ對

ノ力ヲ致シ居ルノ不得已場合モアリ曰滿兩國當局ノ

職務執行上ノ不便少ナカラサリシノミナラス折角法規實施

ノ實ヲ舉クル能ハサルハ勿論我カ在留民ノ迷惑モ相當大ナ

リシコトハ看過スル能ハサル所ニシテ將來幾多ノ法規公布

ノ曉ニハ此種ノ不便不利ハ一層大ナルモノアルヘシト豫想

セラル

日滿經濟、融合發展上其ノ基調タルヘキ重要產業法規ヲ本邦人ニ對シテモ適用スルコトノ必要ナルコトハ何人モ之ヲ

認ムル所ナルヲ以テ此際大体左記ノ方針ニテ滿洲國側ト暫定取極ヲ締結シ以テ治外法權漸進的撤廢ノ第一步ニ入ルト

共ニ產業法規制定指導上ノ實ヲ舉クルコト機宜ノ措置ナル

~~~~~

ヘシト思考ス尤モ本件ハ豫テ内申中ノ内地開放課稅問題トモ密接ノ關係ヲ有スルニ付右諸問題ト共ニ一括具体案作成ノ上追テ請訓可致ニ付豫メ御含置アリ度此段申進ス

記

日本國政府ハ治外法權撤廢ニ至ル迄ノ暫定的措置トシテ滿洲國政府カ同國領域内ニ於ケル日本國國民ニ對シ左記條件ノ下ニ商標法、礦業法、會社法等ノ產業法規ヲ適用スルコトヲ承認ス

(一)滿洲國政府ハ其ノ產業法規ヲ日本國國民ニ適用セントスル場合ニハ豫メ之ヲ日本國全權大使ニ通告シテ其ノ承認

ヲ經ルコト

前項ノ產業法規變更ノ場合亦同シ

(二)罰則ノ適用ハ之ヲ我方ニ留保シ且體刑ノ本邦人ニ對スル

適用ハ之ヲ認メサルコト

(三)產業法規ノ適用ニ關シ家宅、工場、倉庫等ノ臨檢搜索等

ノ權利行使ハ日本國領事官立合ノ上之ヲ實行スルコト

本信寫送付先 在滿各公館長分館ヲ除ク)

~~~~~

古北口に満州国外交部弁事處開設の経緯について  
(9月25日接受)

機密第五八六號

昭和九年九月十二日

在中華民國日本公使館

公使館一等書記官 若杉 要〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

古北口ニ満洲國外交部辦事處設置方ノ件

古北口ニ満洲國外交部辦事處設置ノ件ニ關シテハ昭和九年八月六日附菱刈大使來信合機密第七二九號ノ通ナル處今般之カ開設ヲ見タルニ付從來ノ經過ト共ニ併セ茲ニ報告ス  
曩ニ熱河事變終了後當地方在住又ハ旅行中ノ外國人ニシテ古北口ヲ經由シ入熱ヲ希望スル者ヨリ其ノ手續ニ關シ當館宛屢々問合セ越シタルニ付當館ニ於テハ右ニ對シ滿洲國旅券規則上入國ニ際シテハ查證ヲ受クルヲ要スルモ唯古北口ニ於ケルカ如ク查證所ナキ場所ヲ經由シ入國ヲ希望スル者ニハ先ツ自國官憲ヲ通シ滿洲國外交部ヨリ豫備查證ヲ得ル必要アル旨申聞ケ置ケリ

然ル所右豫備查證ヲ得ルニハ相當ノ時日ヲ要スル上其ノ後入熱希望者次第ニ多キヲ加ヘ來レルニ鑑ミ辦事處設置ニ至ル迄ノ過渡的辦法トシテ更ニ簡易ナル取扱ヲ爲シ廣ク外國人ヲシテ熱河ノ情況ヲ知ラシムル機會ヲ與フルコトモハ一法カトモ思料シタルニ付昭和八年十月十二日附菱刈大使宛機密第一八〇號中山書記官發公信ヲ以テ照會ノ次第アリタル處追テ菱刈大使ヨリ特別便宜供與方手配スル様取計ノモ差支ヘナキ旨(昭和八年十一月七日附機第七號公信參照)回答シ越セリ

仍テ當館ニ於テハ一時右方法ニ依リ入熱希望者ニ便宜ヲ供與シ居タル處其ノ後入熱希望者ノ增加ニ伴ヒ前記ノ通々タク在滿日本大使館宛照會スルコトハ其ノ煩ニ堪ヘサル爲已ムヲ得サル措置トシテ前記照會ヲ中止シ入熱希望者ニ對シテハ一應各自國公使館ヨリ發給セル身元證明書ノ提出ヲ求メ右證明書ニ基キ在古北口日滿諸機關宛紹介狀ヲ與フルコトトセリ然ルニ當地陸軍武官室ニ於テモ同様ノ紹介狀ヲ發給

シ居リ在古北口日本憲兵隊及守備隊ニ於テハ武官室發給ノ紹介狀ノミヲ認ムル傾向アリタル爲其ノ後事實上武官室ノミヨリ之ヲ發給シ居タリ

其ノ後前顯菱刈大使來信ノ通最近古北口ニ満洲國外交部辦事處設置セラルルコトトナリ同處長外二名ハ八月十八日來平シ當館及武官室モ協議ノ上

一、辦事處開始ト同時ニ從來武官室ヨリ發給シ居リタル入熱證明書ハ以後之ヲ廢止スルコト  
二、特ニ便宜供與方ヲ希望スル外國人又ハ要注意外國人ハ當館ヨリ其旨辦事處ニ申送ルコト

ノ二點ニ付打合セラアシ古北口ニ向ヒタルカ愈八月二十九日ヨリ事務ヲ開始シタリ而シテ今後入熱希望ノ外國人ニ對シテハ左記ノ如キ方針ヲ以テ取扱ヒ度意図ナル旨古北口警察分署ニ漏シタル趣ナリ

一、入熱外國人(歐米人)ノ取扱ハ今後一切同辦事處ニ於テ處理シ國境警察隊員ハ查證手續中係員一二名ヲ之ニ立合ハ

シムル程度ニ止ムルコト

三、入熱ハ何人ト雖モ成ル可ク之ヲ拒否スルコトナク時トシテ反滿反日ノ行動ニ出ツル虞アリト認ムル場合ニモ一應

右御参考迄報告ス

本信寫送付先

公使 天津 南京

在滿大使 承德

満州国鉱業法制定に際し外国人には鉱業権を許可しないとの気運抬頭につきその対応策具申

別電 九月十四日発在満州国菱刈大使より広田外務大臣宛第一一〇八号

右対応策試案

新京 9月13日後発  
本省 9月14日前着

第一一〇七號(極秘)

満洲國ノ鑛業法制定ニ關シテハ當方ニ於テモ豫テヨリ訓令ノ趣旨ヲ体シ機會アル毎ニ關係方面ト折衝ヲ重ネ居ル次第ナル處最近満洲國側當局ノ一部及特務部側ニ於テハ日本人以外ノ外國人ニ對シテハ一切鑛業権ヲ許容セサル建前トス(欄外記入)聯合會合ニ際シテハ一部ノ強硬ナル反對アリタルニモ拘ラルノ氣分次第濃厚トナリ先般當館満洲國側及特務部側ノス鑛業法案第四條第一項及第二項(六月十四日附公機密第九九九號附屬法案參照)ヲ改メテ同條第一項ニ「但シ實業部大臣ノ特別ノ許可アリタル者ハ此ノ限りニ非ス」ノ字句ヲ

附シタルモノトナシ表面條約ニ觸レサル形式ヲ取りツツコトトスヘシトノ意見大部分ヲ占ムルニ至レリ外交部當局ニ於テ斯ノ如キ極端ナル門戸閉鎖主義ノ擡頭緩和ノ爲種々苦心ノ結果大体別電第一一〇八號趣旨ノ試案當館係官モ参加協議セリ)ヲ得之ヲ以テ各方面ヲ説得スルコトナリタル趣ナルカ本案ノ骨子ハ鑛業ニ關シ日滿間條約ニ特別ノ規定アル場合ノ外ハ日本人ト外國人トヲ全然同一ノ立場ニ置クノ主義ヲ確立實行スルト共ニ日滿間本件協定ヲ公表セントスルモノナリ惟フニ今日ノ如ク満洲國側カ外國人ニ對シテ理由モ無ク門戸ヲ閉鎖セントスル傾向アルコトハ同國ノ資源開發上甚タ憂フヘキ現象タルノミナラス一方外國人ニ對シ徒ニ表面ヲ糊塗シ事實上全然閉鎖主義ヲ斷行スルコトハ將來ノ國際關係ニ對シテモ甚タ面白カラサル影響ヲ及ホスモノト思考セラルルヲ以テ此ノ際別電ノ趣旨ノ如キ方針ヲ確立スルハ時宜ニ適セル措置ト思考ス(尤モ同案(一)發表ノ時期及後段宣言ノ如キハ篤ト考量ノ要アルヘシ本案ニ付テハ特務部側ニテモ贊意ヲ表シ居レリ)就テハ各種ノ事情御考量ノ上本案ニ對スル何分ノ儀御回示ヲ請フ

(欄外記入)  
充分研究ノ上(無益ナル閉鎖主義ヲ排ス)適確ナル回訓ヲ發スルコト  
(別電)

第一一〇八號

新京 9月14日前発  
本省 9月14日前着

ノ例ニ倣ヒ會社ヲ設立スルコトニ依リ右弊害ヲ除去スル  
(欄外記入)  
本件ハ條約上及國交上故障ナキヤ充分前以テ研究ノコト  
進するための関東軍特務部措置振りについて

518 昭和9年10月4日 在満州国菱刈大使より

広田外務大臣宛

満州国内における邦人企業の満州國法人化を推進するための関東軍特務部措置振りについて

公機密第一七八六號

(接受日不明)

昭和九年十月四日

在満洲國

特命全權大使 菱刈 隆

外務大臣 廣田 弘毅殿

満洲國內ニ設立會社ノ國籍問題ニ關スル件

(欄外記入)  
約ニ特別ノ規定アル場合及實業部大臣ノ許可アル場合ハ立シタル法人ニ非サレハ鑛業権者タルコトヲ得ス但シ條約ニ限ニアラス」トノ趣旨ニ改ムルコト  
(三)日滿間條約ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外日本人ト第三國人トヲ全然同等ノ立場ニ置ク趣旨ヲ確立實行スルコト但シ之カ爲多大ノ弊害ヲ伴フ惧アル場合ニハ採金會社

本年五月中公司法一部改正ノ件ニ關シ關係方面ノ協議會開

催ノ際軍側ヨリ「將來日本人ノ滿洲國內ニ於ケル會社ノ設立ハ滿鐵附屬地内營業ヲ主タル目的トスルモノヲ除クノ外原則トシテ満洲國法人トナスヘキ様日本側關係機關ニテ協力シテ指導スルモノトス」トノ趣旨ノ提案アリ右ニ對シ當官係官ヨリ他日公司法制定等ノ場合ニ此ノ如キ方針ヲ以テ臨ムヘシトノコトナラハ別段主義上ニ於テハ異議無キモ今直チニ之ヲ實行スルカ如キコトハ條約上其他種々ナル點ニ鑑ミ到底不可能ノコトナリトテ一應注意ヲ喚起シ置キタル趣ナルカ其後特務部側ニ於テハ更ニ進ンテ如何ナル種類ノ會社ヲ滿鐵附屬地内營業ヲ目的トスルモノト見做スヘキヤノ規範ヲモ具シテ當方ノ協力ヲ求メ來リ之ニ對シ當方ノ係官ヲシテ條約上、經濟上、現行制度上其他各般ノ事情ニ徵シ如此一時的便法ヲ講シ爲ニ事態ノ紛糾ヲ來スカ如キコトハ之ヲ避ケ度シトノ趣旨ニ依リ應酬セシメタルコトハ六月十五日往電申進ニ依リ御承知ノ通ナリ然ルニ其後特務部側ヨリハ前記ノ方針貫徹ノ爲何トカ適當ノ方法ニ依リ至急當方ノ内諾ヲ得度且領事ニ對シテモ右適宜訓令アリ度キ旨再三伸出アリタルモ我方トシテハ飽迄從來ノ主張ニテ應對スルト共ニ一方當時滿洲國側ニテハ同國法人ニ對シ當事者ノシ如此一時的便法ヲ講シ爲ニ事態ノ紛糾ヲ來スカ如キコトハ之ヲ避ケ度シトノ趣旨ニ依リ應酬セシメタルコトハ六月十五日往電申進ニ依リ御承知ノ通ナリ然ルニ其後特務部側ヨリハ前記ノ方針貫徹ノ爲何トカ適當ノ方法ニ依リ至急當方ノ内諾ヲ得度且領事ニ對シテモ右適宜訓令アリ度キ旨再三伸出アリタルモ我方トシテハ飽迄從來ノ主張ニテ應對スルト共ニ一方當時滿洲國側ニテハ同國法人ニ對シ當事者ノシ

希望ニ依リ金資本タルコトヲ許容スヘキ意向アリタル事情及治外法權撤廢ノ曉ニハ此種國籍問題モ自然ニ解決スヘキ性質ノモノタルコト等ニ鑑ミ此際便宜ノ措置トシテ特務部側ニ對シ「今後日本人カ滿鐵附屬地外營業ヲ主タル目的トスル會社ヲ設立スル場合ニ當リ領事官ニ於テ日滿產業統制上其他滿洲國法人タルコトヲ適當ト認メタル場合ニハ必要ニ應シ適當ノ條件ノ下ニ滿洲國法人タル様一應營業者ノ好意的考量ヲ促スコトトシ差支ナシ但シ右ハ全然事實上ノコトニシテ當該日本人ニ對シ條約上ノ權利拋棄ヲ強要スル能ハサルハ勿論ナル」旨極メテ輕キ意味ニテ回答シ以テ本件ヲ打切ルコトモ一案ト思考シ右ニ關シ一應在滿各領事ノ意見ヲ徵シタルニ（貴電冒頭未接到云々ノ電報ハ本件照會ノ電報ナリ）領事側ニ於テハ大体右ノ程度ナラハ異議ナキ旨ノ回答ニ接シタリ

然ルニ當時特務部側ニ於テハ當方ノ意見留保ニモ拘ハラス既ニ事實上當事者ヲ呼寄スル等ノ方法ニ依リ同部原案通りノコトヲ實行スルニ至リタルノミナラス一方當時接到セル貴電ニ依レハ東京ニ於ケル關係各省係官會合ニ於テハ本件法人國籍問題ノ項ハ後日ノ研究ニ讓ラレタル趣ナリシヲ以テ回答ニ接シタリ

テ軍側カ豫想スルカ如ク本件ヲ出先限リノ方針ニテ決定スル能ハサルコト益々明瞭トナリタルヲ以テ當方ニ於テハ領事ノ意見ヲ徵シタル前記ノ方針ニ依リ軍側ニ回答スルヲ止メ其後モ依然トシテ當初ヨリノ方針通り措置シ來リタル次第ナリ

從テ堀中佐ノ云フカ如ク右ニ關スル覺書ヲ作成シタルカ如キコト全然無シ尤モ右覺書ナルモノハ或ハ六月十四日特務部主催會合ノ際附屬地内營業ヲ主タル目的トスルモノノ範圍如何ニ付特務部側ヨリ具体案ヲ提示シタルコトアリ其ノ際當館係官ニ於テハ本件根本問題タル會社ノ國籍問題ニ付

テ反對ノ意思表示アリタル場合ニモ後日其ノ儘全部ノ贊成ヲ得タル決定案ナリトシ實行ニ取カカル例少ナカラス此邊ノ處ハ本省ニ於テモ豫メ御含置アリ度シ  
右回答旁々報告ス

#### (別添)

##### 議案一 第二號

公司法一部改正要綱中會社ノ國籍ニ關スル件

昭和九、六、一九、

關東軍司令部

方針未決定ノ際如此末節ノ問題ヲ論議スルコトハ意味ナキコトナルモ他日右根本問題カ決定シタル際ニ於ケル研究資料トスルノ意味ニ於テ意見ヲ交換スルコトスヘシトノ前提ノ下ニ審議ニ加ハリタルコトアリ其後特務部側ニテハ右或ハ之ヲ指シタルニ非サルカトモ思考ス

要スルニ今日迄幾多ノ經驗ニ徵スルニ特務部側ハ產業統制ヲ決定案（別添参照）トシテ取扱ヒ居ル趣ニ付本件覺書トハ

其他各種問題ニ付自己ノ方針ヲ建テ之ヲ原案トシテ關係方面ト協議會ヲ開催シタルカ如キ場合ニハ明カニ參加者ニ於

(一)附屬地内ニ營業所ヲ有スル小賣業  
(二)附屬地内ニ營業所ヲ有スル卸賣業ニシテ附屬地内ノ販賣  
(三)電氣、瓦斯又ハ運輸事業等ノ如ク一定ノ營業區域ヲ有スル事業ニシテ該區域ノ主要部分カ附屬地ナルモノ

四附屬地内ニ營業所ヲ有スル工業ニシテ製品ノ大部分カ附

屬地内ニ於テ消費セラルモノ

(五)接客業、娛樂機關又ハ之ニ準スルモノニシテ附屬地内ニ在ルモノ

尙支店又ハ分工場ノ設置ニ藉リ其實質ニ於テ本店ト同一ノモノヲ設置スル場合ニツキテモ右各項ノ原則ヲ適用スルコトトシ從來設立セラレタルモノニ付テモ同様ノ原則ニ依リ漸次其調整ヲ爲ス様努力スルコト

タル趣ヲ報道(冒頭往電記載ノ英米ヨリノ第二回申入レノ外目下ノ處右三國ヨリ何等申入ナシ)シ種々「コメント」ヲ加ヘ居ルモノモアルヲ以テ陸軍側トモ協議ノ上不取敢二十日午後六時外務省當局談トシテ英米兩大使館宛回答(八月三日附往信亞三機密第五五五號ヲ以テ送付濟)ノ大体ノ趣旨ヲ發表シタリ(詳細聯合ニ依リ御承知相成度)冒頭往電ト共ニ奉天及哈爾賓ニ轉電セリ

519 昭和9年10月26日 広田外務大臣より  
在滿州國菱刈大使宛(電報)

満州國石油專賣計畫に關し米英などより抗議

がなされたとの報道への対応について

付 記 外務省編『外務省公表集』第十三輯より抜粹  
〔滿洲國石油問題ニ關スル外務當局談〕

本省 10月26日発

第一〇五七號

往電第一〇五一號ニ關シ

二十五日倫敦華盛頓及海牙發聯合並ニ倫敦發電通ハ本件石油專賣計畫ニ關シ英米及和蘭三國政府ヨリ抗議提出セラレ

(付 記)  
満洲國石油問題ニ關スル外務當局談  
(十月二十六日公表)

滿洲國ノ石油統制計劃ニ付キ、英米等ヨリ日本政府ニ對シ抗議ノ申出カアツタ等ノ情報力最近英米等ヨリノ新聞電報ニ依リ傳ヘラレテ居ル處、右ニ關スル眞相ハ左ノ通テアル。本年七月二日英國大使館ヨリ、又同七日米國大使館ヨリ非公式覺書ヲ以テ、夫々滿洲石油會社ノ設立及滿洲國官憲ノ石油專賣實施計劃等ニ關シ兩大使館ノ入手セル情報ノ眞否ヲ確メ度旨ヲ述フルト共ニ、本件ニ關スル同大使館ノ所見ヲ開示シ來ル所カアツタノテ、外務省ハ八月三日次ノ様ニ

回答シタ。

一、滿洲石油會社ノ設立及滿洲國官憲ノ石油計劃自體ニ關スル滿洲國政府ノ方針ニ付テハ、帝國政府ノ關知シナイ所テアリ、從テ帝國政府トシテハ之ニ關シ何等說明ヲナス

地位ニ在ラサル次第テアル。然シ乍ラ、參考トシテ帝國政府ノ最近得タ情報ヲ記述スレハ、大要左ノ通テアル。

滿洲國ニ於テハ本年二月二十一日公布セラレタ特別法ニ基キ、滿洲國法人タル滿洲石油會社カ設立セラレタカ、右法規ハ同會社ニ何等獨占權ヲ賦與シテ居ラス、又其ノ株式所有者ニ關シテモ右法規及會社定款ハ何等國籍ニ依ル制限ヲ規定シテ居ラヌ。

目下滿洲國政府ハ歐洲諸國ノ事例ニモ鑑ミ、重要產業タル石油業統制ニ關スル法律ノ制定ヲ考慮中ノ模様テアル。情報ニ依レハ、右法案ノ趣旨ハ石油販賣ヲ政府ノ獨占トシテ統制ノ目的ヲ達シ様トルモノテアツテ、石油ノ製造、輸出入迄政府ニ獨占シ様トルモノテハナイ。又同法案ハ前記石油會社ニ對シ石油ノ製造、輸出入其ノ他ニ關シ何等獨占權ヲ與フルカ如キ規定ハ含シテ居ラヌトイフコトアル。

尚情報ニ依レハ、滿洲國側ノ計劃ニ於テハ政府カ販賣スヘキ石油ノ全部ヲ滿洲石油會社製品ヲ以テ獨占セシムルトイフカ如キコトハ考慮シテ居ラヌ模様テアル。  
二、南滿洲鐵道會社カ滿洲石油會社ニ出資シテ居ルコト、及同石油會社カ工場ヲ關東州ニ設置シタコトハ事實テアルカ、此ノ點ニ關シ何等日本側ニ於テ既存條約抵觸ノ問題ヲ生スルモノトハ認メラレヌ。  
三、以上ノ諸事情ニ鑑ミ、帝國政府トシテハ日本資本家ノ滿洲國法人タル石油會社ニ對スル出資ヲ阻止シ、又ハ滿洲國當局ニ對シ石油ニ關スル或種ノ統制ノ實施ヲ中止スルコトヲ說得スルコトハ出來ヌカ、一方滿洲國政府ニ於テハ、石油ノ購入及販賣ニ關シ現在同國內ニ在ル外商ノ利益ヲ出來得ル限り考慮スルノ用意アル趣テアルカラ、兩國利害關係者ニ於テ直接滿洲國側ト接衝セラルコト可然ト思考スルモノテアル。

以上ハ外務省ノ回答ノ要領テアルカ、尙滿洲國ニ於テハ門戶開放主義トハ、或外國ニ通商上ニ獨占的排他的ノ特權ヲ與ヘトイフコトヲ意味スルモノテアリ、從テ今次ノ石油統制制度ヲ實施スル場合ニ於テモ、右制度ニシテ日本其ノ

他外國人ニ對シ其ノ國籍ヲ理由トスル差別待遇ヲ豫定スル

モノニ非サル限り、所謂門戸開放主義ノ違反トハナラヌト

イフ見解ヲ有シテ居ル趣テアル。

(以降略)

(別添)

米國新聞記者團ノ當國視察ニ關スル報告

康德元年十月十七日

接伴員

520

昭和9年10月31日

在満州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛

### 來滿米國新聞記者團に関する満州国外交部の報告書送付について

公普通第一九六〇號

昭和九年十月三十一日

(11月5日接受)

在満洲國

特命全權大使 菱刈 隆(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

米國記者團ニ關スル報告ノ件

過般來滿セル米國記者團ノ當地ニ於ケル動靜並談話要領報  
告今般滿洲國外交部ヨリ送付越セルニ付何等御参考迄別添  
送付ス

尙本資料ハ在米各館へ當方ヨリ直接送付セサルニ付爲念申  
添フ

一、序

今回日本新聞協會ノ招待ニ依リ日本及ヒ當國ヲ訪問セル  
米國新聞記者團一行ハ本月五日早朝安東ヨリ入國シ別表  
ノ日程ニヨリ奉天、撫順、新京、哈爾濱、大連、旅順等  
ヲ視察シ十五日午前大連ヨリ離滿日本經由歸國ノ途ニ就  
ケリ。一行廿四名中二名ハ奉天視察後直チニ日本ニ引返  
シ更二十名ハ新京訪問後山海關經由北平ニ赴キ其ノ他ノ  
二名ハ十五日午后大連ヨリ海路北平ニ向ヘリ(別表參照)  
シ記者團ノ滿洲國ニ對スル關心

一行ハ何レモ滿洲ハ始メテノコトトテ見ル物聞ク物悉ク  
珍シク接伴員等ニ向ツテモ車中、宴會、席上等ヲ不問到  
ル處ニ於テ種々ナル質問ヲ發セリ。團員中特ニ熱心ニ當

國事情ヲ聽取セルハ Lydgate, Binder, Drummond,

Cameron 及ヒ團長 Mallet 氏等リシテ其ノ質問ハ廣範圍

ニ亘リ地理、歴史、政治、財政、經濟、交通等ニ跨レリ。  
就中財政、經濟、交通ニ關シテハ詳細ニ聽カントスル模

様ナリキ、撫順ニ於テハ炭坑事務所員ヨリ同地ノ事業ニ  
就キ説明アリ、奉天ニ於テハ省公署實業廳長ト會見シ同  
省ノ產業狀況ニ關スル談話ヲ爲シタリ。新京ニ於テハヤ

マトホテルニテ座談會ヲ催シ(記錄既報外宣秘五六五號  
參照)更ニ哈爾濱新京間ノ列車内ニ在ツテハ同乗セル哈

爾濱滿鐵事務所長金井清氏(元鐵道省官吏)ヲ中心トシ滿  
洲ノ鐵道ニ關スル自由討議會アリタリ。一行カ旅行中政  
府當局其ノ他ヨリ説明ヲ求メタル事項ハ當國ノ現狀並ヒ  
ニ將來ニ於ケル諸政策、見透ニ關聯シ滿洲事變ニ就キテ  
ハ追求スル者ナシ。而シテ質問ノ要點ハ

一、中央及ヒ地方ニ於ケル行政機構

二、治安狀態

三、司法制度ト其ノ運用

四、教育制度ノ現狀ト將來ノ計劃

五、滿日關係(殊ニ軍事、外交、經濟)

鴉片專賣制度ニ就キテハ直接接伴員等ニハ語ラサリシモ  
一行ヲ引率セル頭本元貞氏ニ私カニ述ヘタル所ニ依レハ  
餘り好印象ヲ持チ歸ラサリシモノノ如シ。各地ニ於ケ  
官民ノ歡待ト親切ナル友情ニ對シテハ團員等シク感銘ヲ  
受ケタル模様ナリ。

#### 四、参考事項並ヒニ所見

米國記者團員等カ間接若シクハ非公式ニ述ヘタル事ヲ綜合スルニ視察者トシテハ御馳走攻メヨリモ寧口自由時間ヲ欲シ晝食茶會等ノ際ハ成ルヘク演説ヲ拔キニセルイン

フォーマルナル會合ヲ希望ストノ事ナリ。殊ニ婦人ヲ交ヘタル團體トシテハ各地ニ於テ土產物其ノ他ノ買物ヲ爲シ得ル時間ヲ多ク與ヘラレントラ望ムカ如シ。

新京ニ於ケル座談會ハ當局ノ説明カ稍々簡單ニ過キタル嫌アリトノ口吻ヲ漏シタル者一、二有リト聞ク。

各地ニ於ケル接待プログラム實施ニ多少ノ手違ヒハ免レサリシモ一行ノ當國ニ對スル印象ハ大體ニ於テ良好ナリト謂フヘク各人共大ニ認識ヲ新ニシタル觀アリ。

團員ノ代表セル新聞ハ夫レ々「エヂトリアル・ボリシ」ヲ異ニシ極東諸問題ニ對シテモ其ノ觀ル所同一ナラス。

且必シモ排日滿系統トモ言ヒ難ク勿論親日滿系ニモ非ス、強ヒテ其ノ態度ヲ説明セハ各個々ノ問題ニ對シテハ中立若シクハ是々非々主義ナリト謂ヒ得ヘシ。一行ハ過去ノ諸事件或ハ既成事實ニ就キテハ敢テ之ヲ論議セス、寧口現狀ヲ正視シ將來ノ動向ニ注意スヘシトノ

意向ヲ示シ居レリ。團員中二三ノ者ハ四五年後再ヒ當國ヲ訪問シ發展ノ程度ヲ見極メ度キ希望ヲ有<sup>(以下略)</sup>セリ。

滿洲國政府關東軍代表者并米國新聞記者問  
懇談會ニ於ケル談話要錄

問 (神吉外交部政務司長) 現在迄ノトコロ滿日兩國間ニ締結サレタル條約ハ滿日議定書及滿日小爲替交換約定ニ過キサルカ之等ハ全原文發表サレタリ右以外ニ條約類アリヤ否ヤ言明シ得ス

答 (リドゲート) 大連ニ設立サレタル日米合資自動車組立工場ハ強制的ニ閉鎖サレタルモノナリヤ  
問 (リドゲート) 大連ニ設立サレタル日米合資自動車組立工場ハ強制的ニ閉鎖サレタルモノナリヤ  
答 (關東軍堀中佐) 國防充實ノ見地ヨリ滿洲國政府ハ國產自動車工業發展ノ目的ヲ以テ自動車統制策ヲ樹テ自國ニ於テ自動車製造及組立ノ爲特種會社ヲ設立セリ滿洲國ニ近接セル關東洲内ニ自動車組立工場ヲ設立スルハ滿洲國ノ既定自動車政策ニ違背スルモノナルヲ以テ同自動車會

答 (阪谷次長) 滿洲國政府ノ該政策ハ單ニ自動車ノ製造組立ニ限ラレ自動車ノ輸入又ハ販賣ニハ何等制限無シ

問 (堀中佐) 現在ノ政策ハソノ通りナリト承知ス  
答 (堀中佐) 現在ノ政策ハソノ通りナリト承知ス

問 (リドゲート) 御話ノ特種自動車會社ハ何時設立セラレ  
該政策ハ何時決定セラレタリヤ

答 (總務廳阪谷次長) 同會社ハ今春三月設立セラレ該政策ハ昨年後期ニ決定セラレタリ

問 (紐育サン紙ギリガン) 大連ノ自動車會社ノ營業取消ハ

滿洲國政府ヨリサレタルモノナリヤ又ハ關東軍ヨリサレタルモノナリヤ

答 (堀中佐) 滿洲國內ナラハ滿洲國政府ヨリノ指令ニ據ルヘキモノナルモ關東洲内ノ問題ニ就テハ關東廳ヨリ之ヲ

ナスヘキモノナリ、然ルトコロ滿洲國政府又ハ關東廳ノ希望ニヨリ關東軍ハ此種問題ニ意見ヲ陳ヘ得ルモノナリ

問 日本ニモ此種政策アリヤ

答 (堀中佐) 否如斯政策ハ無キモ只日本ニ於テモ國產自動車工業發展ニ對スル要望ハアリ

- (此時日本新聞協會側頭本元貞氏口ヲ容ル—此ノ問題ニ就テ一言申上ケ度キコトアリ陸相ハ米國新聞記者團トノ會見ニ於テ之カ決定ハ日滿兩國間相互ノ意見一致ニヨリナスヘシ)
- 答 (關東軍鈴木中佐) 日本軍ノ駐屯ハ其基礎ヲ曰滿議定書ニ有スルモノナルヲ以テ同議定書ノ變更ナキ限り日本軍ノ撤退ニ關シテハ出先キノ軍トシテ考慮スルヲ得ス
- 問 (ドラモンド) 日滿議定書ハ永續的ノモノナリヤ
- 答 (關東軍鈴木中佐) 期限無シ
- 問 (ドラモンド) 自分ノ信スルトコロニヨレハ如何ナル國家モ條約若ハ協約ヲ廢棄スル主權アリト思フ、滿洲國ハコノ主權アリヤ
- （此時ハースト新聞ジエームズ、ウイリヤムズ口ヲ容ル）一國ハ相手國ノ承諾無シニハ如何ナル條約ニテモ之ヲ破棄スルコト能ハス先ツ自分ノ胸中ニ浮フ手近ナ例ヲ申セハ玖馬米國間ニ締結サレタルプラット、アメンドメントテアルカ同アメンドメントハ永續性アルモノナリ）
- 答 (神吉司長) 普通ノ場合ニ於テハ(蘇聯トカ支那ノ如ク革命外交ヲ行フ國ハ別トシテ) 條約ナルモノハ相互的意

- 見ノ一致無クシテ之ヲ廢棄スルコト能ハス此ノ原則ハ日滿議定書ニモ適用セラルモノト信ス
- ウイリヤムズハ更ニ續ケテ云フー日滿議定書ニ少シク類似セル條約ハパナマ共和國米國間ニ締結セラレタル永續的條約ナルカ同條約ニ據リ米國パナマ運河防禦ニ對シ例へハ要塞ノ築造及駐兵等適當ト思惟セラル手段ヲ採ルコトカ出來ルモノナリ
- 鈴木中佐—日滿議定書ニハ議定書ノ一方的破棄ヲ規定セル條項無シ
- 問 リドゲート—過般北滿ニ於ケル百姓一撥ニ於テ滿洲國ハ如何ナル程度ノ動搖ヲ見タルヤ
- 答 (阪谷次長) 本問題ニ就テハ誤報多キヲ遺憾トス、簡單ニ眞相ヲ申上クレハ主トシテ舊政權ヲ擁護セントスル反滿分子ヤ共產黨ノ者カ善良ナル民衆ヲ煽動シテ自分等ノ運動ニ引入レントスルモノニ外ナラス、這般ノ事件ノ眞相ヲ調査スルニ事件ノ背後ニハ矢張如斯分子カ糸ヲ引キタルコト判明セリ
- 問 (ドラモンド) 然ラハ該事件ハ正當ナ理由ノ下ニ惹起サレタモノト思推セラレサルヤ
- 問 (カメロン) 現在以上移住者ヲ必要トスルヤ將又國內既二人口充分ナリヤ
- 答 (阪谷次長) 本問題ハ慎重ニ考究シ居レリ、第一ニ考慮スヘキハ過剩生産如何ノ問題第二ニ考慮スヘキハ移民ヲ入レルニシテモ入國後匪賊ニ轉向スルカ如キ分子又ハ入國後當國ノ厄介ニナルカ如キ者ハ之ヲ入ルコト能ハス第三ノ問題ハ失業者ヲ出ササルコトナリ、從テ當國ノ移民政策決定ニ際シテハ先ツ此ノ三ツノ問題ヲ慎重考究スル必要有リ、現在テハ農業移民ノ急増ヲ許サス然シ建設事業ニ從事スル労働者ニ就テハ別問題ナリ
- 問 苦力ノ入國如何、多數ノ入國アリヤ
- 答 (阪谷次長) 苦力ノ季節的入國アリ、彼等ハ主トシテ山東苦力ニシテ解氷後入國シ建設工事カ終ルヲ俟チ歸省スラサル關係上苦力ハ契約移民ニ非ス
- 問 (聖路易スター、タイムズ社長口バーツ) 苦力ハ契約移民ナリヤ又ハ自由入國者ナリヤ
- 答 (阪谷次長) 自由移住者ナリ、支那ハ滿洲國ヲ承認シ居スル一定ノ方策アリヤ
- 問 (カメロン) 滿洲國駐屯ノ日本軍ノ數如何
- 答 (鈴木中佐) 日本軍ノ數ハ發表スルヲ得ス
- 問 (バインダー) 日本又ハ他國ヨリ滿洲國ヘノ入國者ニ對スル一定ノ方策アリヤ
- 答 (阪谷次長) 一定ノ方策無シ

五 満州国をめぐる諸問題

- 問 (バイインダー) 白系露人又ハ他外國人力滿洲國ニ於テ土地ヲ獲得セントスルニ對シ制限アリヤ  
答 (神吉司長) 滿洲國ニ於テハ外國人ハ土地所有權ヲ有セス、之ハ支那ニ於ケルト同様ナリ
- 問 (ドラモンド) 之ハ總テノ外國人ニ適用サルモノナリヤ  
答 (神吉司長) 然リ、但シ日本人ハ滿洲國ニ於テ商租權ハ有スルモ土地所有權ハ之ヲ有セス
- 問 (ドラモンド) 商租ノ期限如何  
答 (神吉司長) 最長三十ヶ年トスルモ之ヲ更新スルコトヲ得、所謂開埠地ニ於テハ外國人モ租權ヲ有スルモ奥地ニ於テハ否ラス
- 問 (リドゲート) 開埠地ハ別トスルモ外國人ニシテ商賣ヲナサンントスル者ハ商租權ヲ有セストスルハ眞實ナリヤ  
答 (神吉司長) 然リ、
- (此時頃本氏口ヲ容ル一九一五年一日支條約ニ據り日本ハ南滿洲ニ於テ商賣上ニ供スル家屋ノ建築及農業經營ノ爲ノ土地ヲ商租スル權利ヲ支那ヨリ獲得セリ)

- 問 (カメロン) 市長トカ省長トカハ立法權アリヤ  
答 (阪谷次長) 否、總テ立法行政ハ中央政府ニ屬ス總テ法律案ハ先ツ内閣ニ相當スル國務院ニ提出サレ國務院ノ議ヲ經テ參議府ヘ提出サレソノ裁決ヲ仰ク、而シテ參議府ハ丁度日本ノ場合同様皇帝ノ諮詢機關タリ、而シテ法律案ニシテ參議府ノ裁決後皇帝ノ御裁可ヲ經ル場合ニハ同法律案ハ勅令トシテ公布セラル
- 問 (カメロン) 人口二千乃至三千位ヲ有スル都市ニ關スル法律案モ同様ノ手續ヲ要スルモノナリヤ  
答 (阪谷次長) 都市ニ關スル法律案ニ關シテハ民政部令ニ據リ部令ノ形式ニテ公布サル
- 問 (ドラモンド) 參議ハ何名アリヤ  
答 (阪谷次長) 九名ナリ
- 問 (ドラモンド) 國務院ハ會議最高ノ立法機關ナリヤ  
答 (阪谷次長) 然リ
- 問 (ドラモンド) 參議ノ任命形式如何  
答 (阪谷次長) 皇帝ノ特任ニヨル
- 問 (ドラモンド) 大臣ニシテ參議タルモノアリヤ  
答 (阪谷次長) 無シ

- 問 (ドラモンド) 參議府ハ法律案ヲ否決スル權限アリヤ  
答 (阪谷次長) 然リ
- 問 (ドラモンド) 事實問題トシテ參議府、國務院會議ヲ通過シタル法律案ヲ否決シタルコトアリヤ  
答 (阪谷次長) 否、法律案ヲ國務院會議ニ提出スルニ際リテハ先ツ參議府并國務院間ニ豫メ諒解ヲ遂ケ兩者間協力シ審議ヲ遂ケタル後法律案ヲ實施スルコトナル、然シ時ニヨリ參議府ニ於テ審議ヲ重ヌル爲メ法律案通過ニ時日ヲ要スルコトアリ
- 問 (ドラモンド) 國務大臣ノ數如何  
答 (川崎司長) 八名ナリ
- 問 (バイインダー) 文官採用方法如何、試驗制度ニヨルモノナリヤ  
答 (阪谷次長) 文官採用制度ハ未タ確立サレ居ラサルモ官吏採用ニ際リテハ志願者ノ能力、經驗、學歷等ヲ考慮シ情實トカ個人關係トカハ之ヲ考慮ニ入レス
- 問 (バイインダー) 日本人官吏ノ數如何  
答 (阪谷次長) 中央地方ヲ通シ約二千四百名見當ナリ、政府官吏總數ハ滿洲人、日本人其他ヲ通シ二萬四千名乃至

- 問 (バイインダー) 結局夫レハ獨占權ナリ、朝鮮人ハ土地所有權アリヤ  
答 (堀中佐) 否、朝鮮人ハ土地所有權ナシ、彼等ハ總テ小作者ナリ、從テ朝鮮人ハ舊政權時代苦楚ヲ嘗メサセラレタリ、新開地ヲ開キ之ヲ耕作スルニ及ヒ彼等ハ迫害ヲ受ケ追立ヲ喰ヒタルモノナリ、
- 問 (ドラモンド) 日滿兩國政府發表ノ文書ニ據レハ滿洲國ノ獨立ハ三千万大衆ノ自由意思ニヨルモノナリトノコトナルカ所謂三千万大衆ノ意思ナルモノハ如何ナル形式ニテ表現サレタルカ
- 答 (神吉司長) 三千万民衆ノ意思ハ民衆指導者達ヲ通シ表現サレタリ丁度支那ニ於ケルカ如ク地方ノ指導者ハ地方民衆ノ代辯者ナリ、
- (此時外交部川崎宣化司長口ヲ容レ所謂奉天事件發生後滿洲ノ民衆カ支那ヨリノ獨立ヲ實言シ東北行政委員會ノ組織トナリ新國家樹立ニ至リタル經緯ヲ簡單ニ説明ス)
- 問 (バイインダー) 省議會若ハ帝國議會ナルモノアリヤ  
答 (川崎司長) 省議會ナク又米國ヤ日本ニ於ケルカ如キ議會ハ無キモ立法院ナル特種ノ機關アリ、

二萬五千名トス

問 (バイインダー) 官吏ハ一定ノ契約年限アリヤ  
答 (阪谷次長) 否

問 (バイインダー) 同等官吏ニ於テハ日満人官吏ノ俸給ハ同額ナリヤ

答 (阪谷次長) 然リ

問 (ドラモンド) 滿洲事變以後ニ於テ日本カ満洲ニ投資シタ資本額幾何ナリヤ

答 (阪谷次長) 約五億圓見當トス

問 (バイインダー) 滿洲國ハ外債ヲ起シタリヤ

答 然リ建國公債二千萬圓、都市建設公債壹千萬圓ナリ

問 (バイインダー) 之等ノ公債ハ公募シタルモノナリヤ、又ハ日本政府ヨリノ借款ニヨリタルモノナリヤ

答 (阪谷次長) 公募ニヨリタルモノニテ日本政府ヨリ借款シタルモノニ非ス、尙ホ同公債ハ東京、大阪等ノ市債ヨリモ好條件ヲ以テ保證サレタルモノナルカ日本ヨリ保證シタルモノニ非ス

問 (ウイリアムス) 阿片耕作ヲ減少セントスル手段ヲ講シ居レルヤ

521 昭和9年11月5日 在米国齋藤大使より

広田外務大臣宛(電報)

満州国石油專売問題に関する新聞記者などへ

の応答について

ワシントン 11月5日後発  
本省 11月6日前着

第四八一號

貴電合第一一五八號ニ關シ

當地方ニ於テ本件ヲ特ニ重要視シ居ルハ御承知ノ通リニシテ從テ屢々新聞記者其ノ他ヨリ質問アル所本使トシテハ其ノ都度滿洲國ハ勿論門戸開放主義ヲ維持シ居ルモ獨立國タル以上國策上ノ必要アル場合ハ其ノ經濟乃至財政上ニ或種ノ統制ヲ加フルコトハアリ(得)ヘシ尤モ右統制ハ國籍ニ依

答 (阪谷次長) 然リ、當國ノ信用ヲ傷ケンカ爲メ或ル人々ハ世界ニ向ツテ反對宣傳ヲナシタルモ阿片裁培面積ヲ減シ居レリ、最近ノ國務院會議ニ於ケル報告ニヨレハ阿片耕地面積ハ前年度ニ比シ約四割減トナレリ

(以上)

ル差別待遇ヲ爲シ居ラサルニ付テハ門戸開放主義違反トハ成リ居ラサル譯ナルカ萬一該統制ニ依リ機會均等カ損傷セラレタリト考フル向アラハ遠慮ナク關係當局ニ申入レラナルハ可ナルヘク右カ相當理由アリトセハ滿洲國政府モ適宜之ヲ調整スルニ吝ナラサルヘク又理由ナケレハ取上ケサルノミナリトノ趣旨ニテ事ノ内容ニ立入ラス説明シ居ルモノ内容ニ付テ適當説明ノ材料アラハ御回電ヲ請フ又日本ノ六箇月貯油ノ件ニ付テモ機會均等違反ニ非サルコトヲ概念的ニ説キ居レルモ之亦然ルヘク説明材料御垂示アリ度シ尙機會均等門戸開放トハ要スルニ Commercial justice and fairness 之觀念ニ他ナラス歐米人カ東洋ニ特殊ノ權益ヲ有スルモノニアラサルコトノ説述ニ努メ居レリ  
紐育、桑港へ轉報セリ

522 昭和9年11月9日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

今次満州国閩税改正の内容について

新 京 11月9日後発  
本 省 11月10日前着

(1) 第一二九七號(極秘)  
本使發在滿各領事宛電報  
合第五八七號

滿洲國ニテハ客年七月第一次關稅改正後之カ根本的改正ニ關スル調査研究ヲ進メ來タリタルカ其ノ後貿易情勢ノ變化國內產業政策ノ具体化等ニ伴ヒ前記根本改正ヲ待タス速ニ第二次暫定的改正ノ必要ニ迫ラレ日本側トモ内交渉ヲ遂ケタル上最近漸ク成案ヲ得タルヲ以テ愈來タル十二日國務院會議十三日參議府會議ヲ經タル上十四日頃公布發表約一週間後ヨリ實施スルコトトナリタル趣ナリ今次ノ改正ハ關稅率並ニ稅制ノ改正整備ヲ併セ行ハントスルモノニシテ  
(一) 輸入稅率改正ハ百十八品目ニ亘リ綿糸布(從量稅ノ相當引下ケ從價稅ノ多少ノ引上ケニ依リ兩者ノ權衡ヲ是正ス)食卓用瓶詰及罐詰果實、清酒、扇、傘、護謨靴及綿製護謨底靴、新聞印刷用紙、絹綿交織繡子、絹(蠶糸及人絹)織物、鮑、乾魚、長切昆布、琺瑯鐵器、藁臼(以上稅率引下ケ)小麥及小麥粉(新ニ稅率設定)自動車(「トラック」及乗用車ヲ從來ノ乗用車稅率ニ統一シ車台ヲ除ク部分品稅率引下ケ)酒精(多少引上ケ)屑黃麻、屑鐵(引下)栽培用種

子、栽培用及接木用植物、農具及同部分品(無税)「ミネラル(脱)」、「ターベンティン」、傘、或種布帛(分類合理化)ニ付夫々改正ヲ行ヒ

(2)輸出税ニ付テハ木材、石炭、牛肉及毛製地氈○其他ノ畜產品並ニ農畜產製造(品)及麩、種實粕、比麻子油、高粱酒等

二十三品目ニ付現率又ハ無税ニ改メタル外稅制整備トシテ

(3)(イ)松花江ニ於ケル轉口稅ヲ廢止セルコト

(ロ)同江航運用貨ニ對シ納稅濟證ヲ必要トスル制度ヲ廢止

セルコト

(イ)輸入品ニ對シ原則トシテ内國稅ヲ賦課セサルコトトシ

「セメント」紙巻及葉巻煙草、微麵子、小麥粉ニ對ス

ル統稅ヲ廢止シ酒類、苦汁及芒硝等ノ輸入品ニ對スル

内國稅ヲ廢止セルコト

(ロ)賑災附加稅法ヲ整備(綿絲布ニ對シテハ本政府課稅ヲ

廢止セリ)セルコト

等重要ナル改正事項ナリ

右貴官御含ミ迄尙本件ハ滿洲國側ヨリ正式發表迄ハ絶對ニ

外部ニ洩レサル様御注意アリ度シ

本電宛先在滿各總領事、領事及分館主任、支、北平、天津、

ヲ交換シタル結果別添ニ未定ト記載シアル事項ハ將來ノ研究ニ待ツコトトシ其他ノ事項ニ就テハ大体異議無ク可決セルニ付不取敢報告申進ス

本信寫送附先 在滿各公館長(分館、出張所主任ヲ除ク)

(別添)

滿洲農業移民根本方策案提出理由(案)

昭九、二〇、一六

關東軍特務部

關東軍ハ昭和七年以降滿洲移民ニ關シ數次ニ亘リ其時機ニ

於テ必要ナリト認メタル諸案ヲ提出シ以後既ニ約二ヶ年ヲ

経過シタリ

此期間ニ於テ滿洲國家ノ建設ハ着々トシテ進捗シ日滿兩國間ニ於テハ日本人移民ニツキ特別ナル考慮ヲ要スルノ機運ニ到達セリ

北滿ニ於ケル試驗移民モ歲月ヲ經ルニ從ヒ將來滿洲移民實行ニ當リ特ニ參考トスヘキ重要ナル各般ノ資料ヲ提供シツアリ

滿洲農業移民根本方策(案)

昭九、二〇、一六

關東軍特務部

一、趣旨  
滿洲國建國ニ際シ日滿兩國ハ其ノ一體不可分ノ關係ヲ基調

トシテ五族協和ノ實ヲ發揚センコトヲ宣明シタリ  
滿洲國ハ日本國民ノ來住ニヨリ

(1)產業ノ開發

(2)文化ノ向上

(3)國防ノ充實

等ニ對シテ多大ナル貢獻ヲ受クヘク

日本國ハ國民ノ滿洲移住ニヨリ

(1)建國的精神ノ擴充

(2)各種社會問題ノ解決

滿洲國及滿鐵ヨリ臨機ノ出資ニヨリ移住用地約百萬町歩ヲ

青島、廣東、香港、芝罘  
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ  
大臣へ轉電セリ

編注 本改正税率は同月二十二日より実施。

523 昭和9年11月12日 在滿州國菱刈大使より  
公機密第二〇三〇號 広田外務大臣宛

関東軍特務部が作成した滿洲農業移民根本方策案の送付について

昭和九年十一月十二日  
在滿洲國  
特命全權大使 菱刈 隆(印)  
(11月26日接受)

外務大臣 廣田 弘毅殿  
滿洲農業移民根本方策案ニ關スル件

本年十月十八日十一月七日ノ兩回ニ亘リ特務部ニ於テ聯合研究會ヲ開催(軍、滿洲國政府、滿鐵、當館各係官出席)特務部作成ニ係ル別添滿洲農業移民根本方策案ヲ附議シ意見

而シテ對滿移民政策ノ實行ハ國策的意義ヲ有スルコトニ於

テ諸他ノ邦土ニ對スル移民關係ニ比シ絕對的ニ重要且緊急

ヲ要スルモノト認ム

## 二、方針

第一 日本國民ノ滿洲移住ハ日滿兩國協力シテ之ヲ獎勵實施ス

第二 日本國政府ハ日本人海外移住ニ對シ滿洲重點主義ヲ採ル

第三 日本人ノ移住ハ滿洲國ノ產業、交通、治水、土地調査及都市計畫等ノ諸政策ニ順應シ現地適應主義ニ依ル

第四 日本人ノ集團的移住ハ主トシテ北滿各地、南滿遼河流域、京圖線沿線等人口ノ稀薄ナル地域ニ實施ス

第五 日本人ノ移民ハ主トシテ集團的自作農移民ト爲スモ

土地ノ狀況ニ依リ分散混住セシム

第六 日本國政府ハ集團的自作農移民ニ重點ヲ置キテ補助ヲ爲ス、其他ノ移民ニ對シテモ適當ナル補助ヲ爲ス

第七 朝鮮人ノ移住ハ適宜之力統制ヲ圖リ主トシテ間島、東邊道地方ニ移住セシム

附

1、滿洲ニ移住スル日本人ノ國籍ニ關シテハ國籍法審議ノ際ニ讓ル

2、日本農業移民ノ權利義務ハ治外法權ニ抵觸セサル方法ニ依リ實質的ニ滿洲國人ト同様ニ取扱フ

3、中華民國人ノ入國ハ當分ノ間之ヲ制限ス

## 三、實施要綱

第一 日滿兩國政府ハ日本人ノ滿洲移住ノ本義ヲ鮮明スルタメ公文ヲ交換ス(未定)

第二 日本人移民實行ノ爲營利ヲ主眼トセサル日滿兩國法

人タル日滿合辦ノ特殊會社ヲ設立ス(別紙第一參照)

第三 日滿兩國政府ハ右會社設立ニ關シ條約ヲ締結ス(別紙第二參照)

第四 日本國政府ハ滿洲ニ於ケル日本人移民ヲ助成スル爲滿洲移民補助ニ關スル法令ヲ制定ス(別紙第三參照)

第五 日本人移民ヲ助成スル爲既設ノ移民助成機關(海外協會等)ヲ活用ス(別紙第四參照)

第六 朝鮮人移民ノ實施ハ駐滿帝國最高機關ト協議ノ上當分ノ間朝鮮總督府之ヲ取扱フ(別紙第五參照)

第七 滿洲國政府ハ移民事務取扱ノ爲適當ナル機關ヲ設置ス(別紙第六參照)

編注 別紙第一～六は省略。

524 昭和9年11月16日 在チチハル内田領事より

広田外務大臣宛

不良邦人の嚴重取締方を管下警察官に訓示について

(11月24日接受)

昭和九年十一月十六日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

在滿蒙大使宛 十一月十六日附 機密第六八一號

左記件名公信寫送附ス

件名 不良邦人取締方ニ關シ管下警察官ニ對スル訓示送附ノ件

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

不良邦人取締方ニ關シ管下警察官ニ對スル訓示

送附ノ件

不良不正邦人取締方ニ付別紙寫ノ通り訓示シ置キタルニ付委曲別紙ニ依リ御了承相成リ度ク此段報告ス

本信寫送附先 外務大臣

不良邦人取締方ニ關シ管下警察官ニ對スル訓示

今回當地ニ於テ開催セラレタル黑龍江省各縣參事官會議ニ

於テ不良邦人ノ取締方ニ付論議アリ本官ヨリ當館トシテモ不正不良分子ヲ庇護スル意思ハ毛頭ナキモ何分奥地各地ニ悉ク我警察官ヲ配置スルコト不可能ナルヲ以テ當分ノ間ハ

日滿協力ノ下ニ取締ニ當ル外ナク就テハ今後ハ事實ヲ指摘シ當館又ハ警察分署乃至派遣所ニ通報アリ度當館側トシテ

ハ手ノ届カサル場合ハ満洲國機關ノ援助ヲ求メ取締ヲ斷行スヘキ旨應答シ置キタリ

元來満洲問題ハ我日本トシテ極メテ重大問題ニシテ單ニ邦人ノ爲メノ殖民地化ニ重點ヲ置キ邦人ノ入込ミヲ獎勵歡迎スルヲ以テ足レリト爲スカ如キ小問題ニ非ス満洲國ハ表面獨立國ナルモ内實ハ保護國以上ニ我國ト緊密ナル國家タラシムヘキ高遠ナル理想ニ基クモノニシテ是カ爲メニハ満人ヲ我方ニ引付ケ以テ其ノ恩澤ニ浴セシメサルヘカラサル次第ナルカ一部邦人中不良不正分子アリテ満人ニ反感ヲ懷カシムルカ如キコトアラハ此大理想モ之カ爲メ禍セラルヘク其ノ影響スル處鮮少ナラス由來在満日本人ノ素質不良ナリトノ定評アリ

我等外務職員ハ邦人保護ノ任ニ在ル爲邦人ヲ庇護スルノ傾ナキニ非サルモ我等ハ同時ニ取締ノ重責ヲ有スルモノナルカ故ニ正ハ保護シ不正ハ取締ルヘク其間嚴然タル分界ナカラサルヘカラス満洲問題ハ簡單ニ邦人ノ活動舞台ヲ廣メ「ルンペニ」乃至ハ不正分子ノ横行ヲ許サン爲ノ満洲問題ニ非サル點ヲ特ニ考慮シ一部下級者ノ非難アリトモ屈セス不正不良分子ハ嚴然トシテ之ヲ取締リ苟モ法ニ觸ルルモノ

## 在 滿

臨時代理大使 谷 正之殿

### 朝鮮清津ニ満洲國領事館設置方ノ件

本件ニ關シテハ本年十月末不取敢電報ヲ以テ申進置キタル處其ノ後關係方面ト協議ノ結果満洲國ノミカ清津ニ領事館設置スルハ差支無キ次第ナルモ、同地ニハ未タ何レノ國ノ領事館モ開設セラレ居ラサル關係上満洲國領事館開設ヲ承認スルニ於テハ第三國ノ領事館開設ヲ拒否シ得サルコトトナルヘク、右ハ軍事上ノ理由ニ基ク困難ヲ生スル虞アルニ付満洲國領事館開設ハ一應之ヲ思止マラシムルコト可然トノ意見ナルニ付テハ右御含ノ上本件一時見合方満洲國側ニ回答相成度此段申進ス

(欄外記入)

一、清津ニ支那副領事及館員一名事實上駐在ノ件奥村君ニ話済

二、陸軍大城戸中佐等ヨリ軍側意向並ニ通報アリタルモノナル由

三、海州ノ件変改ヲ要スヘシ 太田

十二月十四日記

## (付 記)

在清津満洲國名譽領事設置ト在清津支那領事館新設問題トノ關係

(九、十、二五、亞、二)

一、清津ニ支那領事館開設ノ件ニ關シテハ曩ニ昭和五年二月二十一日附汪公使宛公文ヲ以テ我方トシテハ右領事館新設ニ主義上異議ナキ旨並ニ(臺北、臺南)清津ニ於ケル支那領事館開設ト同時ニ日本側帽兒山洮南及帽兒山ニ關シテハ支那側設方ニ同意アリ度旨回答ノ次第アリ鄭州臺北領事館ハ其ノ後開館ノ運トナレルモ洮南及帽兒山ニ關シテハ支那側内部ニ種々ノ事情アリ遂ニ實現ノ運ト至ラサリシ處國民政府側説明ニ據レハ同政府ニ於テハ前記我方公文漢譯上ノ誤ヨリ右我方公文ハ「日本側ハ支那側開館ニ同意ナリ若シ日本側ヨリ帽兒山等ノ開館ヲ申出タルトキハ同意アリ度」旨述ヘタルモノト解シ居タル趣ニテ清津等ノ開館手續ヲ進捗セシムルト共ニ五月十九日附ヲ以テ在本邦江代理公使ヨリ清津領事トシテ元元山駐在副領事馬永發ヲ任命シタル旨通報アリ一方馬領事ハ五月十二日朝鮮總督府ニ<sup>(挨拶)</sup>挨拶ノ爲出頭シタル趣ナリシヲ以テ我方ニ於テハ五月二十二日附同代理公使宛公文ヲ以テ曩ノ二月二十一日

ハ法ニ照シテ處分スヘク其他法ニ觸レサルモ不正不良ノ所爲アリテ其ノ居住ヲ歡ハサル分子ハ退去處分ニ附スル等適切ナル處分ヲ以テ之ニ望ミ不正不良分子ヲ一掃シ以テ外務省警察機關ノ威信ヲ發揮スルト共ニ崇高ナル對滿政策ノ達成ニ貢獻スヘク努力セラルヘシ

右訓示ス

昭和九年十一月十四日

内田領事

525 昭和9年12月13日 広田外務大臣より  
在満州國谷臨時代理大使宛

朝鮮清津への満州國領事館設置は見合わせの

## 方針について

付 記 十月二十五日付、東亜局第一課作成

「在清津満洲國名譽領事設置ト在清津支那領事館新設問題トノ關係」

亞三機密第九七四號

昭和九年十二月十三日

外務大臣 廣田 弘毅

## 五 満州国をめぐる諸問題

(欄外記入)

附公文ニ對シ支那側カ何等回答ヲ爲ササル儘清津領事館新設ヲ通報越セルハ支那側ニ於テ帽兒山等三館ノ開設ニ同意シタルモノト了解シ右開設ニ着手スヘキニ付其ノ旨本國政府ニ傳達アリ度趣回答スルト共ニ朝鮮當局ニ對シテハ本件何分ノ決定ヲ見ル迄新任清津領事ト立入りタル接觸ヲ差控ヘシムルコトシタル處一方馬領事ハ六月十日館員ト共ニ清津ニ來住シ假事務所ヲ設ケタル趣ナリ追テ清津ニ支那領事館設置ニ關シ當時朝鮮總督府ヨリ同總督府トシテハ別段異存ナシ但朝鮮軍側ニ於テハ軍事上ノ見地ヨリ同地ニ外國領事館ヲ設置スルコトニハ同意シ難キモ若シ外交諸般ノ關係上大局ヨリ見テ清津ニ設置承認已ムヲ得スト認メラル場合ニハ國境防備ノ見地ヨリ同時ニ從來ノ懸案タル帽兒山領事分館ノ設置ヲ主張シ居ル趣回示アリタリ

一、滿洲國成立ト共ニ洮南及帽兒山領事館設置問題、朝鮮防備上ノ問題等ハ事態變更セルモノト認メラル處在清津滿洲國名譽領事新設ト共ニ支那側トシテハ法理上ハ日支通商航海條約第二條第三項「、、「、他國ノ領事官、」

、「」云々ヲ引用シ清津領事館ノ正式開館乃至ハ支那領事ノ正式待遇等ヲ要求シ得ル次第ナル處此ノ場合若シ我方ニ於テ支那領事官ノ清津駐在ヲ希望セサルニ於テハ洮南、帽兒山ノ代リニ海州梧州等ヲ要求シ事實上支那領事館ノ新設ヲ延引セシムルモ一案ナルヘク(「他國ノ領事官」ナル辭句ハ名譽領事ヲ含マストノ說モアル由)或ハ支那側ヲシテ現在ノ(昭和九年五月二十四日丁參事官ノ桑島局長ニ對スル談話ヨリ察スルニ支那側ニ於テハ清津ニ元山領事館出張所ヲ設ケ今尙所員ヲ常駐セシメ居ルモノノ如シ)清津駐在支那領事官ヲ一應元山等ニ引揚シメタル後更メテ清津開館方要望セシメ其ノ上ニテアツサリ之ヲ許可スルモ可ナルヘク何レニセヨ滿洲國側トノ關係ヨリ發生スルコトアルヤモ計リ難キ本件支那側トノ交渉ハ事實甚々迂遠ノ問題ナルノミナラス將來萬一其ノコトアリトスルモ其ノ際ハ我方ノ腹次第二テ政治的ニ可然ク解決ヲ遂ケ得ヘキ問題ナリト認メラル

## 2 満州国における邦人への課税問題

526 昭和9年2月2日

在滿州国菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

滿州国による邦人への糧商營業稅課稅默認方

意見具申

新京 2月2日後発  
本省 2月3日前着

本使發在滿各領事宛電報  
合第五四號  
第一三二號

一、二十九日源田稅務司長及田村國稅科長吉林稅務監督署員ト共ニ來館間島地方朝鮮人穀物商ハ糧商營業稅法(客年十一月三十日附政府公報參照)ニ基ク申告書提出ヲ拒ミ居ル處本來滿洲國財政部ニ於テハ右糧商營業稅法ト同時ニ公布シタル出產糧石稅法ノ默認方大使館側ニ諒解ヲ求メタル際右營業稅法ノ默認ヲモ含メタル趣旨ナリシモ說明不充分ナリシ結果大使館ヨリ領事館へ發シタル訓令ハ單ニ出產稅ノミトナレル次第ナルカ滿洲國トシテハ從來

ノ出產稅ヲ整理シ之ヲ一律ニ低下シ又銷場稅ヲ廢止スルニ至レル等極メテ合理的ニ關係稅法ノ整理ヲ行ヒ居リ稅率モ左シテ高カラサルニ付テハ本稅默認方御盡力ヲ請フ旨申出來リタリ右ニ對シ係官ヨリ本件營業稅ハ出產稅ト異リ實質ハ兎ニ角形式ハ直接稅ナルヲ以テ大臣宛往電第一四五三號<sup>(編註)</sup>ニ對スル本省回訓ナキニモ鑑ミ即答致兼ヌル旨答ヘ置ケル趣ナリ

二、然ルニ本邦人ヲシテ漸次滿洲國稅法ニ事實上服從セシムル處置ヲ採ルコトハ同國財政ノ援助及日滿兩國人ノ公平負擔延テハ日滿關係ノ精神的融合ノ爲極メテ緊要事ナル次第ニシテ本稅ノ如ク既ニ默認シタル出產稅ト不可分ノ關係ニ在リ且稅率其ノ他ニ於テモ整備シタルモノヨリ之カ事實上ノ服從ヲ認ムルコト適切ナルト認ムルニ付テハ資本金額ニ付滿洲國側ノ勝手ナル査定ヲ防止スル爲稅捐局ニ於テ右査定ヲ爲ス場合ハ之カ決定ニ當リ豫メ所轄領事館ニ協議セシムルコトノ條件ノ下ニ本件稅法ヲ默認スルコトト致シ度シ本件當方意見決定ノ上ニ於テ必要ニ付貴見至急御回示相成度シ

尙本件營業稅ノ商埠地内課稅問題ニ付テハ諸般ノ關係上